2026 年 3 月

岐阜県立看護大学

共同研究事業 25ヵ年の実績と成果

－ 2000～2024 年度の活動の軌跡 －

岐阜県立看護大学
GIFU COLLEGE OF NURSING

巻頭言

岐阜県立看護大学は、看護学の高等教育機関として、県内における看護の質の向上を使命として、平成 12 年度（2000 年度）に設立されました。この使命を果たすために、開学当初より、岐阜県内の看護職と本学教員との共同研究事業を推進し、地域に根ざした看護の発展に貢献してまいりました。

共同研究事業は、本学の理念である「看護サービスの質向上に広く貢献できる人材を育成するとともに、岐阜県内の看護実践の場と連携して現場の課題の研究を行い、実践性・応用性の高い看護学の確立を行う」を実現するための基本的な活動であり、大学の教育・研究活動の地域基盤づくりとして全学的に取り組む事業であります。

県内看護職が直面している課題を取り上げ、現地看護職と教員が対等の責任において、各々の役割を果たしながら、課題解決に向けて看護実践研究に取り組むことを重視しています。共同研究では看護実践研究の手法が用いられており、看護実践の改善・改革や人材育成の充実を導いてきました。

共同研究事業は、令和 6 年度（2024 年度）をもって開始から 25 ヵ年が経過し、これまで取り組んだ研究課題数は延べ 525 課題、現地看護職の共同研究者数は延べ 3,248 人に達しました。研究内容は、地域の保健福祉活動、在宅療養・退院支援、育成期や成熟期にある人々を対象とした看護、看護職の人材育成など多岐にわたっています。また、卒業者や修了者も現地側共同研究者として参画しています。

近年、我が国は人口減少・超高齢社会を迎えると共に、急速な DX 化、看護職の役割拡大や多様な働き方など、保健医療福祉介護等に関わる社会環境は急速に変容してきています。本学が公立の看護系大学として県内の看護の質向上に寄与し続けるためには、将来を見据えた本事業のあり方・方法の再考が喫緊の課題であると考えます。

今回、本事業の 25 ヵ年の実績を提示することに加えて、共同研究者からの聞き取り結果から捉えた成果を報告し、本事業の成果評価を行うために本冊子を作成しました。

看護職の皆様方には、看護実践研究としての共同研究について知る機会として、本冊子をご活用ください。各研究課題の取り組みプロセス・成果などの詳細については、毎年度刊行している「共同研究事業報告書」をご参照ください。また、大学教員の皆様方には、看護職と協働して研究活動に取り組む際に大事にしたいことを再確認し、今後の本事業のあり方・方法について検討するための基礎資料にしてください。

本冊子をご高覧いただき、ご意見やご質問等ございましたら、看護研究センターまで、お知らせいただけますと幸いです。

2026 年 3 月

岐阜県立看護大学　看護研究センター長
大川　眞智子

目 次

Ⅰ　共同研究事業のめざすもの …… 1
１．教員が県内看護職者と共同するねらい ……1
２．共同研究のプロセス ……1

Ⅱ　開学から 25 ヵ年の実績 …… 2
１．研究課題数の推移 ……2
２．参加施設・看護職者の状況 ……4
３．研究内容 ……6
４．「共同研究報告と討論の会」の参加状況 ……7
５．論文・学会報告等による成果報告の実施状況 ……12
６．現地側共同研究者の各年度末の意見・評価 ……14
７．教員の各年度末の意見・評価 ……16

Ⅲ　共同研究者への聞き取り調査から捉えた成果 ……21
１．成果把握調査の目的・方法 ……21
２．調査の結果 ……22
１）各研究課題の概要及び共同研究者から捉えた意見 ……22
２）共同研究者から捉えた意見の分類結果 ……30
３．調査結果の総括 ……37
１）現地側にとっての共同研究の取り組み成果 ……37
２）大学が共同研究に取り組む意義と役割 ……38
３）今後の課題 ……38

Ⅳ　共同研究事業 25 ヵ年の総括と今後の展望 ……39

資料 ……40
１．25 ヵ年の共同研究事業の研究課題一覧 ……40
２．共同研究に関連した研究報告一覧（岐阜県立看護大学紀要掲載分） ……73

Ⅰ　共同研究事業のめざすもの

１．教員が県内看護職者と共同するねらい

共同研究事業は、本学が理念・目標として掲げている「看護サービスの質の向上に広く貢献できる人材を育成すると同時に、岐阜県内の看護実践の場と連携して現場の課題の研究を行い、実践性・応用性の高い看護学の確立を行う」ことを実現するための基本的な活動であり、大学の地域基盤づくりの活動です。

共同研究では、県内の看護職者が直面している問題を取り上げ、教員と現地看護職者との対等の責任においてそれぞれの役割を果たし、課題解決に取り組みます。この活動は、全教員で組織的に行います。実施過程では、1）看護サービスの質の向上を確実に目指すこと、2）共同する看護職者の主体的課題解決を支えること、3）実習等の教育研究活動の充実に活かすことを重視します。

２．共同研究のプロセス

１）課題の設定

本学教員が現地看護職者と話し合い、共有できた課題などです。現場の看護職者の課題意識を大切にし、一緒に解決策に取り組む計画を教員がつくります。

看護研究センターが、年度当初の４月に学内から課題を公募し、予算配分などの事業計画を看護研究センター運営委員会で示し、委員会の下部組織である研究交流促進部会とともに調整や進行管理をします。共同研究の応募要件は図Ⅰ-1のとおりで、大学の理念に即した研究であること、研究者主導ではなく教員･現地看護職者が対等の責任で関与できることなどを重視しています。

２）年間スケジュール

共同研究の年間スケジュールは概ね図Ⅰ-1に示したとおりで、原則として１年または２年単位で事業計画を示し進行管理をしています。共同研究の経過を振り返り、研究成果を広く共有するために、毎年２月の第３土曜日に「共同研究報告と討論の会」を開催しています。全学行事として看護実践の改善の具体的な議論を深めます。通常の学術研究集会方式ではなく、小集団討論の場を重視するなど、参加看護職者の希望による細かな工夫を加え、報告書にはここでの議論を反映させます。

また、当該年度の現地看護職を含む共同研究者全員に対し、自己点検評価のための調査を実施し、毎年改善措置を重ねています。

研究主題	A：現地側の所属施設の業務・実践の改善・改革、または人材育成に関するものであること B：大学・県全体の課題を扱い、大学として推進する必要があると認められること
現地側の体制	研究主題Aのもの １．現地側の所属看護職集団での組織的了解が得られていること ２．当該研究で実践の改善をめざす施設の複数看護職が参加していること ※研究結果で業務改善に取り組むという組織的了解がないもの、個人の学習支持程度のもの等は対象外 研究主題Bのもの 研究目的の達成にふさわしい体制が整えられていること
大学側の体制	複数教員によるものであること
年間スケジュール ４月中　：研究計画･経費計画の提出、要件審査の実施 ５月中　：研究倫理審査の受審、予算配分決定 〜　共同研究の実施 ２月第３土曜日　：共同研究報告と討論の会での報告 ２月初旬〜２月下旬　：自己点検評価の実施 ３月末　：報告書の提出と刊行	

図Ⅰ-1　共同研究の応募要件と年間スケジュール

Ⅱ　開学から 25 ヵ年の実績

１．研究課題数の推移

共同研究事業は、本学が開学した平成 12 年度の 1 年次の「看護学概論」における学外演習を県下の 37 施設で行った機会を利用し、現地看護職者に呼びかけ 19 課題を試行的に実施したことに端を発しています。学外演習を依頼した施設において、先方から課題として提起されたことや、教員が改善の必要性に気付き、話し合いで取りまとめたことなど、その内容はさまざまでしたが、学内交流会で教員がこれらを報告し合い、共同研究の可能性を見出して事業として開始しました。

その後は、表Ⅱ-1 に示すとおり、25 ヵ年における研究課題数は 525 件にのぼっています。また、共同研究者数は、現地施設の共同研究者の延人数が 3,248 名、本学教員の延人数は 2,951 名となっています。なお、延人数は各年度発行の共同研究事業報告書をもとに再集計したものです。

研究課題は、単年度で一定の成果を挙げた場合であっても、看護業務改善のためには、引き続き次段階の取り組みが必要となります。そのため、表Ⅱ-2 のように同じチームで、あるいはメンバーを一部変更しながら継続して課題に取り組んでおり、継続年数は 1 年目から 18 年までと幅広く見られます。また、同じ施設の看護職者と継続的に取り組むことで改善が進み、実習協力施設となっている例も多数あります。このような場合には、学生への影響も大きく、所期の目的が達成されています

表Ⅱ-1　共同研究課題数及び共同研究者数の推移

年度	課題数	継続研究 比率（%）	共同研究者延べ人数 （教員）	共同研究者延べ人数 （現地施設）
平成 12 年度	19	－	160	38
平成 13 年度	28	29	227	121
平成 14 年度	26	58	163	145
平成 15 年度	26	65	137	159
平成 16 年度	28	71	171	203
平成 17 年度	30	73	163	243
平成 18 年度	24	71	141	143
平成 19 年度	28	64	144	196
平成 20 年度	33	64	185	190
平成 21 年度	28	75	146	222
平成 22 年度	24	92	128	210
平成 23 年度	24	79	123	203
平成 24 年度	20	50	80	155
平成 25 年度	17	65	77	122
平成 26 年度	15	53	72	101
平成 27 年度	19	47	106	94
平成 28 年度	19	58	100	104
平成 29 年度	16	44	79	82
平成 30 年度	15	67	81	80
令和元年度	15	33	81	74
令和 2 年度	13	77	73	64
令和 3 年度	16	56	84	74
令和 4 年度	16	56	89	84
令和 5 年度	15	80	76	82
令和 6 年度	11	73	65	59
合計	525	－	2,951	3,248

表Ⅱ-2　継続年数別共同研究課題数の推移

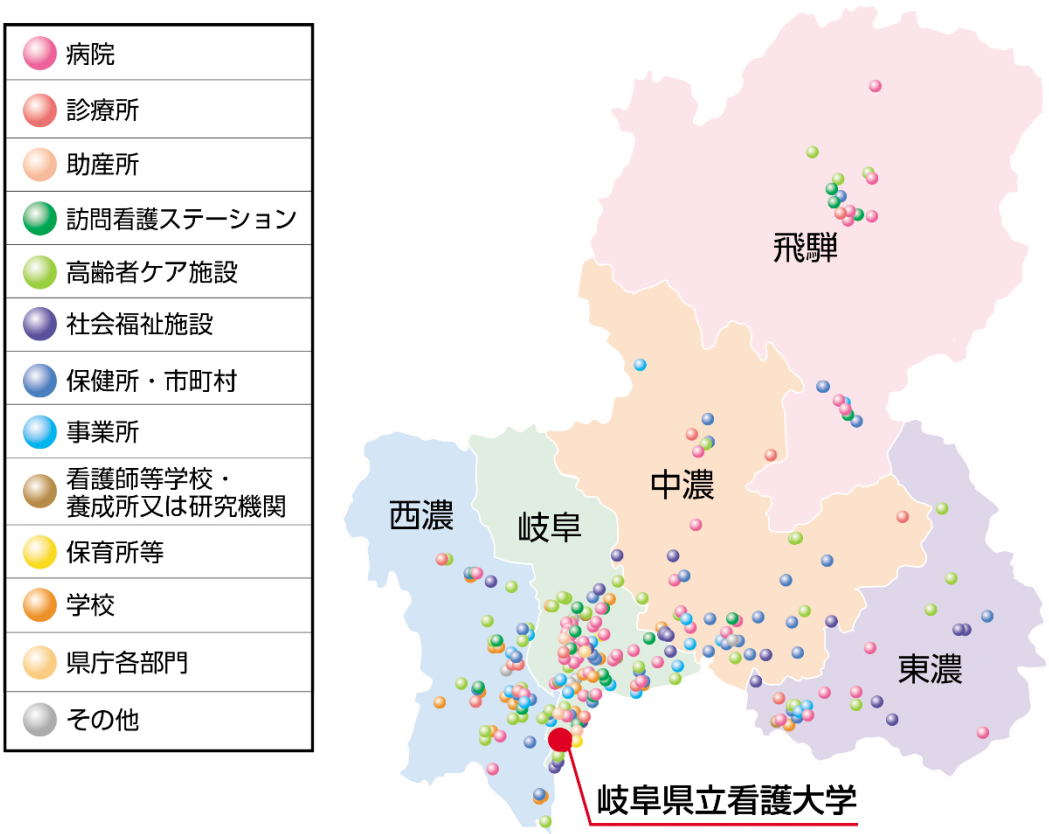
年度	課題数	継続年数																	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
平成12年度	19	19	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成13年度	28	20	8	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成14年度	26	11	9	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成15年度	26	9	7	7	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成16年度	28	8	7	4	6	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成17年度	30	8	6	5	3	6	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成18年度	24	7	4	3	4	2	4	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成19年度	28	10	5	2	3	2	3	3	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成20年度	33	12	6	3	2	2	1	4	3	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
平成21年度	28	7	6	3	2	2	2	0	4	2	0	－	－	－	－	－	－	－	－
平成22年度	24	2	5	3	3	2	2	2	0	3	2	0	－	－	－	－	－	－	－
平成23年度	24(6)	5(2)	2	3	2	3	1(1)	2	1(1)	1(1)	3(1)	1	0	－	－	－	－	－	－
平成24年度	20(8)	10(4)	2(1)	0	1	0	2	1	1	1(1)	1(1)	1(1)	0	0	－	－	－	－	－
平成25年度	17(3)	6	8(3)	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	－	－	－	－
平成26年度	15(3)	7(2)	3	2	1	0	1	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	－	－	－
平成27年度	19(6)	10(3)	7(2)	0	0	0	0	1	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	0	－	－
平成28年度	19(4)	8(1)	5(3)	4	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	－
平成29年度	16(6)	9(3)	2(1)	2(1)	2(1)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
平成30年度	15(6)	5	5(3)	1	2(1)	1(1)	0	0	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0
令和元年度	15(7)	10(4)	1	1(1)	1	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0
令和2年度	13(10)	3(2)	6(5)	1(1)	1(1)	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
令和3年度	16(12)	7(5)	3(2)	3(3)	1(1)	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
令和4年度	16(13)	7(5)	6(6)	0	1(1)	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	1	0	0
令和5年度	15(10)	3(1)	6(5)	2(1)	1(1)	1(1)	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	1	0
令和6年度	11(7)	3(2)	3(2)	1	0	1(1)	1(1)	0	0	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	1
合計	525(101)	206(34)	122(33)	57(7)	39(6)	26(3)	20(3)	15(1)	12(3)	9(4)	8(3)	4(2)	1(1)	1(1)	1	1	1	1	1

＊(　)内は2年計画のもの再掲

２．参加施設・看護職者の状況

岐阜県内の看護実践現場の課題を解決するために、本学教員は岐阜県内の施設の看護職者と開学以来、数々の共同研究に取り組んできました。実施した施設の分布については、岐阜県における５つの医療圏で、図Ⅱ-1 に示しています。

これらの共同研究は、特定の地域に偏ることなく、岐阜・西濃・中濃・東濃・飛騨の各圏域に広がっています。また、病院や診療所のみならず、訪問看護ステーションや高齢者施設、行政機関等とも連携しながら、多様な看護実践の場において展開されています。



図Ⅱ-1　共同研究を実施した施設の分布（平成 12 年度～令和 6 年度）

表Ⅱ-3 は、25 カ年にわたり共同研究を実施した 1,082 施設の種類別状況と、現地側共同研究者延べ人数 3,248 名の内訳を示したものです。

施設数の内訳をみると、病院 340 施設が最も多く、次いで保健所・市町村 173 施設、高齢者ケア施設 171 施設が続いています。さらに、事業所 123 施設、訪問看護ステーション 62 施設、学校 49 施設、社会福祉施設 47 施設、診療所 39 施設などが含まれており、多様な施設に広がっています。

現地側共同研究者数の内訳をみると、病院の看護職 1,700 名が最も多く、次いで保健所・市町村の保健師 500 名、高齢者ケア施設の看護職 312 名が続いています。さらに、事業所 164 名、訪問看護ステーション 157 名、診療所 104 名、社会福祉施設 92 名、県庁各部門 94 名など、多様な分野の共同研究者が参画しています。

また、5 つの医療圏別では、施設数・現地側共同研究者数ともに岐阜圏域がそれぞれ 41.9%、42.7%と最も多く、次いで中濃圏域が 20.1%、18.7%、西濃圏域が 16.0%、14.2%となっています。さらに、東濃圏域は 10.1%、8.1%、飛騨圏域は 9.2%、14.1%で構成されており、県内全域にわたって共同研究が展開されています。

表Ⅱ-3　岐阜県内の 5 つの医療圏別の実施状況（参加施設数と現地側共同研究者数）

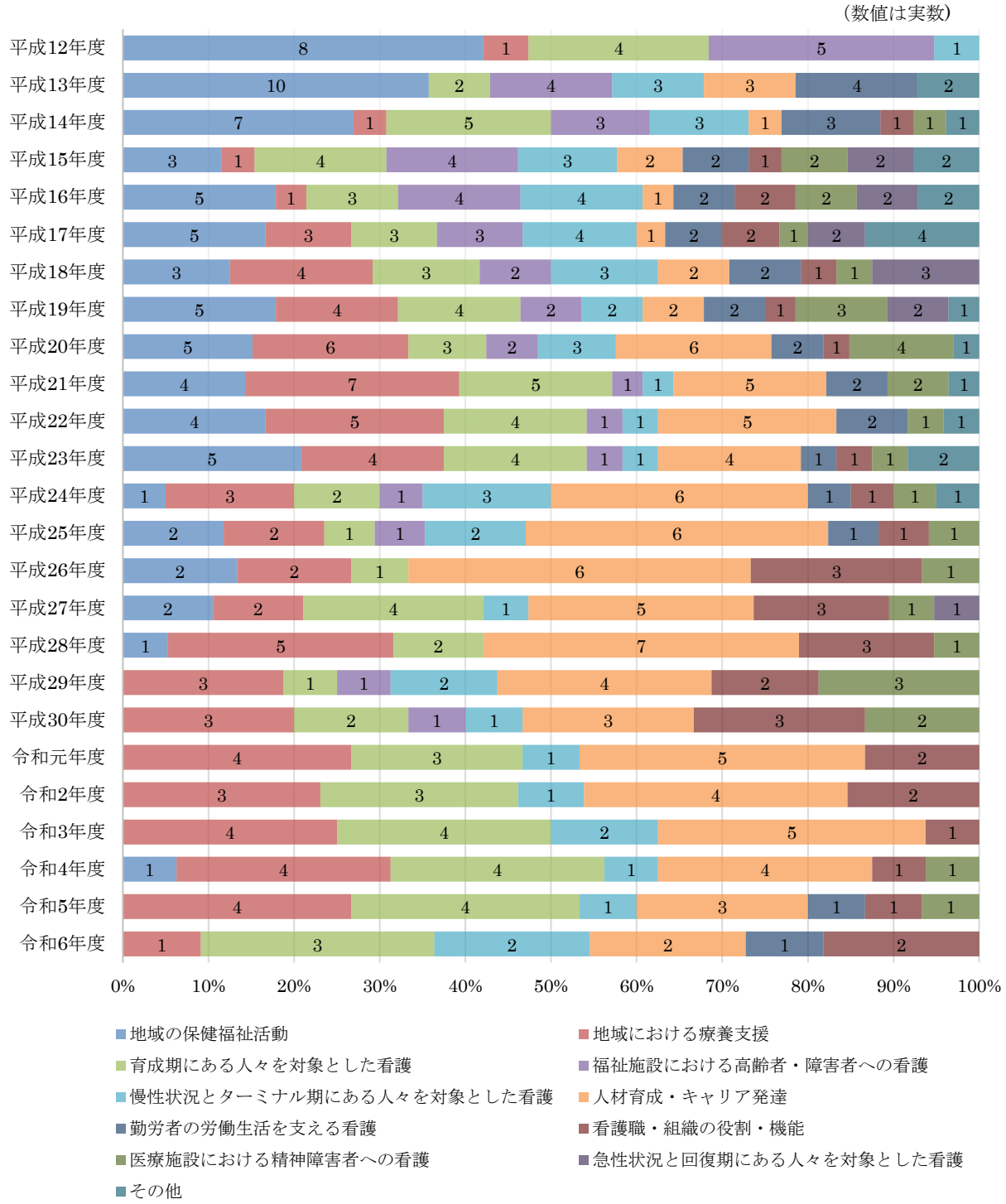
施設の種類	岐阜		西濃		中濃		東濃		飛騨		県外		総計	
	施設数	人数	施設数	人数	施設数	人数	施設数	人数	施設数	人数	施設数	人数	施設数	人数
総計 (%)	453 (41.9)	1,387 (42.7)	173 (16.0)	460 (14.2)	217 (20.1)	607 (18.7)	109 (10.1)	262 (8.1)	100 (9.2)	457 (14.1)	30 (2.8)	75 (2.3)	1,082 (100)	3,248 (100)
病院	164	805	33	168	40	213	43	149	49	320	11	45	340	1,700
診療所	12	17	12	25	8	24	1	2	6	36	0	0	39	104
助産所	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
訪問看護ステーション	31	80	13	29	3	10	0	0	15	38	0	0	62	157
高齢者ケア施設	63	92	28	58	29	63	36	59	15	40	0	0	171	312
社会福祉施設	15	29	3	5	18	30	11	28	0	0	0	0	47	92
保健所・市町村	52	164	20	104	84	204	8	12	9	16	0	0	173	500
事業所	39	41	24	24	33	61	9	11	6	7	12	20	123	164
保育所等	4	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	9
学校	13	17	35	42	1	1	0	0	0	0	0	0	49	60
県庁各部門	36	94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	94
看護師等学校・養成所又は研究機関	12	23	0	0	0	0	1	1	0	0	4	4	17	28
その他	9	13	5	5	1	1	0	0	0	0	3	6	18	25

＊ 高齢者ケア施設とは、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、地域包括支援センターです。施設数は各年度の実数を合計したものです。人数は延数です。

３．研究内容

図Ⅱ-2 は、平成 12 年度から令和 6 年度までの共同研究の研究内容の推移を示しています。平成 12 年度から平成 20 年度頃までの初期においては、「地域の保健福祉活動」に関する研究が継続して多く報告されており、主要な研究テーマの一つとなっています。また、この時期には「福祉施設における高齢者・障害者への看護」に関する研究も一定数みられ、地域や施設における看護・福祉に関する共同研究が多く実施されていました。

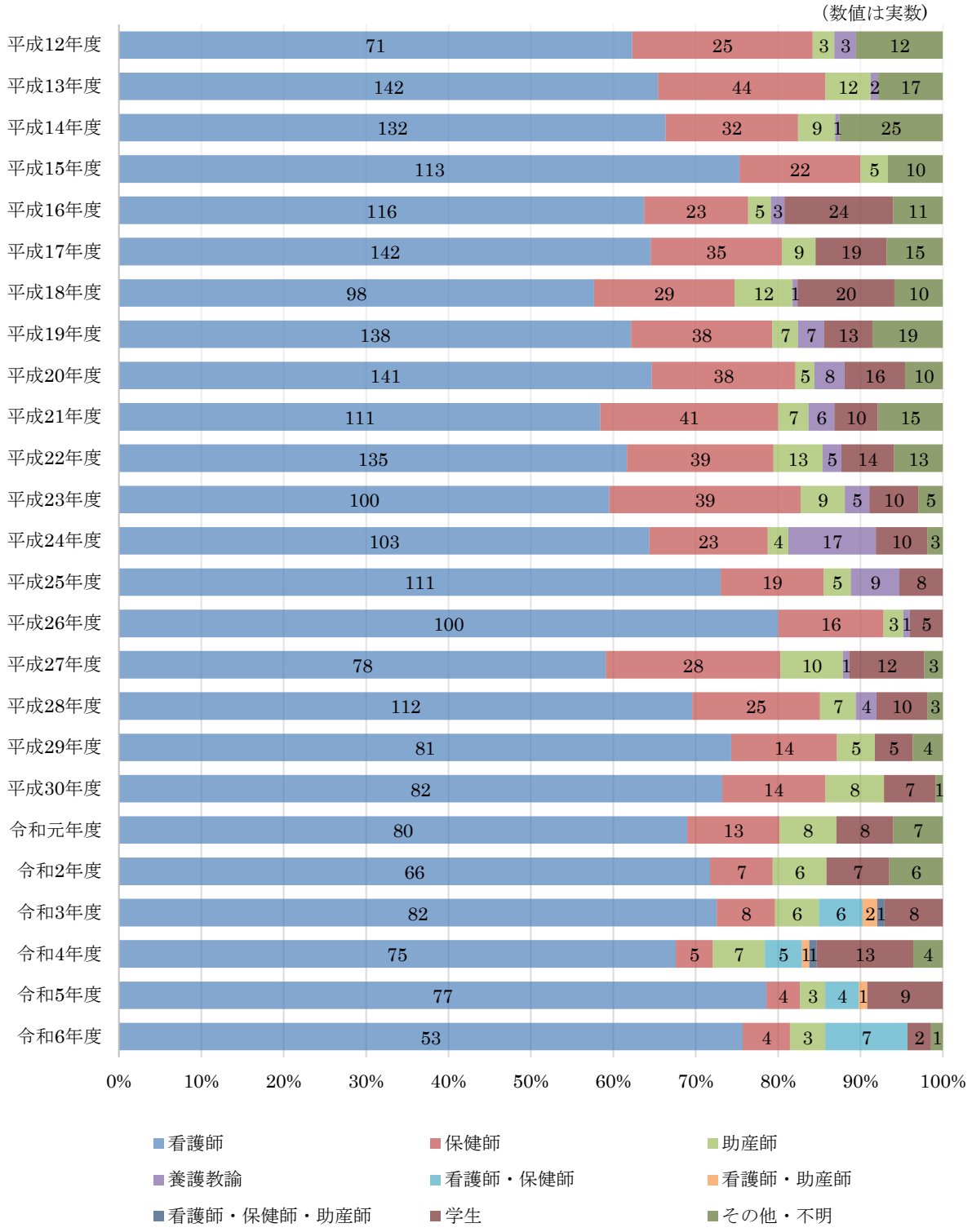
近年では、「人材育成・キャリア発達」「看護職・組織の役割・機能」「地域における療養支援」「育成期にある人々を対象とした看護」などの研究内容が多くみられ、組織内の人材育成や療養支援、対象特性に応じた看護が中心になってきています。



図Ⅱ-2　年度別研究内容

４.「共同研究報告と討論の会」の参加状況

平成 12 年度から開催している「共同研究報告と討論の会」への参加者は、25 ヵ年で合計 3,820 名です。参加者の職種別構成を年度別に示したのが図Ⅱ-3 です。全期間を通じて看護師の参加が最も多く、参加者の中心を占めています。また、保健師や助産師、養護教諭の参加も継続してみられます。全体として、看護職を中心としつつ、多様な職種が参加する場として継続している状況が確認されます。



図Ⅱ-3　「共同研究報告と討論の会」参加者の年度別・職種別構成

＊令和 3 年度以降は職種を複数選択で把握しています。

「共同研究報告と討論の会」の参加者について、所属施設別人数の推移を示したのが表Ⅱ-4 です。病院からの参加が 2,143 名と最も多く、各年度で継続して確認されます。次いで、保健所・市町村が 358 名、高齢者ケア施設が 244 名、訪問看護ステーションが 146 名、事業所・健診機関・医療保険者が 135 名、社会福祉施設が 114 名となっています。また、県庁各部門等が 93 名、学校（小・中・高・特別支援学校）が 81 名、診療所が 78 名、看護師学校・養成所又は研究機関が 73 名、保育所等が 7 名、助産所が 2 名となっています。本学看護学科の学生も 230 名参加しています。

近年は、病院からの参加が各年度で確認されるとともに、高齢者ケア施設や訪問看護ステーション、保健所・市町村など複数の施設からの参加が継続してみられます。また、事業所・健診機関・医療保険者や県庁各部門等など、地域や行政に関わる施設からの参加も確認されます。

表Ⅱ-4　参加者の所属施設別人数の推移

年度	参加者総数	病院	診療所	助産所	訪問看護ステーション	高齢者ケア施設	社会福祉施設	保健所・市町村
平成 12 年度	114	40	0	0	0	18	7	25
平成 13 年度	217	101	6	0	4	21	8	32
平成 14 年度	199	97	1	0	8	20	9	28
平成 15 年度	150	78	3	0	5	12	15	13
平成 16 年度	182	95	1	0	4	15	9	16
平成 17 年度	220	120	1	0	2	12	18	25
平成 18 年度	170	83	8	0	2	7	9	18
平成 19 年度	222	134	1	0	3	11	6	29
平成 20 年度	218	128	2	0	5	5	3	26
平成 21 年度	190	95	4	0	6	19	2	28
平成 22 年度	219	126	8	0	5	20	0	24
平成 23 年度	168	81	7	2	1	17	1	25
平成 24 年度	160	93	2	0	5	9	0	9
平成 25 年度	152	101	1	0	8	11	1	8
平成 26 年度	125	87	1	0	6	9	2	9
平成 27 年度	132	67	3	0	12	6	1	16
平成 28 年度	161	91	2	0	17	8	3	9
平成 29 年度	109	61	3	0	12	7	2	5
平成 30 年度	112	66	4	0	15	4	0	4
令和元年度	116	75	4	0	11	1	0	3
令和 2 年度	92	59	4	0	2	3	3	2
令和 3 年度	113	82	2	0	5	1	1	1
令和 4 年度	111	71	2	0	1	7	3	2
令和 5 年度	98	64	6	0	3	1	5	0
令和 6 年度	70	48	2	0	4	0	6	1
合計	3,820	2,143	78	2	146	244	114	358

＊高齢者ケア施設とは、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、地域包括支援センターです。

表Ⅱ-4　参加者の所属施設別人数の推移　（続き）

年度	事業所・健診機関・医療保険者	看護師学校・養成所又は研究機関	保育所等	学校（小・中・高・特別支援学校）	県庁各部門等	その他	不明	本学看護学科学生
平成 12 年度	0	4	0	2	7	11	0	0
平成 13 年度	14	3	0	2	9	12	5	0
平成 14 年度	18	3	1	2	4	7	1	0
平成 15 年度	10	2	0	0	4	5	3	0
平成 16 年度	8	0	2	3	1	4	0	24
平成 17 年度	6	0	0	0	2	14	1	19
平成 18 年度	12	0	0	0	3	7	1	20
平成 19 年度	7	0	0	9	5	4	0	13
平成 20 年度	7	0	0	11	5	8	2	16
平成 21 年度	8	5	0	6	6	1	0	10
平成 22 年度	6	3	2	6	5	0	0	14
平成 23 年度	6	7	2	5	4	0	0	10
平成 24 年度	7	1	0	18	4	2	0	10
平成 25 年度	0	2	0	9	1	2	0	8
平成 26 年度	0	2	0	1	2	1	0	5
平成 27 年度	3	5	0	3	2	1	1	12
平成 28 年度	4	2	0	4	6	3	2	10
平成 29 年度	3	3	0	0	4	1	3	5
平成 30 年度	5	2	0	0	3	1	1	7
令和元年度	4	6	0	0	3	1	0	8
令和 2 年度	2	2	0	0	2	1	5	7
令和 3 年度	1	5	0	0	6	1	0	8
令和 4 年度	1	7	0	0	2	2	0	13
令和 5 年度	1	6	0	0	2	1	0	9
令和 6 年度	2	3	0	0	1	1	0	2
合計	135	73	7	81	93	91	25	230

「共同研究報告と討論の会」への看護職者の参加は、表Ⅱ-5 に示すとおり、25 ヵ年で 3,590 名であり、共同研究に参加した看護職者は 3,248 名です。平成 15 年度から 17 年度および平成 21 年度から 24 年度までは、共同研究に参加した看護職者数が会への参加者数を上回っており、その他の年度では、「共同研究報告と討論の会」への参加者数が共同研究に参加した看護職者数を上回っています。全体として、「共同研究報告と討論の会」への参加者数は共同研究に参加した看護職者数の約 1.11 倍となっています。

「共同研究報告と討論の会」は、2 月の第三土曜日に定例的に実施していますが、共同研究のメンバーがすべて参加できるわけではありません。しかし、表Ⅱ-6 に示すように、共同研究者の参加は各年度で一定数確認されており、その割合はおおむね 40～50%台で推移しています。平成 16 年度の 32.4%から平成 22 年度には 57.5%まで上昇し、その後も 40%台を中心に推移しています。合計では 1,438 名であり、参加者全体に占める割合は 45.8%です。また、本学の学部卒業者（大学院生・修了者を除く）は 241 名、大学院生は 202 名、大学院修了者は 270 名であり、各年度において参加がみられるとともに、共同研究者としても参画しています。

表Ⅱ-5　「共同研究報告と討論の会」への看護職の参加状況

年度	A：「共同研究報告と討論の会」への参加看護職数	A / B	B：共同研究参加看護職数
平成 12 年度	114	3.00	38
平成 13 年度	217	1.79	121
平成 14 年度	199	1.37	145
平成 15 年度	150	0.94	159
平成 16 年度	158	0.78	203
平成 17 年度	201	0.83	243
平成 18 年度	150	1.05	143
平成 19 年度	209	1.07	196
平成 20 年度	202	1.06	190
平成 21 年度	180	0.81	222
平成 22 年度	205	0.98	210
平成 23 年度	158	0.78	203
平成 24 年度	150	0.97	155
平成 25 年度	144	1.18	122
平成 26 年度	120	1.19	101
平成 27 年度	120	1.28	94
平成 28 年度	151	1.45	104
平成 29 年度	104	1.27	82
平成 30 年度	105	1.31	80
令和元年度	108	1.46	74
令和 2 年度	85	1.33	64
令和 3 年度	105	1.42	74
令和 4 年度	98	1.17	84
令和 5 年度	89	1.09	82
令和 6 年度	68	1.15	59
合計	3,590	1.11	3,248

表Ⅱ-6　「共同研究報告と討論の会」参加者の内訳

年度	参加者総数	共同研究者 （総数との比率）	本学卒業者 （大学院生・修了者を除く）＊	本学大学院生*	本学修了者*
平成 16 年度	182	59（32.4%）	5	9（3）	
平成 17 年度	220	83（37.7%）	16（4）	10（3）	
平成 18 年度	170	68（40.0%）	6（1）	12（4）	
平成 19 年度	222	99（44.6%）	14（4）	8（2）	7（4）
平成 20 年度	218	103（47.2%）	21（2）	11（7）	9（4）
平成 21 年度	190	103（54.2%）	14（2）	10（3）	10（4）
平成 22 年度	219	126（57.5%）	22（4）	11（2）	14（10）
平成 23 年度	168	96（57.1%）	14（5）	15（1）	10（5）
平成 24 年度	160	87（54.4%）	27（7）	7	17（12）
平成 25 年度	152	60（39.5%）	17（6）	10（1）	17（9）
平成 26 年度	125	56（44.8%）	6	9（1）	21（13）
平成 27 年度	132	60（45.5%）	8（1）	8	13（8）
平成 28 年度	161	65（40.4%）	12（1）	11	19（8）
平成 29 年度	109	55（50.5%）	4	9	17（8）
平成 30 年度	112	56（50.0%）	4（1）	5	20（6）
令和元年度	116	46（39.7%）	8	7	22（3）
令和 2 年度	92	43（46.7%）	6（3）	9	9（2）
令和 3 年度	113	50（44.2%）	12（3）	8（1）	19（5）
令和 4 年度	111	51（45.9%）	7（2）	14（2）	17（8）
令和 5 年度	98	42（42.9%）	10（2）	12（1）	17（4）
令和 6 年度	70	30（42.9%）	8（2）	7（1）	12（2）
合計	3,140	1,438（45.8%）	241（50）	202（32）	270（115）

＊（　）内は参加者における共同研究者の再掲

５．論文・学会報告等による成果報告の実施状況

表Ⅱ-7 は、本学の紀要への共同研究に関する成果の報告数を年次別に示したものです。25 ヵ年で 70 件あり、その内訳は、原著 3 件、報告 49 件、資料 18 件となっています。これらの研究報告の一覧は、資料に掲載しています。

また、共同研究結果を活用した成果は、上記の紀要以外にも学術集会や学術論文等で発表しています。25 ヵ年の実績は表Ⅱ-8 のとおりとなりました。学術論文は 18 件、学会発表 208 件、報告その他 13 件、合計 239 件でした。

共同研究の学内公募要件から本事業の特質が確認できるように、本学の共同研究は研究者である教員主導で行う研究ではありません。看護実践の現状を改革するために、現地看護職者の抱えている課題を取り上げ、現職者の課題意識に添いながら実践を充実させています。近年においても、こうした枠組みは継続しており、共同研究は実践と教育の双方に寄与する取り組みとして位置づけられています。実践性の高い知見の創出ばかりではなく、看護学教育の充実に直結した成果も確認できています。

表Ⅱ-7　本学紀要への報告数

年度	巻号		原著	報告	資料	合計
平成 12 年度	1 巻 1 号		0	7	0	7
平成 13 年度	2 巻 1 号		0	7	0	7
平成 14 年度	3 巻 1 号		1	5	1	7
平成 15 年度	4 巻 1 号		0	3	1	4
平成 16 年度	5 巻 1 号		0	2	2	4
平成 17 年度	6 巻	1 号	0	0	0	0
		2 号	1	1	1	3
平成 18 年度	7 巻	1 号	0	3	0	3
		2 号	0	1	1	2
平成 19 年度	8 巻	1 号	0	0	0	0
		2 号	0	0	0	0
平成 20 年度	9 巻	1 号	0	1	0	1
		2 号	0	3	0	3
平成 21 年度	10 巻	1 号	0	2	0	2
		2 号	0	2	0	2
平成 22 年度	11 巻 1 号		0	1	0	1
平成 23 年度	12 巻 1 号		0	0	0	0
平成 24 年度	13 巻 1 号		0	1	0	1
平成 25 年度	14 巻 1 号		0	0	4	4
平成 26 年度	15 巻 1 号		0	0	0	0
平成 27 年度	16 巻 1 号		0	1	2	3
平成 28 年度	17 巻 1 号		0	1	1	2
平成 29 年度	18 巻 1 号		1	0	0	1
平成 30 年度	19 巻 1 号		0	2	2	4
令和元年度	20 巻 1 号		0	0	1	1
令和 2 年度	21 巻 1 号		0	2	0	2
令和 3 年度	22 巻 1 号		0	0	0	0
令和 4 年度	23 巻 1 号		0	0	0	0
令和 5 年度	24 巻 1 号		0	2	2	4
令和 6 年度	25 巻 1 号		0	2	0	2
合計			3	49	18	70

表Ⅱ-8　共同研究に関連した研究報告（本学紀要を除く）

年度	学術論文	学会発表	報告書・その他	合計
平成 12 年度	0	1	0	1
平成 13 年度	3	11	0	14
平成 14 年度	2	17	1	20
平成 15 年度	4	20	0	24
平成 16 年度	3	22	1	26
平成 17 年度	1	6	0	7
平成 18 年度	3	16	2	21
平成 19 年度	0	5	2	7
平成 20 年度	0	11	1	12
平成 21 年度	0	9	3	12
平成 22 年度	0	9	0	9
平成 23 年度	0	2	0	2
平成 24 年度	0	8	0	8
平成 25 年度	0	4	0	4
平成 26 年度	0	7	1	8
平成 27 年度	0	12	1	13
平成 28 年度	0	6	1	7
平成 29 年度	0	4	0	4
平成 30 年度	0	9	0	9
令和元年度	0	5	0	5
令和 2 年度	1	2	0	3
令和 3 年度	1	6	0	7
令和 4 年度	0	3	0	3
令和 5 年度	0	6	0	6
令和 6 年度	0	7	0	7
合計	18	208	13	239

６．現地側共同研究者の各年度末の意見・評価

年度末には、共同研究の自己点検評価を共同研究者に対して実施しています。現地側共同研究者を対象に、共同研究の実施による実践の改善・充実やそれに伴う状況や認識の変化があったと思うことについて尋ねたところ、平成 22 年度から令和 6 年度までに計 2,047 件の回答が得られました。そのカテゴリー別の内訳を表Ⅱ-9 に示しています。

最も多かったのは、「実践の評価ができ、課題や問題点が明らかになった」401 件であり、次いで「実践の振り返り・見直しの機会となった」398 件であり、共同研究を通じて、自施設・自部署の現状を客観的に捉え、課題を明確化する機会となっていることが示されました。さらに、「実践の改善・充実に向けての意識の変化や認識の深まりがあった」316 件、「具体的な実践の改善・充実が見られた」311 件と続き、現状分析にとどまらず、実践の変容や具体的な改善へとつながっている状況が確認されました。

また、現任教育・人材育成に必要な指導者側の能力も併せて考える機会とできた等の「実践の振り返り・見直しの機会となった」という回答が 184 件みられ、他施設の看護管理部門の取り組みが分かり、自施設、自部署の課題や問題点が明らかになった等の「実践の評価ができ、課題や問題点が明らかになった」という回答が 168 みられました。

さらに、「他職種や他機関との連携がとれるようになった」214 件、「実践の改善・充実につながるツール、資料、教材等ができた」185 件、「実践の改善・充実につながるシステムができた」148 件といった回答もみられ、共同研究の成果が組織的・仕組み的な改善や連携体制の構築にも繋がっていることが確認されました。

表Ⅱ-9　現地側共同研究者が共同研究の実施により実践の改善・充実やそれにつながる状況や認識の変化があったと思うこと（平成 22～令和 6 年度　2,047 件）

年度	カテゴリー							
	実践の評価ができ、課題や問題点が明らかになった	実践の振り返り・見直しの機会となった	実践の改善・充実に向けての意識の変化や認識の深まりがあった	具体的な実践の改善・充実が見られた	他職種や他機関との連携がとれるようになった	実践の改善・充実につながるツール、資料、教材等ができた	実践の改善・充実につながるシステムができた	その他
平成 22 年度	57	73	46	46	46	25	23	18
平成 23 年度	43	27	27	39	27	29	10	13
平成 24 年度	24	29	31	24	24	16	4	3
平成 25 年度	24	25	19	22	19	14	13	4
平成 26 年度	20	30	25	16	16	18	12	3
平成 27 年度	30	29	23	15	11	10	8	1
平成 28 年度	19	17	13	16	10	7	5	2
平成 29 年度	25	27	20	14	6	9	8	1
平成 30 年度	33	25	21	16	9	9	10	1
令和元年度	21	11	11	11	8	4	3	3
令和 2 年度	15	17	11	9	6	5	8	1
令和 3 年度	21	18	7	7	2	2	2	3
令和 4 年度	27	27	23	30	14	17	16	10
令和 5 年度	26	28	25	29	9	13	18	5
令和 6 年度	16	15	14	17	7	7	8	6
合計	401	398	316	311	214	185	148	74

また、実践の改善・充実したこと以外でよかった思うことを尋ねたところ、平成 22 年度から令和 6 年度までに計 1,408 件の回答が得られました。そのカテゴリー別の内訳を表Ⅱ-10 に示しています。

最も多かったのは、「他施設・他部署・他職種との情報交換・意見交換・交流ができた」439 件であり、共同研究が施設や職種の枠を超えた交流やネットワーク形成の機会として機能していることが示されています。

次いで、「看護職者としての成長・学びにつながった」360 件が多く、共同研究への参画が専門職としての自己研鑽や学びの機会となっていることがうかがえます。また、「実践していることを上司、同僚、他職種に伝え、認識してもらえる機会となった」186 件、「教員のサポートを受け、研究としてまとめること、発表することができた」181 件といった回答もみられ、日頃の実践を言語化・共有し、発信する機会が得られていることが確認されました。

さらに、「研究への取組み意識の変化、意欲の高まりがあった」176 件と、研究活動に対する意識の向上もみられ、継続的な実践改善を支える基盤形成につながっていると考えられます。

表Ⅱ-10　現地側共同研究者が実践の改善・充実したこと以外でよかったと思うこと
（平成 22～令和 6 年度 1,408 件）

年度	カテゴリー						
	他施設・他部署・他職種との情報交換・意見交換・交流ができた	看護職者としての成長・学びにつながった	実践していることを上司、同僚、他職種に伝え、認識してもらえる機会となった	教員のサポートを受け、研究としてまとめること、発表することができた	研究への取組み意識の変化、意欲の高まりがあった	他施設の取り組みから自施設の課題を考える機会となった	その他
平成 22 年度	93	58	32	13	24	－	6
平成 23 年度	36	35	24	13	14	－	8
平成 24 年度	32	22	11	8	9	－	3
平成 25 年度	31	17	11	9	4	－	2
平成 26 年度	42	23	8	10	10	－	2
平成 27 年度	32	21	9	12	17	－	7
平成 28 年度	22	12	4	7	3	－	3
平成 29 年度	21	26	6	12	8	－	4
平成 30 年度	22	28	20	24	12	－	0
令和元年度	23	20	8	16	14	－	4
令和 2 年度	15	22	5	8	8	－	1
令和 3 年度	11	10	3	6	4	2	1
令和 4 年度	22	20	15	22	21	－	8
令和 5 年度	19	26	20	16	16	－	12
令和 6 年度	18	20	10	5	12	－	3
合計	439	360	186	181	176	2	64

７．教員の各年度末の意見・評価

年度末に実施している自己点検評価において、共同研究に取り組んだ本学教員を対象に、本学教員が共同研究にかかわったことの意義について尋ねたところ、平成 22 年度から令和 6 年度までの期間で、表Ⅱ-11 のとおりカテゴリー分類されました。

まず、本学教員が研究に関与した意義として、「学部教育や大学院教育の充実につながる」「生涯学習支援や人材育成の充実につながる」といった回答が各年度を通して多くみられ、共同研究の成果が教育活動全体に還元されていることが示されています。また、「実践の振り返りを促進できた」「課題の明確化や改善に向けた検討ができた」「今後取り組むべき課題や方向性が明確になった」といった回答も多く、教員が関わることにより、体系的に整理する機会が提供されていることが確認されています。

さらに、「看護実践の充実・改善や体制づくりにつながった」「関係機関・関係職種との連携・交流が促進された」といった回答から、共同研究が実践の質向上のみならず、組織的な取り組みや連携体制の強化にも寄与していることが示唆されます。加えて、「看護職の実践へのモチベーションや意識の向上」「研究に関する理解の深化」「実践の言語化や可視化」といった側面も挙げられており、教員の関与が看護職の実践および研究活動に対する認識の変化を促していることがうかがえます。

表Ⅱ-11　共同研究の意義（教員の自己評価）

年度（件数）	カテゴリー（件数）
平成 22 年度（61 件 24 研究）	現地での研究環境づくりに貢献できた（11）
	実践研究方法の助言・指導の機会になった（7）
	具体的な実践の改善に貢献できた（7）
	実践を振り返ることで、看護職の考えを深めるこができた（6）
	生涯学習支援として、現任教育体制の充実につながった（6）
	現地看護職間の課題の共有と協働的取り組みを進めることができた（5）
	研究活動とその成果を教育に活用することができた（5）
	客観的かつ中立的な意見交換をすすめることができた（4）
	実習施設の看護の充実につながった（4）
	教員の実践における課題とその解決方法への理解につながった（4）
	大学の研究環境が活用できた（2）
平成 23 年度（57 件 20 研究）	研究活動とその成果を学部教育や大学院教育に活用することができた（13）
	実践を振り返ることで看護職の考えを深めることができた（7）
	客観的かつ中立的に議論や検討を進めることができた（7）
	看護実践研究方法の助言・指導の機会になった（6）
	他施設・他機関の看護職と地域の課題を共有し検討できた（5）
	組織内での課題の共有と組織的な取り組みを推進できた（4）
	地域内の看護職間の連携や関係機関と連携した活動につながった（4）
	現任教育体制の充実につながった（4）
	看護実践の改善・充実が図れた（3）
	研究成果を、さらなる課題への取り組みにつなげることができた（2）
	複数施設間で共通する課題を検討することができた（2）
平成 24 年度（50 件 17 研究）	共同研究の取り組みや成果を学部教育や大学院教育の充実につなげることができた（8）
	関係機関・関係職種との交流・連携を深めた（5）
	実践の振り返りを促進できた（5）
	人材育成の充実につながった（4）
	共同研究者間の討議を推進・発展できた（4）
	看護職の実践へのモチベーションや意識を高めた（4）
	看護実践の改善・充実を図ることができた（4）
	実践を振り返ることで、課題の明確化や改善に向けた検討ができた（3）
	共同研究者以外の同職種間で実践の共有・意見交換ができた（3）
	研究や調査の計画・実施・まとめが有効にできた（3）
	関係職種・複数施設との意見交換により検討が深まった（2）
	本学卒業者の支援につながった（2）
	実践を可視化することで、できていることが確認できた（1）
	今後の取り組みの方向性が定まった（1）
	教員の課題を自覚できた（1）

表Ⅱ-11　共同研究の意義（教員の自己評価）　（続き）

年度（件数）	カテゴリー（件数）
平成 25 年度（48 件 17 研究）	実践の振り返りを促進できた（8）
	共同研究の取り組みや成果を学部教育や大学院教育、生涯学習支援の充実につなげることができる（7）
	共同研究の計画・実施・まとめが有効にできた（6）
	実践を振り返ることで、課題の明確化や改善に向けた検討ができた（5）
	看護実践の充実・改善を図ることができた（5）
	看護職の実践へのモチベーションや意識を高めた（3）
	関係機関・関係職種との連携・交流を深めた（3）
	現任教育の充実につながった（2）
	現地側共同研究者の自信につながった（2）
	現地側共同研究者の研究に関する理解が深まった（2）
	体制づくりの契機や基盤ができた（2）
	実践を可視化することで、できていることを確認できた（1）
	実践を意識化する契機となった（1）
	現地側共同研究者と協働して共同研究の取り組みを企画・運営できた（1）
平成 26 年度（29 件 12 研究）	学部教育や大学院教育、生涯学習支援の充実につなげることができる（6）
	実践の振り返り・評価に基いて、課題の明確化や今後に向けた検討ができた（4）
	看護実践の充実・改善や体制づくりを図ることができた（4）
	研究活動がスムーズに遂行され、取り組みが目的的に推進された（4）
	今後取り組むべき課題やその重要性が明確になった（3）
	関係する人々の思いや実践している看護を可視化できた（2）
	関係機関・関係職種との連携・交流を促進できた（2）
	実践の振り返りと根拠に基づいた看護を考えるきっかけを作った（1）
	データの適切な収集と分析ができた（1）
	現地側共同研究者が自施設の人材育成の充実につなげることができる（1）
	現地側共同研究者の自信につながった（1）
平成 27 年度（55 件 16 研究）	学部・大学院教育の充実につなげることができた（15）
	看護実践の充実・改善を図ることができた（7）
	人材育成や生涯学習支援の充実につなげることができた（6）
	実践の振り返り・評価や話し合いの機会を設けることができた（5）
	取り組むべき課題について明確化できた（4）
	現地側共同研究者の取り組みを支援し、推進できた（4）
	日頃の実践や思いの言語化を促し、可視化できた（3）
	課題解決や支援の充実に向けた方策を検討できた（2）
	適切なデータ収集につながった（2）
	教員が実践の現状を知る機会となった（2）
	取り組み成果を可視化できた（1）
	専門職同士の交流機会を提供できた（1）
	看護職同士の協働的な関係が構築できた（1）
	取り組みの広域的な拡大に寄与した（1）
	看護実践に役立つ知識を提案できた（1）
平成 28 年度（55 件 19 研究）	学部・大学院教育の充実につなげることができる（12）
	実践現場の現状と課題を明確化できた（9）
	人材育成や生涯学習支援の充実につなげることができる（8）
	日頃の実践の振り返りや話し合う機会を設け、実践の充実・改善を図ることができた（7）
	他施設との意見交流や実践方法の共有・検討を図ることができた（4）
	教員が現場の現状を知り、実践に関する学びを得た（3）
	今後も実践の充実に向けた検討が現場で可能である（2）
	看護実践の可視化・客観化に寄与した（2）
	適切なデータ収集につながった（2）
	根拠に基づく看護に関する看護職の認識が深まった（2）
	看護職の対象理解が深まった（1）
	他職種連携の意義と必要性に関する看護職の認識が深まった（1）
	ツール作成によりアセスメントの充実につながった（1）
	現地側共同研究者の取組みを支援し推進に寄与した（1）

表Ⅱ-11　共同研究の意義（教員の自己評価）　（続き）

年度（件数）	カテゴリー（件数）
平成 29 年度 （27 件 11 研究）	現地看護職者による実践の現状と課題の言語化が促され、実践の有用性や意義が確認できた（8）
	学部・大学院教育の充実につなげることができる（6）
	県全体の人材育成・質向上に向けて貢献できた（2）
	実践現場において今後取り組むべき課題が明確になった（2）
	教員が実践の現状を知る機会となった（2）
	現地側共同研究者の取組みを支援し、推進できた（1）
	看護の検討内容を深めることができた（1）
	今後の取り組みの根拠を明確にできた（1）
	看護職の対象理解の深まりにつながった（1）
	他職種の看護職に対する認識が変化した（1）
	地域における連携・協働の充実につながった（1）
	現地施設における活動と課題を整理するきっかけになった（1）
平成 30 年度 （45 件 14 研究）	客観的な振り返りにより実践の有用性・意義の確認ができた（11）
	大学教育の充実に繋げることができる（6）
	現地看護職の人材育成・学習支援に繋がった（6）
	看護実践の改善につながる有効な検討ができた（6）
	今後取り組むべき課題を明確にできた（3）
	多職種との連携・協働の課題を明確にし、連携・協働の必要性が確認できた（3）
	看護職の認識の変化と役割機能の拡大の方策を明らかにすることができた（2）
	教員が実践の現状を理解する機会になった（2）
	看護職同士の交流機会の拡大ができた（2）
	根拠に基づく看護の実践に繋げた（1）
	実践活動の評価・成果の確認の機会になった（1）
	適切なデータ収集に繋がった（1）
	教員が実践を改善する研究方法を考える機会となった（1）
令和元年度 （25 件 9 研究）	看護実践／人材育成の改善につながる有効な検討ができた（6）
	学部・大学院教育の充実につながる（3）
	現地看護職の人材育成・学習支援につながった（2）
	今後取り組むべき課題が明確になった（2）
	多機関・多職種との連携・協働の充実につながった（2）
	現地看護職が自己を客観的に振り返る機会となった（2）
	実践を振り返る機会になった（1）
	実践が言語化され明確になった（1）
	現地看護職の疑問や迷いの解決につながった（1）
	現地看護職が他施設の現状を知ることができた（1）
	現地看護職が看護実践研究の公表をめざすことにつながった（1）
	研究目的を意識した取り組みになった（1）
	学生の学びになった（1）
	教員が現状を理解し視野が広がる機会になった（1）
令和 2 年度 （23 件 9 研究）	今後取り組むべき課題や方向性が明確になった（4）
	現地側共同研究者の実践事象に対する捉え方が変化した（3）
	本学の教育の充実につながる（3）
	人材育成の充実につながる（2）
	現地側共同研究者の看護実践の改善に関する認識が変化した（2）
	COVID-19 下においても共同研究に関する話し合いを継続できた（2）
	根拠に基づいたツールを作成できた（1）
	現地側共同研究者が自信を得た（1）
	看護職が交流する機会を設けた（1）
	看護実践の質向上に寄与する研究について検討できた（1）
	実践における研究的取り組みの位置づけや成果が明確になった（1）
	記録作成などの役割を担った（1）
	意義を述べることは困難である（1）

表Ⅱ-11　共同研究の意義（教員の自己評価）　（続き）

年度（件数）	カテゴリー（件数）
令和 3 年度 （22 件 8 研究）	人材育成の充実につながる（6）
	客観的な視点からの振り返りや検討ができた（4）
	現地看護職が現状を共有し、あり方を検討する場をつくった（3）
	本学学生への教育の充実につながる（3）
	多機関・多職種のメンバーを集めて、具体的な支援方法を検討できた（2）
	研究データの客観性や匿名性が確保された（2）
	研究的な取り組みとしてデータを整理し、看護の課題を明確にできた（1）
	根拠に基づいた取り組みを実施できた（1）
令和 4 年度 （22 件 10 研究）	本学学生への教育の充実につながる（5）
	看護実践の改善や支援体制の構築、看護職の役割拡大につながる（3）
	人材育成の充実につながる（3）
	研究データの適切な収集につながった（3）
	看護職の経験や思いの言語化・データ化に寄与した（2）
	客観的に状況を捉えて取り組むことができた（2）
	看護実践研究としての課題への取り組みが促進された（1）
	研究目的に適う研究体制が整備された（1）
	さらに検討すべき課題が明確になった（1）
	取り組みの発展の方向性が見出された（1）
令和 5 年度 （27 件 11 研究）	人材育成の充実につながった（5）
	研究データの分析・検討、言語化に寄与した（4）
	看護実践の改善や支援体制の構築、役割の明確化や拡大につながる（3）
	本学学生への教育の充実につながる（3）
	客観的に状況を捉えて取り組むことができた（3）
	視野の拡がりや、立場の違いへの理解が深まった（2）
	根拠に基づいた視点や方法・課題の明確化（2）
	状況に応じた可能な方法を模索し取り組みを継続できた（1）
	研究目的に沿った取り組みになる様支援した（1）
	実践現場での研究活動の推進・発展に貢献（1）
	事務局機能を担い、参加者を拡大できた（1）
	質的研究活動の円滑・協働的な取り組みとなった（1）
令和 6 年度 （19 件 8 研究）	看護実践の再確認と取り組みの継続への動機付になった（3）
	学生教育の充実につながった（3）
	生涯学習支援として生かせた（2）
	共同研究者の参加者の増員につながった（1）
	ネットワーク体制整備に貢献した（1）
	看護研究の意義を伝えることにつながった（1）
	看護の維持と質向上が期待できた（1）
	研究的取り組みとしてのデータ整理が行えた（1）
	看護実践の変化が明確になった（1）
	看護を言語化することで、振り返る機会につながった（1）
	目的に向けた活動への支援となった（1）
	補佐役としての支援ができた（1）
	結果を活用し他部署と意見交換ができた（1）
	看護実践を評価する視点を焦点化できた（1）

また、共同研究の成果を教員が教育活動にどのように活かしたかについて、平成 22 年度から令和 6 年度までの期間に尋ねた結果を整理し、表Ⅱ-12 に示しています。

最も多かったのは、「学部教育（講義）」93 件であり、次いで「大学院教育」87 件であり、共同研究の成果が学部および大学院の教育内容に広く還元されていることが示されています。さらに、「学部教育（領域別実習）」83 件、「学部教育（卒業研究）」62 件と続き、講義にとどまらず、実習や研究指導といった多様な教育場面においても活用されていることが確認されています。

また、「卒業者支援」36 件や「その他・生涯学習」32 件もみられ、在学中の教育に加えて、卒業後の支援や生涯教育にも共同研究の成果が活かされていることがうかがえます。

表Ⅱ-12　教員が教育活動に活かしたこと

年度	学部教育			大学院教育	卒業者支援	その他・生涯学習
	講義	領域別実習	卒業研究			
平成 22 年度	12	8	4	13	4	3
平成 23 年度	7	6	7	6	5	6
平成 24 年度	4	2	4	7	5	3
平成 25 年度	6	3	6	6	3	0
平成 26 年度	5	5	4	4	1	0
平成 27 年度	6	8	4	3	3	3
平成 28 年度	5	4	3	8	2	3
平成 29 年度	3	7	3	7	2	3
平成 30 年度	6	6	4	6	2	4
令和元年度	7	6	6	9	3	2
令和 2 年度	7	5	4	7	2	0
令和 3 年度	4*	4	3	2	2	2
令和 4 年度	7	5	4	2	1	2
令和 5 年度	8	9	4	3	1	1
令和 6 年度	6	5	2	4	0	0
合計	93	83	62	87	36	32

＊学外演習 1 件を含む

Ⅲ　共同研究者への聞き取り調査から捉えた成果

１．成果把握調査の目的・方法

１）目的

複数年にわたって取り組まれた共同研究の当該施設にとっての成果や課題等について、現地側共同研究者及び大学側共同研究者への聞き取り結果から明らかにし、共同研究事業の成果評価を行なうとともに、今後の本事業の在り方についての示唆を得ることです。

２）方法

（1）聞き取り対象

過去 5 年程度の複数年にわたって取り組まれた共同研究の中から、現地側共同研究者の所属施設や職種、大学側共同研究者の所属領域、取り組み内容の特性等を考慮し、5 研究（4 施設）を選定した。選定した研究の現地側共同研究者（施設代表者等）及び大学側共同研究者（代表教員等）を聞き取り対象としました。

（2）調査方法

5 研究の現地側共同研究者 8 名（各研究 1～2 名）、大学側共同研究者 7 名（各研究 1～2 名）を対象に、看護研究センター教員が 60 分程度の聞き取りを対面もしくはオンラインで行ないました。調査期間は、2025 年 9 月～11 月でした。

聞き取り内容は録音し、逐語録から調査内容ごとに要約を作成しました。一部の調査内容については、5 研究分の要約を類似する意味内容で分類しました。

（3）調査内容

ア．現地側共同研究者

①本学教員と共同研究に取り組むにあたっての意図・目的と達成状況
②共同研究に取り組んだことが所属施設における看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）
③共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために工夫したこと
④共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために課題として感じていること
⑤大学に対する意見・要望

イ．大学側共同研究者

①共同研究に取り組んだことが現地の看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）
②共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化
③看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって大事にした考えや果たした役割、現地側へ意図的に働きかけたこと
④課題として感じていること

３）調査対象者への説明

聞き取り対象には、本調査の趣旨・目的、方法について説明し、調査実施の承諾を得ました。また、調査結果については、令和 7 年度「共同研究報告と討論の会」及び本報告書において事例的に紹介したいこと、その際に施設名を明示してよいか、事前に原稿確認を依頼したい旨についても説明し承諾を得ました。

本調査は研究としての取り組みではないため倫理審査は受審していませんが、以上のとおり、聞き取り対象への調査の実施･報告に関する説明を文書と口頭で行い､同意を得て実施しました。

２．調査の結果

１）各研究課題の概要及び共同研究者から捉えた意見

(1) 研究課題 A : 保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方（平成 19 年度～令和 7 年度）

a）研究概要

岐阜県内保健師の現任教育体制を構築するため、県主管課の保健師と人材育成の中心保健所の保健師が大学と協働し、段階別研修等の実施・評価やツール開発に取り組んだ研究です。平成 15 年度に岐阜県保健師現任教育の担当部署からの協力要請に応える形で、県内保健師の段階別研修の企画・実施・評価に参画することになり、平成 19 年度からは共同研究事業に位置づけ、共同研究として現任教育のあり方・方法を追究しています。

b）研究体制（令和 7 年度）

現地：岐阜県保健医療課、岐阜保健所（保健師）
大学：地域基礎看護学領域、看護研究センター（公衆衛生看護分野を専門とする教員）

c）共同研究者からの聞き取り結果

ア．現地側共同研究者の意見

①本学教員と共同研究に取り組むにあたっての意図・目的と達成状況（➡）

・当初、現任教育体制がしっかりできていなかったこともあり、学術的見解を踏まえて体制構築をするにあたり、大学教員の力を得たかった
➡教員からの助言を得て、新任保健師・5 年目保健師と指導者が一緒に育つことができるコミュニケーションツールとして、「実践能力到達度確認のチェックシート」を一緒に開発でき、現在も活用されている

②共同研究に取り組んだことが所属施設における看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・現任教育の中心保健所が現任教育マニュアルに位置付けられ、保健所による研修事業の円滑な運営や市町村の現任教育への支援につながった
・研修レポートを通して受講者の様子や市町村の指導状況などを保健所保健師が把握し、必要な対応について保健所内で検討して市町村を支援する体制が整えられた
・新任保健師研修とステップアップ研修を受講した世代の保健師の働く姿から、研修を通して学んだ、保健師としての活動の基本的な流れ・フレームやリフレクションの意義等が、現在の県保健師としての仕事に活かされている

③共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために工夫したこと（していること）

・県保健所の統括的立場の保健師に対して、健康増進課長会議などの場で、現任教育の取り組み計画や意図を周知し、理解を深めてもらっている
・保健師職長及び統括保健師として、各保健所における現任教育体制等のヒアリングのため保健所を訪問した際に、当該保健所が実施している管轄市町村を対象とした現任教育の実施状況などを把握している

④共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために課題として感じていること

・指導者のチェックシートに関する活用状況や成果の確認について
・指導者の質向上に向けた取り組みについて
・セカンドキャリアとして多様な背景を持って入職する保健師の人材育成のあり方

⑤大学に対する意見・要望

・大学とは丁度よいバランスで共同研究に取り組めており、今後もお互いを補い合える関係性で支援をいただきたい

イ．大学側共同研究者の意見

①共同研究に取り組んだことが現地の看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・課題を一緒に考え、その課題に対する解決策を一緒に考え、取り組み後は評価し、新たに出た課題の解決に一緒に取り組むという、看護実践研究のプロセスで現任教育体制を作っていくことに対して、現地共同研究者が有効性を感じ、意義を感じている
・県保健師の異動に伴い、この意義が県内全体に広がっている
・研修会後の指導者ミーティングを通して、県の現任教育担当である現地共同研究者だけでなく、指導者として参加した県保健所保健師も現任教育や人材育成に関する意識が高まり、研修の目的・方法等の理解が深まっている。各職場での現任教育にも活かされている

②共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化

・共同研究が基盤となって大学側共同研究者の科研費獲得（2 件）につながっており、保健師の現任教育に関する研究として発展している
・研修会のグループワークに教員が参加することで、実践の現状を知ることができ、実習指導や教育活動に活かせるため、教員にとっての FD になっており、貴重な体験である。
・保健師として就業している卒業者に研修会で会うと、卒業後の成長の様子がわかるので、教員として、生涯学習支援とはどういうことかを学んでいる
・学生の就職活動への支援の際、岐阜県の保健師の現任教育や共同研究の取り組みについて紹介している

③看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって大事にした考えや果たした役割、現地側へ意図的に働きかけたこと

・各年度の研究計画立案の打ち合わせの際に、保健師がその時点でどういうことに課題を感じているのか、まずしっかり聞いている
・看護実践研究の手法でもあるが、課題を明確にし、その課題の解決策を検討して実践・評価し、改善するという PDCA サイクルを回していくことを現地側に働きかけている
・新任期・5 年目保健師の実践能力到達目標チェックシートの作成といったツール開発において、聴き取り調査の計画・実施、調査結果の分析などの研究的な能力を大学が発揮した

④課題として感じていること

・市町村における現任教育の強化

（2）研究課題 B：多職種による持続可能な周産期メンタルヘルスカンファレンスに関する研究（平成 30 年度～令和 5 年度）

a）研究概要

妊娠期からのメンタルヘルスケアの充実を図るため、クリニックの助産師が大学と協働し、A 地域において助産師・保健師・精神科医等の多職種による持続可能な周産期メンタルヘルスカンファレンスの実施・評価に取り組んだ、以下の 2 研究課題の取り組みです。

①A 産科クリニックにおける妊娠期から産褥期におけるメンタルヘルスケアの質向上に向けた研究（平成 30 年度～令和 3 年度）
②A 地域における持続可能な多職種による周産期メンタルヘルスカンファレンスに関する研究（令和 4 年度～5 年度）

b）研究体制

現地：葵鐘会アルプスベルクリニック（助産師）
大学：育成期看護学領域（助産分野の教員）

c）共同研究者からの聞き取り結果

ア．現地側共同研究者の意見

①本学教員と共同研究に取り組むにあたっての意図・目的と達成状況（➡）

・妊娠中のメンタルスクリーニングを強化するため、クリニックに通う妊婦のメンタルヘルスの現状を明らかにしたいと考え、実習指導でかかわりのあった本学教員に協力を求めた
・メンタルヘルスケアは、産後、地域に戻っても必要であり、医師の協力や多職種連携がとても重要になってくるため、メンタルヘルスケアの活動を広めることを目的に、本学教員との共同研究に取り組むことにした

➡本学教員が精神科医師や病院、保健師などとの連絡調整役になり、周産期におけるハイリスクのメンタルヘルスカンファレンスができるようなった。最終目標である、行政における事業化までは至らなかったが、当初の目的は達成された

②共同研究に取り組んだことが所属施設における看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・メンタルケアに難しさを感じるスタッフもいたが、ケアの必要性を皆が理解し、前向きに取り組んでくれるようになった
・助産師外来でスクリーニングをし、ハイリスクの方には面談するなどのケアをしていくことがマニュアル化された
・スタッフのメンタルケアに対する興味・関心が向上した。面談技術も向上し、どのスタッフでも面談ができるようになった
・精神科医の意見は目からうろこで、解決できなかったことを解決してもらい、私たちの心も癒され気持ちが楽になった
・他機関・他職種と顔見知りになり連絡しやすくなり、研究終了後も相談しやすい

③共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために工夫したこと（していること）

・コロナ禍前の対面でのカンファレンスの際は、スタッフもカンファレンスに参加するようにし、質問等も出ていた。コロナ禍でオンライン開催になってからは、共同研究メンバー以外のスタッフは参加しないようになったが、やはりスタッフも参加してほしいと考えて検討したが、時間の都合等もあり難しかった
・研究終了後、教員が作成した連絡方法などのリストを活用しており、他機関・他職種との調整・連絡がしやすい

④共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために課題として感じていること

・研究ではカンファレンス開催の調整役を教員が担っていたが、研究終了後は誰が調整役をするかが難しい
・保健師とは母子保健連絡協議会等で年に 1～2 回会うが、既存の会議では検討テーマが決まっているため、ハイリスクの事例検討やカンファレンスができるかはわからない

⑤大学に対する意見・要望

・大学教員は、メンタルケアにかかわる多くの情報提供をしてくれ、とてもありがたかった。教員との良い関係性は今後も続けたい

イ．大学側共同研究者の意見

①共同研究に取り組んだことが現地の看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・妊娠中に産後のケアについて話し合い、多職種で共有し、妊娠中から予防的にかかわれるようになったので、産後、メンタル不調の強い事例が減った。リスクはあっても支援が行き届き、結果的にメンタル不調にならない事例もあった
・研究 2 年目から、オンラインを活用した多職種のメンタルヘルスカンファレンスが開催されるようになった。事例検討の後、次々回のカンファレンスでケースのことを報告する機会をもつことで、ケアを評価できるようになった
・最新情報を学ぶことやカンファレンスを通じて、現地側の周産期メンタルヘルスケアのスキルアップにつながった
・関係者のメーリングリストや連絡名簿を作成した。メンバーの変更・異動に伴い更新し、施設の窓口が変更になっても対応できるようになった
・県保健所や市・村の保健師ともつながりができた
・所属施設の異なる地域の助産師同士の関係性が構築された

②共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化

・現地共同研究者とは、元々よい関係性だったが、助産実習に関する連絡や連携がよりとりやすくなった。共同研究を通して、現地の周産期メンタルヘルスケアの技量が向上しているので、

学生は良い実践を見学できている
・カンファレンスを通じて保健師と助産師の認識の違いを発見し、お互いが連携する際のポイントや気をつけるべきことが分かった
・多職種連携について、学部の授業や実習の中で具体例として説明できている
・大学院の授業で本研究の取り組みを素材にしており、院生も興味深く聞いている
・周産期メンタルヘルス学会で現地共同研究者と一緒に報告している（3 件）

③看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって大事にした考えや果たした役割、現地側へ意図的に働きかけたこと

・カンファレンスでは、その後のケアプランを具体的に言ってもらうこと、事例提供者が辛くならないような雰囲気づくりなどに配慮して、ファシリテートするようにしていた
・カンファレンスはやりっぱなしではなく、評価をするためにも、以前のカンファレンスで取り上げた事例の現状報告をするようにした
・カンファレンスは時期を決めて行うのではなく、相談ニーズがあるときに必要な人が集まれるような仕組みをつくった
・研究終了後もカンファレンスが継続され、多職種によるメンタルヘルスケアが途切れないために、行政の保健師を含めたメーリングリストを作成したことに加えて、精神科病院への受診方法を整理して保健師と共有した
・保健師経験のある他領域の学内教員に相談したり、学会に参加して他の事例や有効な方法について情報収集し現地共同研究者に紹介した

④課題として感じていること

・担当者の異動等があってもカンファレンスが継続されること
・この研究に協力してくださっている精神科医以外の主治医（精神科）にカンファレンスに参加してもらうこと

(3) 研究課題 C：A 病院におけるその人らしさを尊重した看護実践の質向上のための人材育成の組織的取り組み（令和 5～6 年度）

a）研究概要

その人らしさを尊重した看護を提供できる人材育成のため、看護部長等と各部署の主任が大学と協働し、「看護を語る会」を実施・評価し、人材育成の方法とあり方を検討した取り組みです。

b）研究体制

現地：JA 岐阜厚生連飛騨医療センター　久美愛厚生病院
大学：機能看護学領域、看護研究センター

c）共同研究者からの聞き取り結果

ア．現地側共同研究者

①本学教員と共同研究に取り組むにあたっての意図・目的と達成状況（➡）

・その人らしさを尊重した看護の提供を目指して、組織として体制作りに取り組んできたが、人材育成については取り組みができずにいたので、共同研究として取り組みたいと思った
・共同研究の申請書を作成する段階で、教員からこれまでの状況や語ることに着目した意味など質問をされ、課題と思っていることや共同研究に取り組む目的が整理できた
・看護を語り合う中で、対象にとってのケアの意味を考える力、看護の質向上を探求できる能力を身につけられると思った
➡研究目的は達成された。語る会で、現場の看護師は生き生きとした看護を語った。教員の参加によって、その人らしさを尊重するとは何かを概念化することもできた

②共同研究に取り組んだことが所属施設における看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・目標や物事の決定に向けた話し合いではなく、自分自身の感情・気持ちが語られる場はなかったので、本取り組みの「看護を語る会」は本当によい場になった
・共同研究に参加した主任は、教員からファシリテートの仕方を実践的に学べた。また、「語る会」

の中で果たす自己の役割を主体的に考える姿があり、主任の成長を感じている
・共同研究メンバー（主任）が、「語る会」についてスタッフに話すことで、「語る会」の目的や活動の意味が病棟全体に浸透していった

③共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために工夫したこと

・今年度の当初に、看護師全員が集まる機会に看護部長から「語る会」の経緯や成果（チームワークが良くなった、認め合う環境になった）を説明し、看護部の研修会として取り入れることを説明した
・共同研究メンバーを今年度の「語る会」の担当者にしている
・今年度から、院内の教育プログラムの一つとして、「ファシリテーション研修会」を開催し、共同研究で明らかになった効果的な方法を研修会の内容に盛り込んでいく予定である

④共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために課題として感じていること

・看護部の研修会として「語る会」を実施することで、今後はその人らしさを尊重した看護の実践について、受講者の学びや変化を確認し、いくつかの視点で評価をしていきたい

⑤大学に対する意見・要望

・過去の共同研究で取り組んだ退院支援についても、組織の取り組みとして定着している
・院内だけでは難しいが、共同研究は研究の質が担保されるので、大学との共同研究を継続していくと現場の看護が良くなると思う

イ．大学側共同研究者

①共同研究に取り組んだことが現地の看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・共同研究は終了したが、今回の取り組みがとても良かったので、看護部の人材育成の方法として継続している
・単に集まって話すのではなくて、目標と働きかけ方を考えながら会を企画する方法、ファシリテーターとしてのあり方も検討されたことが、看護部の教育計画として形にするのに役に立った
・共同研究者として各病棟から主任が参加していたので、話し合いの中で、病棟での各自の活動で考えたファシリテートの方法や会参加者のその後の様子なども語られ、院内に波及している
・次の共同研究にも参加しているメンバーがいる。大学を資源として活用し、よい看護をしていきたいという考えが根付いている

②共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化

・看護専門職として「どういう看護をしていきたいのか」を持ち続けることは、よい看護をしていくための土台となり、その人の根幹となる。学生が社会に出てからも、そのことが軸となり大事なのだということが、共同研究メンバーとして「看護を語る会」に参加して強く感じた。学部生の教育も 4 年間かけて完結するのではなく、社会に出ても「どういう看護をしていきたいのか」を考え続けられるよう働きかけていくことは非常に大事だということを、本研究に取り組んで自分自身が学んだ
・本研究の取り組みについて、第 29 回日本看護管理学会学術集会において、2 件を共同で報告した（現地共同研究者の筆頭 1 件、教員の筆頭 1 件）
・今後、「看護を語る会」の専門職にとっての目的や意義をより明確化することで、授業などの教育活動にも活用できるのではないか

③看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって大事にした考えや果たした役割、現地側へ意図的に働きかけたこと

・共同研究の応募をするにあたって、現地側が目指したいこと、大事にしていること、そこにどのように向かっているかを聞かせてもらい、現場の方の意見を尊重して、お互いに役割分担しながら進めることを大事にした
・組織的な人材育成にするためには、病院の看護職の育成にとって意味がないといけないので、どう意味があるのかということを明確に可視化することを心がけた

・共同研究者間の検討会でファシリテートの方法を話し合って整理し、「語る会」で実施し、その結果を振り返り、次の「語る会」に活かす PDCA サイクルを回し、研究のプロセス管理をした
・最初から学会発表や論文化について話し合い、現地との共通の目標にした

④課題として感じていること

・特になし

（4）研究課題 D：病棟看護師の業務リーダーの教育体制を整備し、役割を発揮するための取り組み（令和元～2 年度）

a）研究概要

病棟でのリーダー看護師の役割を果たせるようになるため、A 病棟の看護師長やリーダークラスの看護師が大学と協働し、リーダー役割の整理、それを意識した実践と振り返りの結果から、めざすリーダー像の明確化に取り組んだ研究です。

b）研究体制

現地：羽島市民病院　A 病棟
大学：成熟期看護学領域

c）共同研究者からの聞き取り結果

ア．現地側共同研究者

①本学教員と共同研究に取り組むにあたっての意図・目的と達成状況（➡）

・病棟の看護の質の向上のためには、リーダーを育成しないとその後に続いていかないと考えて共同研究に参加することを決めた
・リーダースタッフが育たないと現場は良くなっていかないので、人材育成はとても大事であり、研究に参加することにとても意味があると考えた
➡リーダーの成長は直ぐには結果として出ないので、研究目的が達成されたかどうかは、はっきり分からない。しかし、主査やリーダーを担っているスタッフ（中間層）が振り返りを通して、リーダー育成のために頑張っていることに気づき、自己肯定感を上げることができたのはとても良かった
➡共同研究を通じて、自分たちの活動を振り返り、改めて文章化することで、リーダー役割を再認識できた

②共同研究に取り組んだことが所属施設における看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・リーダークラスが若い世代とのコミュニケーションを心掛けていたこともあり、若い世代からもリーダークラスに対して、日々の活動の中で患者のよいところなどを話してくれることもあり、スタッフへの効果はあったと思う
・病棟内において、より話しやすい雰囲気ができ、心理的安全性が保障されている状態である
・病棟の変化として、病棟の看護に対して患者さんから良い意見をいただいた。患者さんから感謝の言葉をかけられている若いスタッフの姿を見ると、リーダーたちの背中を見て育っているのではないかと思う

③共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために工夫したこと

・共同研究の成果を主査のリーダークラスへ確実にフィードバックし、共有したことである。成果をフィードバックすることで、自分たちの頑張りが認められているという実感がもて、その人たちのモチベーションに結びついていくとよい

④共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために課題として感じていること

・スタッフの異動があるため共同研究の成果が継承されにくい

⑤大学に対する意見・要望

・大学との共同研究を考えたことはあるが、どのように共同研究に繋げるかがわからなかった。病院内のメンバーだけだと視野が広がらないので、第三者（教員）の参加が得られると良い

イ．大学側共同研究者

①共同研究に取り組んだことが現地の看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・共同研究を通じて明らかにしたリーダー役割に基づいて看護活動ができるようになってきた
・リーダー役割が明確になり共通認識できたことで、看護師の日々の活動（例えば、誰が何を担うのか、担当者がいない時は誰が対応するか）も整理された。リーダーが全体を統括しているので、看護チームとしての機能が発揮されるようになった
・リーダー層が考えを言語化して発信し、病棟看護師と共有を図ることができるようになった。リーダー会も役割機能を発揮できるようになった
・共同研究 2 年目に、病棟が目指す看護とその看護を具現化するためのリーダー像について明確にしたことで、病棟の目標と日々の看護実践がつながり、「業務」ではなく「看護」が実践されるようになってきた

②共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化

・共同研究によってリーダーの役割が明確になったことで、実習等で困ったことがあれば臨地実習指導者とともにリーダーも対応するようになった。学生がタイムリーに相談や支援を受けることができるようになり、安心・安定した環境の下での実習が可能となった
・リーダー会の決定事項をカンファレンスルームに掲示するようになったので、学生が掲示内容を目にしたり、教員と師長が掲示内容に関連して話す場に一緒いる機会があり、看護職が現場の課題に取組みながら看護活動をしていることを学生が学ぶ機会になっている
・本研究を通じて、スタートの時点で研究者間で用いている言葉について共通認識する事の必要性を学び、卒業研究の指導や自分自身の研究において、言葉の意味を丁寧に確認するようになった

③看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって大事にした考えや果たした役割、現地側へ意図的に働きかけたこと

・教員が疑問に感じたこと（病棟としてどのような看護を目指すのか等）を率直に問いかけることで、実は不明確なままになっていることを確認した
・現地側共同研究者の意向や考えを尊重しつつ、取り組むべきことの本質は押さえるようにした。現地側共同研究者の言語化を促し、言語化が難しい所は教員が提案してみるようにした
・現地側共同研究者が主体的に取り組み、現場で継続した活動になるようにと考えていた
・検討の方向がぶれないように意識した

④課題として感じていること

・当時、共同研究に取り組んだ現地側共同研究者が病棟に残っておらず、その後のコロナ禍で状況が一変してしまい、継続されているかは分からない

(5) 研究課題 E：A 病院における現任教育体制の再構築のための取り組み（令和 3～4 年度）

a）研究概要

看護部の現任教育体制の再構築を図るため、看護部長、教育担当師長等が大学と協働し、明らかにした部署教育の現状と課題をふまえ、「育ちあう・学びあう」を中核としたワークショップ（中堅以上）の実施・評価に取り組んだ研究です。

b）研究体制

現地：羽島市民病院　看護部
大学：機能看護学領域、成熟期看護学領域、看護研究センター

c）共同研究者からの聞き取り結果

ア．現地側共同研究者

①本学教員と共同研究に取り組むにあたっての意図・目的と達成状況（➡）

・クリニカルラダー制度が形骸化し、受け身的な教育体制になっているのではないか、教育のアウトカムが看護の質に影響しているか疑問を感じていた
・大学の看護研究センターに相談し、機能看護学教員を紹介してもらい、共同研究を開始するこ

とになった
➡共同研究のワークショップを通じて、参加者自身に気づきがあり、クリニカルラダーの認定方法も変わった
➡着実に院内教育のあり方が変わってきており、看護師が現場の中で力を発揮し、本人もやりがいを持ちながら生き生きとしている姿が見られる

②共同研究に取り組んだことが所属施設における看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・「育ち合う・学び合う」が共同研究の検討会の中でキャッチフレーズとして出てきて、それが看護部の教育方針のキャッチフレーズになり、今、自分たちの目指す姿・軸となり、現在の看護部の各活動に反映している
・院内教育の方法を、講師と受講者という区分けから、お互いがその場で双方が学び合えるよう半分は座学、その後各自の部署でシミュレーションをして、以後は実践を取り入れた
・共同研究に取り組んで以降、会議で師長が活発に発言するようになり、会議自体が変化した。師長が、自分の考えを伝えて相互に刺激し合うことを意識しているように思う

③共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために工夫したこと

・クリニカルラダーの認定方法を変更し、認定会議の場では、ラダー申請者に大事にしている看護観や支援事例などを語ってもらい、今後のキャリアについて支援できる機会にしている
・外部講師を招聘したファシリテーション研修を開催し、リーダー（中堅クラスの看護師）がファシリテーターになって、グループメンバーの話を引き出すことを学べる場を設けている
・以前は、師長が勤務評定の一次評価者だったが、次世代育成を視野に、主幹が責任をもって一次評価を担えるようにした

④共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために課題として感じていること

・共同研究のアウトカムとしての看護の質の変化
・共同研究の特徴や良さを若い世代に広めること

⑤大学に対する意見・要望

・受講料を徴取してもよいので 40～50 歳代の生涯学習のような制度があるとよい（メンタルサポートやキャリアコンサルタントの資格取得、分野別講座の受講認定など）
・今回の共同研究で取り組んだ他者とともに「育ち合う・学び合う」ような、語り合いながら学び合う場があると良い

イ．大学側共同研究者

①共同研究に取り組んだことが現地の看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

・現場の管理職は立場上、部下を教育しなければならない、となりがちだが、ワークショップを通じて相互に学び合うことが共有でき、現場の日々の活動においても相互の学び合いを大事にしていけるとよいことが共有された
・ワークショップの２年目はコロナ禍の始まりであったが、看護部管理者も参加者の意見をしっかり聴く姿勢で参加され、職位による意見の言いにくさはなかったように感じられた
・卒業研究の学生のカンファレンスには、指導者、師長、看護部長が参加している。看護部長が質問や意見を述べることもあるが、看護部長が参加することにより緊張感はあると思われるが、率直な意見交換ができている

②共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化

・卒業研究で学生の受け持ち患者が転棟した際、学生の実習場所も移動することを可能にしたり、最終カンファレンスには師長が必ず出席し、学生から学んだことを必ず学生に伝えてくださるなど、学生が学びやすいような環境整備やモチベーションが高まり学びが深まるような教育的関わりをしてもらっている
・（共同研究に取り組んだことと直接関係ないかもしれないが）年度末の実習連絡会には、全師長と病棟実習指導者が出席し、実習や卒業研究における学生の学びを共有するなど、施設の組織

風土、体制として、看護基礎教育が重視されていると感じる

③看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって大事にした考えや果たした役割、現地側へ意図的に働きかけたこと

・ワークショップでは、参加者がどのような病院を目指し、その目標に向けて自身はどのような人材育成をしていきたいかなど、各自が率直に思っていることを語りあえるようにするために、大学でワークショップを開催し、ユニフォームを脱いでリラックスして考えられるようにした

・実習施設として複数の部署で卒業研究を受け入れてもらう中で、学生側だけでなく臨床の看護師も学生から学ぶことがあり、「学びあい育ちあう」というテーマで共同研究に取り組むことは、学生の教育環境をより良くすることに必ず繋がると考えた

④課題として感じていること

・「育ち合う・学び合う」という理念が形骸化することもあるので、常にこの言葉に込めた思いと活動内容が離れていかないように、特にリーダーたちは心を配っていく必要がある

２）共同研究者から捉えた意見の分類結果

（1）現地にとっての共同研究の成果：共同研究に取り組んだことが看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）

現地にとっての共同研究の成果：共同研究に取り組んだことが看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じていること）については、現地側共同研究者、及び大学側共同研究者の両者から意見を把握しました。聞き取り対象別に 5 研究分の意見を集約し、類似する意味内容で分類した結果は下記のとおりです。カテゴリーは【　】で示しました。

①現地側共同研究者が捉えている共同研究の成果

現地側共同研究者が捉えている共同研究の成果としては、【共同研究の取り組みが組織的な活動・体制へと発展した】、【看護職の看護に対する姿勢が前向きに変化した】、【共同研究の活動によって学びがあり、日々の実践や看護技術が強化・向上した】、【看護職が率直に看護を語り合う場や話やすい職場の雰囲気、学び合う仕組みができた】、【看護職の役割意識の強化や役割発揮が促進された】、【他機関・他職種との連携・協働が強化された】、以上 6 カテゴリーが生成されました（表Ⅲ-1）。

【共同研究の取り組みが組織的な活動・体制へと発展した】ことに加えて、【看護職の看護に対する姿勢が前向きに変化した】、【共同研究の活動によって学びがあり、日々の実践や看護技術が強化・向上した】【看護職の役割意識の強化や役割発揮が促進された】といった、看護職の認識・行動の変化や学びによる看護実践の向上、【看護職が率直に看護を語り合う場や話やすい職場の雰囲気、学び合う仕組みができた】といった、語り合い学びあう組織風土の醸成や仕組みづくりが確認されました。また、自施設の看護職間にとどまらず、【他機関・他職種との連携・協働が強化された】ことも、共同研究の取り組みによる成果として確認されました。

表Ⅲ-1　現地側共同研究者：共同研究に取り組んだことが看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じたこと）

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
共同研究の取り組みが組織的な活動・体制へと発展した	現任教育の中心保健所が現任教育マニュアルに位置付けられ、保健所による研修事業の円滑な運営や市町村の現任教育への支援につながった	A
	研修レポートを通して受講者の様子や市町村の指導状況などを保健所保健師が把握し、必要な対応について保健所内で検討して市町村を支援する体制が整えられた	A
	助産師外来でスクリーニングをし、ハイリスクの方には面談するなどのケアをしていくことがマニュアル化された	B
	「育ち合う・学び合う」が共同研究の検討会の中でキャッチフレーズとして出てきて、それが看護部の教育方針のキャッチフレーズになり、今、自分たちの目指す姿・軸となり、現在の看護部の各活動に反映している	E
	共同研究メンバー（主任）が、「語る会」について（所属部署の）スタッフに話すことで、「語る会」の目的や活動の意味が病棟全体に浸透していった	C

表Ⅲ-1　現地側共同研究者：共同研究に取り組んだことが看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じたこと）　（続き）

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
看護職の看護に対する姿勢が前向きに変化した	メンタルケアに難しさを感じるスタッフもいたが、ケアの必要性を皆が理解し、前向きに取り組んでくれるようになった	B
共同研究の活動によって学びがあり、日々の実践や看護技術が強化・向上した	新任保健師研修とステップアップ研修を受講した世代の保健師の働く姿から、研修を通して学んだ保健師としての活動の基本的な流れ・フレームやリフレクションの意義等が、現在の県保健師としての仕事に活かされている	A
	スタッフのメンタルケアに対する興味・関心が向上した。面談技術も向上し、どのスタッフでも面談ができるようになった	B
	共同研究に参加した主任は、教員からファシリテートの仕方を実践的に学べた。また、「語る会」の中で果たす自己の役割を主体的に考える姿があり、主任の成長を感じている	C
看護職が率直に看護を語り合う場や話やすい職場の雰囲気、学び合う仕組みができた	目標や物事の決定に向けた話し合いではなく、自分自身の感情・気持ちが語られる場はなかったので、本取り組みの「看護を語る会」は本当によい場になった	C
	病棟内において、より話しやすい雰囲気ができ、心理的安全性が保障されている状態である	D
	院内教育の方法を、講師と受講者という区分けから、お互いがその場で双方が学び合えるよう半分は座学、その後各自の部署でシミュレーションをして、以後は実践を取り入れた	E
看護職の役割意識の強化や役割発揮が促進された	共同研究に参加した主任は、教員からファシリテートの仕方を実践的に学べた。また、「語る会」の中で果たす自己の役割を主体的に考える姿があり、主任の成長を感じている	C
	リーダークラスが若い世代とのコミュニケーションを心掛けていたこともあり、若い世代からもリーダークラスに対して、日々の活動の中で患者のよいところなどを話してくれることもあり、スタッフへの効果はあったと思う	D
	共同研究に取り組んで以降、会議で師長が活発に発言するようになり、会議自体が変化した。師長が、自分の考えを伝えて相互に刺激し合うことを意識しているように思う	E
	病棟の変化として、病棟の看護に対して患者さんから良い意見をいただいた。患者さんから感謝の言葉をかけられている若いスタッフの姿を見ると、リーダーたちの背中を見て育っているのではないかと思う	D
他機関・他職種との連携・協働が強化された	精神科医の意見は目からうろこで、解決できなかったことを解決してもらい、私たちの心も癒され気持ちが楽になった	B
	他機関・他職種と顔見知りになり連絡しやすくなり、研究終了後も相談しやすい	B

＊インタビュー内容の要約の下線は、その内容からカテゴリーを生成したことを示す。

②大学側共同研究者が捉えている共同研究の成果

大学側共同研究者が捉えている「現地に取っての共同研究の成果」としては、【共同研究の取り組みを通して看護実践の充実・強化が図られた】、【看護の充実のために活動できる人材が組織的に育成された】、【活動の意義や成果が現場に浸透し広がっている】、【現地側共同研究者が看護実践研究のプロセスを踏むことの有効性を感じている】、【看護部の活動の具現化に役立った】、【組織内で職位や立場を超えて話し合い、学び合う関係が培われた】、【他機関の看護職との関係形成が促進された】、以上 7 カテゴリーが生成されました（表Ⅲ-2）。

【共同研究の取り組みを通して看護実践の充実・強化が図られた】、【看護の充実のために活動できる人材が組織的に育成された】といった、看護実践や人材育成の組織的な充実につながっていることが確認されました。その基盤としては、【活動の意義や成果が現場に浸透し広がっている】、【現地側共同研究者が看護実践研究のプロセスを踏むことの有効性を感じている】といった、共同研究や活動に対する看護職の認識の広がり・深まりがあり、【看護部の活動の具現化に役立った】、【組織内で職位や立場を超えて話し合い、学び合う関係が培われた】といった、組織の変化を及ぼしていることも確認されました。また、【他機関の看護職との関係形成が促進された】ことも、共同研究の成果として挙がっていました。

表Ⅲ-2　大学側共同研究者：共同研究に取り組んだことが看護実践や人材育成、組織風土・体制等に及ぼした影響・変化（成果として感じたこと）

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
共同研究の取り組みを通して看護実践の充実・強化が図られた	妊娠中に産後のケアについて話し合い、多職種で共有し、妊娠中から予防的にかかわれるようになったので、産後、メンタル不調の強い事例が減った。リスクはあっても支援が行き届き、結果的にメンタル不調にならない事例もあった	B
	研究2年目から、オンラインを活用した多職種のメンタルヘルスカンファレンスが開催されるようになった。事例検討の後、次々回のカンファレンスでケースのことを報告する機会をもつことで、ケアを評価できるようになった	B
	共同研究2年目に、病棟が目指す看護とその看護を具現化するためのリーダー像について明確にしたことで、病棟の目標と日々の看護実践がつながり、「業務」ではなく「看護」が実践されるようになってきた	D
	最新情報を学ぶことやカンファレンスを通じて、現地側の周産期メンタルヘルスケアのスキルアップにつながった	B
	リーダー役割が明確になり共通認識できたことで、看護師の日々の活動（例えば、誰が何を担うのか、担当者がいない時は誰が対応するか）も整理された。リーダーが全体を統括しているので、看護チームとしての機能が発揮されるようになった	D
	関係者のメーリングリストや連絡名簿を作成した。メンバーの変更・異動に伴い更新し、施設の窓口が変更になっても対応できるようになった	B
看護の充実のために活動できる人材が組織的に育成された	共同研究は終了したが、今回の取り組みがとても良かったので、看護部の人材育成の方法として継続している	C
	共同研究を通じて明らかにしたリーダー役割に基づいて看護活動ができるようになってきた	D
	リーダー層が考えを言語化して発信し、病棟看護師と共有を図ることができるようになった。リーダー会も役割機能を発揮できるようになった	D
	次の共同研究にも参加しているメンバーがいる。大学を資源として活用し、よい看護をしていきたいという考えが根付いている	C
活動の意義や成果が現場に浸透し広がっている	県保健師の異動に伴い、この意義が県内全体に広がっている	A
	研修会後の指導者ミーティングを通して、県の現任教育担当である現地共同研究者だけでなく、指導者として参加した県保健所保健師も現任教育や人材育成に関する意識が高まり、研修の目的・方法等の理解が深まっている。各職場での現任教育にも活かされている	A
	共同研究者として各病棟から主任が参加していたので、話し合いの中で、病棟での各自の活動で考えたファシリテートの方法や会参加者のその後の様子なども語られ、院内に波及している	C
現地側共同研究者が看護実践研究のプロセスを踏むことの有効性を感じている	課題を一緒に考え、その課題に対する解決策を一緒に考え、取り組み後は評価し、新たに出た課題の解決に一緒に取り組むという、看護実践研究のプロセスで現任教育体制を作っていくことに対して、現地共同研究者が有効性を感じ、意義を感じている	A
看護部の活動の具現化に役立った	単に集まって話すのではなくて、目標と働きかけ方を考えながら会を企画する方法、ファシリテーターとしてのあり方も検討されたことが、看護部の教育計画として形にするのに役に立った	C
組織内で職位や立場を超えて話し合い、学び合う関係が培われた	現場の管理職は立場上、部下を教育しなければならない、となりがちだが、ワークショップを通じて相互に学び合うことが共有でき、現場の日々の活動においても相互の学び合いを大事にしていけるとよいことが共有された	E
	ワークショップの2年目はコロナ禍の始まりであったが、看護部管理者も参加者の意見をしっかり聴く姿勢で参加され、職位による意見の言いにくさはなかったように感じられた	E
	卒業研究の学生のカンファレンスには、指導者、師長、看護部長が参加している。看護部長が質問や意見を述べることもあるが、看護部長が参加することにより緊張感はあると思われるが、率直な意見交換ができている	E
他機関の看護職との関係形成が促進された	県保健所や市・村の保健師ともつながりができた	B
	所属施設の異なる地域の助産師同士の関係性が構築された	B

(2) 大学にとっての共同研究の意義：共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化

大学側共同研究者が捉えている、共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化としては、【学会発表や科研費獲得など教員の研究活動に繋がっている】、【領域別実習や卒業研究において大学と現地側の教育的な協働体制が充実・強化された】、【卒業研究や領域別実習等において、学生が共同研究の経過・成果を学ぶ機会を得ている】、【共同研究の取り組み・成果が大学院の授業に活かされている】、【就職活動の支援の際に、共同研究の取組みを紹介している】、【今後、教育活動に活用できる】、【共同研究に取組むことで教員自身が様々な学びを得ている】、以上 7 カテゴリーが生成されました（表Ⅲ-3）。

【学会発表や科研費獲得など教員の研究活動に繋がっている】といった研究活動の充実・発展に加えて、【領域別実習や卒業研究において大学と現地側の教育的な協働体制が充実・強化された】、【卒業研究や領域別実習等において、学生が共同研究の経過・成果を学ぶ機会を得ている】、【共同研究の取り組み・成果が大学院の授業に活かされている】など本学の看護学科及び大学院における教育活動の充実につながっていることや、【共同研究に取組むことで教員自身が様々な学びを得ている】といった、教員の FD 活動としての意義も確認されました。

表Ⅲ-3 大学側共同研究者：共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
学会発表や科研費獲得など教員の研究活動に繋がっている	共同研究が基盤となって大学側共同研究者の科研費獲得（2 件）につながっており、保健師の現任教育に関する研究として発展している	A
	周産期メンタルヘルス学会で現地共同研究者と一緒に報告している（3 件）	B
	本研究の取り組みについて、第 29 回日本看護管理学会学術集会において、2 件を共同で報告した（現地共同研究者の筆頭 1 件、教員の筆頭 1 件）	C
領域別実習や卒業研究において大学と現地側の教育的な協働体制が充実・強化された	卒業研究で学生の受け持ち患者が転棟した際、学生の実習場所も移動することを可能にしたり、最終カンファレンスには師長が必ず出席し、学生から学んだことを必ず学生に伝えてくださるなど、学生が学びやすいような環境整備やモチベーションが高まり学びが深まるような教育的関わりをしてもらっている	E
	（共同研究に取り組んだことと直接関係ないかもしれないが）年度末の実習連絡会には、全師長と病棟実習指導者が出席し、実習や卒業研究における学生の学びを共有するなど、施設の組織風土、体制として、看護基礎教育が重視されていると感じる	E
	共同研究によってリーダーの役割が明確になったことで、実習等で 困ったことがあれば臨地実習指導者とともにリーダーも対応するようになった。学生がタイムリーに相談や支援を受けることができるようになり、安心・安定した環境の下での実習が可能となった	D
卒業研究や領域別実習等において、学生が共同研究の経過・成果を学ぶ機会を得ている	多職種連携について、学部の授業や実習の中で具体例として説明できている	B
	現地共同研究者とは、元々よい関係性だったが、助産実習に関する連絡や連携がよりとりやすくなった。共同研究を通して、現地の周産期メンタルヘルスケアの技量が向上しているので、学生は良い実践を見学できている	B
	リーダー会の決定事項をカンファレンスルームに掲示するようになったので、学生が掲示内容を目にしたり、教員と師長が掲示内容に関連して話す場に一緒いる機会があり、看護職が現場の課題に取組みながら看護活動をしていることを学生が学ぶ機会になっている	D
共同研究の取り組み・成果が大学院の授業に活かされている	大学院の授業で本研究の取り組みを素材にしており、院生も興味深く聞いている	B
就職活動の支援の際に、共同研究の取組みを紹介している	学生の就職活動への支援の際、岐阜県の保健師の現任教育や共同研究の取り組みについて紹介している	A
今後、教育活動に活用できる	今後、「看護を語る会」の専門職にとっての目的や意義をより明確化することで、授業などの教育活動にも活用できるのではないか	C

表Ⅲ-3 大学側共同研究者：共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化（続き）

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
共同研究に取組むことで教員自身が様々な学びを得ている	保健師として就業している卒業者に研修会で会うと、卒業後の成長の様子がわかるので、教員として、生涯学習支援とはどういうことかを学んでいる	A
	カンファレンスを通じて保健師と助産師の認識の違いを発見し、お互いが連携する際のポイントや気をつけるべきことが分かった	B
	本研究を通じて、スタートの時点で研究者間で用いている言葉について共通認識する事の必要性を学び、卒業研究の指導や自分自身の研究において、言葉の意味を丁寧に確認するようになった	D
	看護専門職として「どういう看護をしていきたいのか」を持ち続けることは、よい看護をしていくための土台となり、その人の根幹となる。学生が社会に出てからも、そのことが軸となり大事なのだということが、共同研究メンバーとして「看護を語る会」に参加して強く感じた。学部生の教育も４年間かけて完結するのではなく、社会に出ても「どういう 看護をしていきたいのか」を考え続けられるよう働きかけていくことは 非常に大事だということを、本研究に取り組んで自分自身が学んだ	C
	研修会のグループワークに教員が参加することで、実践の現状を知ることができ、実習指導や教育活動に活かせるため、教員にとっての FD になっており、貴重な体験である	A

(3) 共同研究に取り組む上での工夫や意図的働きかけ

①現地側共同研究者：共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために工夫したこと

現地側共同研究者が「共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくために工夫したこと」としては、【各部署の看護管理者や責任者等が参加する会議の場を活用して、共同研究に関わる活動の意図や計画、成果の周知を図った】、【共同研究メンバー以外のスタッフに対して、共同研究に関わる活動への参加を働きかけた】、【看護部等の諸活動において、共同研究によって育成された人材や成果を意図的・積極的に活用した】、【変化を期待した看護職者層に共同研究の成果をフィードバックした】、【看護管理者として現地において現状把握を行っている】、以上５カテゴリーが生成されました（表Ⅲ-4）。

【各部署の看護管理者や責任者等が参加する会議の場を活用して、共同研究に関わる活動の意図や計画、成果の周知を図った】といった、各部署の管理的立場にある人々の認識を深める働きかけや、【共同研究メンバー以外のスタッフに対して、共同研究に関わる活動への参加を働きかけた】といった、スタッフ層に活動参画を促す働きかけが確認されました。また、【看護部等の諸活動において、共同研究によって育成された人材や成果を意図的・積極的に活用した】、【変化を期待した看護職者層に共同研究の成果をフィードバックした】といった、意図的な人材活用や働きかけや、【看護管理者として現地において現状把握を行っている】といった、現地における状況把握に取り組まれていたことも確認されました。

表Ⅲ-4　現地側共同研究者：共同研究の取組みや研究成果を実践の改善や人材育成として定着・継続するために工夫したこと（していること）

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
各部署の看護管理者や責任者等が参加する会議の場を活用して、共同研究に関わる活動の意図や計画、成果の周知を図った	県保健所の統括的立場の保健師に対して、健康増進課長会議などの場で、現任教育の取り組み計画や意図を周知し、理解を深めてもらっている	A
	今年度の当初に、看護師全員が集まる機会に看護部長から「語る会」の経緯や成果（チームワークが良くなった、認め合う環境になった）を説明し、看護部の研修会として取り入れることを説明した	C

表Ⅲ-4　現地側共同研究者：共同研究の取組みや研究成果を実践の改善や人材育成として定着・継続するために工夫したこと（していること）　（続き）

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
共同研究メンバー以外のスタッフに対して、共同研究に関わる活動への参加を働きかけた	コロナ禍前の対面でのカンファレンスの際は、スタッフもカンファレンスに参加するようにし、質問等も出ていた。コロナ禍でオンライン開催になってからは、共同研究メンバー以外のスタッフは参加しないようになったが、やはりスタッフも参加してほしいと考えて検討したが、時間の都合等もあり難しかった	B
看護部等の諸活動において、共同研究によって育成された人材や成果を意図的・積極的に活用した	研究終了後、教員が作成した連絡方法などのリストを活用しており、他機関・他職種との調整・連絡がしやすい	B
	共同研究メンバーを今年度の「語る会」の担当者にしている	C
	今年度から、院内の教育プログラムの一つとして、「ファシリテーション研修会」を開催し、共同研究で明らかになった効果的な方法を研修会の内容に盛り込んでいく予定である	C
	外部講師を招聘したファシリテーション研修を開催し、リーダー（中堅クラスの看護師）がファシリテーターになって、グループメンバーの話を引き出すことを学べる場を設けている	E
	以前は、師長が勤務評定の一次評価者だったが、次世代育成を視野に、主幹が責任をもって一次評価を担えるようにした	E
	クリニカルラダーの認定方法を変更し、認定会議の場では、ラダー申請者に大事にしている看護観や支援事例などを語ってもらい、今後のキャリアについて支援できる機会にしている	E
変化を期待した看護職者層に共同研究の成果をフィードバックした	共同研究の成果を主査のリーダークラスへ確実にフィードバックし、共有したことである。成果をフィードバックすることで、自分たちの頑張りが認められているという実感がもて、その人たちのモチベーションに結びついていくとよい	D
看護管理者として現地において現状把握を行っている	保健師職長及び統括保健師として、各保健所における現任教育体制等のヒアリングのため保健所を訪問した際に、当該保健所が実施している管轄市町村を対象とした現任教育の実施状況などを把握している	A

②大学側共同研究者：看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって大事にした考えや果たした役割、現地側へ意図的に働きかけたこと

大学側共同研究者が「看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって大事にした考えや果たした役割、現地側へ意図的に働きかけたこと」としては、【現地側共同研究者の課題意識をしっかり聞き、考えや意見を尊重した】、【課題を明確にして PDCA サイクルが回るよう、研究プロセスを管理した】、【現地側共同研究者の主体性と現場での活動の継続性を大事にした】、【取り組むべきことの本質や意味を明確にし、現地側共同研究者に確認しながら進めた】、【現地側共同研究者が考えを言語化できるように働きかけた】、【調査の計画・分析等の研究的な作業は教員が担った】、【現場の看護職がリラックスした中で率直に発言や交流できるような雰囲気づくりを心掛けた】、【看護実践現場の現状に即した現実的な実践方法の仕組みをつくった】、【活動の継続性を確保するためのツールを作成した】、【現場にとって有用な情報提供を行った】、【成果公表について、当初から現地側共同研究者と計画した】、【共同研究に取り組むことが学生の教育環境をより良くすると考えた】、以上 12 カテゴリーが生成されました（表Ⅲ-5）。

【現地側共同研究者の課題意識をしっかり聞き、考えや意見を尊重した】、【課題を明確にして PDCA サイクルが回るよう、研究プロセスを管理した】、【現地側共同研究者の主体性と現場での活動の継続性を大事にした】、【取り組むべきことの本質や意味を明確にし、現地側共同研究者に確認しながら進めた】、【現地側共同研究者が考えを言語化できるように働きかけた】といった、現地側の課題意識や意見を尊重しながら課題を明確にすることや、現地側の主体性と活動の継続性を重視し、現地側の取り組むべきことの本質からぶれないように看護実践研究としてのプロセス管理が実施されていました。また、【調査の計画・分析等の研究的な作業は教員が担った】と

いった研究上の役割分担を行い、【現場の看護職がリラックスした中で率直に発言や交流できるような雰囲気づくりを心掛けた】、【看護実践現場の現状に即した現実的な実践方法の仕組みをつくった】、【活動の継続性を確保するためのツールを作成した】、【現場にとって有用な情報提供を行った】といった、現場の状況に応じた関わりや活動の継続性を可能にする仕組みづくり、教育的かかわりが意図的に行われていました。さらに、研究の【成果公表について、当初から現地側共同研究者と計画した】ことや【共同研究に取り組むことが学生の教育環境をより良くすると考えた】といった、教育・研究活動の充実を教員が重視していることも確認されました。

表Ⅲ-5　大学側共同研究者：看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって、教員が大切にした考えや果たした役割、意図的に働きかけたこと

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
現地側共同研究者の課題意識をしっかり聞き、考えや意見を尊重した	各年度の研究計画立案の打ち合わせの際に、保健師がその時点でどういうことに課題を感じているのか、まずしっかり聞く	A
	共同研究の応募をするにあたって、現地側が目指したいこと、大事にしていること、そこにどのように向かっているかを聞かせてもらい、現場の方の意見を尊重して、お互いに役割分担しながら進めることを大事にした	C
課題を明確にしてPDCAサイクルが回るよう、研究プロセスを管理した	看護実践研究の手法でもあるが、課題を明確にし、その課題の解決策を検討して実践・評価し、改善するというPDCAサイクルを回していくことを現地側に働きかけている	A
	カンファレンスはやりっぱなしではなく、評価をするためにも、以前のカンファレンスで取り上げた事例の現状報告をするようにした	B
	共同研究者間の検討会でファシリテートの方法を話し合って整理し「語る会」で実施し、その結果を振り返り、次の「語る会」に活かすPDCAサイクルを回し、研究のプロセスを管理した	C
	検討の方向がぶれないように意識した	D
現地側共同研究者の主体性と現場での活動の継続性を大事にした	現地側共同研究者が主体的に取り組み、現場で継続した活動になるようにと考えていた	D
取り組むべきことの本質や意味を明確にし、現地側共同研究者に確認しながら進めた	現地側共同研究者の意向や考えを尊重しつつ、取り組むべきことの本質は押さえるようにした。現地側共同研究者の言語化を促し、言語化が難しい所は教員が提案してみるようにした	D
	組織的な人材育成にするためには、病院の看護職の育成にとって意味がないといけないので、どう意味があるのかということを明確に可視化することを心がけた	C
現地側共同研究者が考えを言語化できるように働きかけた	教員が疑問に感じたこと（病棟としてどのような看護を目指すのか等）を率直に問いかけることで、実は不明確なままになっていることを確認した	D
	現地側の意向や考えを尊重しつつ、取り組むべきことの本質は押さえるようにした。現地側の言語化を促し、言語化が難しい所は教員が提案してみるようにした	D
調査の計画・分析等の研究的な作業は教員が担った	新任期・5年目保健師の実践能力到達目標チェックシートの作成といったツール開発において、聴き取り調査の計画・実施、調査結果の分析などの研究的な能力を大学が発揮した	A
現場の看護職がリラックスした中で率直に発言や交流できるような雰囲気づくりを心掛けた	カンファレンスでは、その後のケアプランを具体的に言ってもらうこと、事例提供者が辛くならないような雰囲気づくりなどに配慮して、ファシリテートするようにしていた	B
	ワークショップでは、参加者がどのような病院を目指し、その目標に向けて自身はどのような人材育成をしていきたいかなど、各自が率直に思っていることを語りあえるようにするために、大学でワークショップを開催し、ユニフォームを脱いでリラックスして考えられるようにした	E
看護実践現場の現状に即した現実的な実践方法の仕組みをつくった	カンファレンスは時期を決めて行うのではなく、相談ニーズがあるときに必要な人が集まれるような仕組みをつくった	B

表Ⅲ-5　大学側共同研究者：看護職と協働して研究活動に取り組むにあたって、教員が大切にした考えや果たした役割、意図的に働きかけたこと　（続き）

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
活動の継続性を確保するためのツールを作成した	研究終了後もカンファレンスが継続され、多職種によるメンタルヘルスケアが途切れないために、行政の保健師を含めたメーリングリストを作成したことに加えて、精神科病院への受診方法を整理して保健師と共有した	B
現場にとって有用な情報提供を行った	保健師経験のある他領域の学内教員に相談したり、学会に参加して他の事例や有効な方法について情報収集し現地共同研究者に紹介した	B
成果公表について、当初から現地側共同研究者と計画した	最初から学会発表や論文化について話し合い、現地との共通の目標にした	C
共同研究に取り組むことが学生の教育環境をより良くすると考えた	実習施設として複数の部署で卒業研究を受け入れてもらう中で、学生側だけでなく臨床の看護師も学生から学ぶことがあり、「育ちあう・学びあう」というテーマで共同研究に取り組むことは、学生の教育環境をより良くすることに必ず繋がると考えた	E

＊インタビュー内容の要約の下線は、その内容からカテゴリーを生成したことを示す。

（4）現地側共同研究者が捉えている、共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくための課題

現地側共同研究者が捉えている、「共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくための課題」としては、【成果の確認についての課題】、【成果の継承や拡大についての課題】、【新たに取組むべき状況や課題】、以上 3 カテゴリーが生成されました。詳細は、表Ⅲ-6 に示した通りです。

表Ⅲ-6　現地側共同研究者：共同研究の取組みや研究成果を実践の改善や人材育成として定着・継続させていくための課題

カテゴリー	インタビュー内容の要約	研究課題
成果の確認についての課題	指導者のチェックシートに関する活用状況や成果の確認について	A
	共同研究のアウトカムとしての看護の質の変化	E
成果の継承や拡大についての課題	スタッフの異動があるため共同研究の成果が継承されにくい	D
	共同研究の特徴や良さを若い世代に広めること	E
	研究ではカンファレンス開催の調整役を教員が担っていたが、研究終了後は誰が調整役をするかが難しい	B
	保健師とは母子保健連絡協議会等で年に 1～2 回会うが、既存の会議では検討テーマが決まっているため、ハイリスクの事例検討やカンファレンスができるかはわからない	B
新たに取組むべき状況や課題	指導者の質向上に向けた取り組みについて	A
	セカンドキャリアとして多様な背景を持って入職する保健師の人材育成のあり方	A
	看護部の研修会として「語る会」を実施することで、今後はその人らしさを尊重した看護の実践について、受講者の学びや変化を確認し、いくつかの視点で評価をしていきたい	C

３．調査結果の総括

１）現地側にとっての共同研究の取り組み成果

現地側共同研究者に対しては、共同研究に取り組むにあたっての目的・意図を達成できたかを尋ねていますが、5 研究すべての現地側共同研究者が、当初の目的を達成できている旨の回答をしていました。取り組まれた共同研究が、現地側共同研究者が共同研究を通して解決したい事象や課題を確実に解決し、現地施設にとって有用な手段であることが確認されました。

また、今回、現地側共同研究者と大学側共同研究者が捉えている「現地に取っての共同研究の成果」は、ほぼ同様の内容でした。共同研究の取り組みにより、組織的な看護実践・人材育成の

充実や組織的な活動・体制への発展につながっていると共に、看護職の活動に対する意識や行動の変化、めざす看護を共有する組織風土や関係性づくりも培われていることが確認されています。看護実践研究としての共同研究には、共同研究に取り組む施設の看護職者の意識と行動を変えて成長を促すことに加えて、看護実践や人材育成のあり方・方法を組織的に変革する力をもつことが確認でき、現地施設にとって有意義な研究活動であることが示されたと考えます。

以上より、共同研究の取り組みは、実践現場の課題を組織的・実践的に解決しており、本学の使命である「岐阜県の看護の質向上」に資する有用な研究活動として、着実に成果をもたらしていると考えます。

２）大学が共同研究に取り組む意義と役割

大学側共同研究者の意見から、共同研究に取り組んだことが教育・研究活動等に及ぼした影響・変化として、本学の看護学科及び大学院における教育活動の充実に加えて、教員の研究活動の発展や教員自身の学びの獲得にもつながっていることが確認されています。現地看護職と大学教員が共同研究に取り組むことは、本学の教育・研究活動の充実や基盤づくりになっており、大学としても有用な活動であり、取り組む意義は非常に大きいと思われます。

大学側共同研究者は、現地側共同研究者と協働して研究活動に取り組むにあたって、現地側の課題意識や意見を尊重しながら課題を明確にすることや、現地側の主体性と活動の継続性を重視し、現地側の取り組むべきことの本質からぶれないように看護実践研究としてのプロセス管理を実施していました。また、現場の状況に応じた関わりや活動の継続性を可能にする仕組みづくり、教育的かかわりを意図的に行っていました。以上より、大学側は、現地側の主体的解決や活動の継続性を意図してかかわっていたことが明らかになりました。このような大学側の現地看護職に対する意図的関わりや果たした役割は、現地側にとって有意義な成果・効果をもたらし、看護の質向上を持続的に可能にする組織づくりにつながっていくことに寄与し、大学としての重要な役割であると考えます。

３）今後の課題

現地側共同研究者の意見から、「共同研究の取り組みや研究成果を実践改善や人材育成として定着・継続させていくための課題」として、研究成果の確認や継承・拡大に関することが挙がっています。大学側共同研究者からも、研究成果の継承に関することが課題として確認されたことから、共同研究終了後の研究成果の確認方法や、共同研究として取り組んだ活動の実践現場における継続性を担保するための方法について、研究終了時に現地側共同研究者と検討しておくことが重要と思われます。また、長期スパンで共同研究の取り組み成果を評価する必要性も示唆されたため、今後の検討課題であると考えます。

現地側共同研究者の大学への意見・要望としては、これまでと同様のよい関係性の継続を希望する意見の一方で、共同研究を大学と始める方法がわからなかった旨の意見がありました。今後は、共同研究に関して大学に相談する等のアクセス方法や共同研究の取り組み方法・流れなどを、看護職者に対してわかりやすく周知していくことの強化が必要と思われました。

Ⅳ　共同研究事業 25 ヵ年の総括と今後の展望

本冊子において、Ⅱでは共同研究事業の 25 ヵ年の実績を主に数字と図表で振り返り、Ⅲでは共同研究者への聞き取り調査の結果から捉えた共同研究の成果を取りまとめて報告しました。その内容を踏まえると、開学から現在に至るまで取り組んできた共同研究事業は、本学の使命である「岐阜県の看護の質向上」を果たすための地域貢献活動の中核をなす活動として、県内看護職の成長や実践現場の組織的・実践的な課題解決を支えてきたことを示しています。本学は県南に位置していますが、県北・県東など本学から遠方の看護職との共同研究にも積極的に取り組んできており、岐阜県下 5 圏域を視野に入れて広域的な観点で共同研究事業を 25 ヵ年にわたって展開してきたことは高く評価できると考えます。

また、共同研究が本学の教育研究活動の充実・発展をもたらしてきたことや、大学が共同研究に取り組む意義についても、自己点検評価結果や共同研究者への聞き取り調査結果から確認できたと考えます。今回、Ⅲにおける大学側共同研究者への聞き取り調査結果から、看護職と協働して研究活動に取り組む際に大事にすべきこと、意図的な働きかけ等が明らかになりました。今後、看護職との共同研究に取り組む教員にとって、非常に有用な内容ですので、参考にしていただければと思います。

25 ヵ年にわたる共同研究の積み重ねによって、実践上の課題を解決することに直結した「看護実践研究」についての理解が着実に岐阜県内に広がり、利用者ニーズを基盤にした看護の具現化に貢献できていると思われます。今後も、実践現場の課題を解決し県内の看護の質向上に貢献し続けるために、これまでに共同研究を通して培ってきた看護職の方々との良い関係性を基盤にしながら、実践を基盤にした共同研究に取り組んでいければと考えます。本学の共同研究は、実践者の意識と行動を変え、組織・体制を変えていく力を持つ「看護実践研究」の考え方が中核です。看護の本質からぶれず、対象者・利用者主体の看護を実現するための看護実践・人材育成のあり方・方法を看護職の方々と共に創っていくことは、今後も大事にしていければと思います。

一方、現在の社会状況（人口減少・超高齢社会の到来、DX 化の進展、看護職の活動の場や働き方の多様化）や広域災害・感染症対策、専門領域・場を超えた多機関・多職種連携、看護職のキャリアマネジメントや生涯学習支援にかかる事項は、喫緊の課題として挙げられます。今後も、本学が、地域貢献活動の拠点である公立看護系大学としての使命を果たしていくためには、将来を見据えて取り組むべき研究課題を大学が提案するタイプの共同研究や、当事者・住民参加型の共同研究等の可能性を検討することが課題であると考えます。また、本学の卒業者や修了者が共同研究に参画し、所属組織の看護の変革を促す推進者として活躍することへの支援の強化についても検討課題であると思われます。

看護を取り巻く環境が急激に変化し、取り組むべき課題は山積していますが、岐阜県の看護が希望で満ち溢れる未来となることをめざし、今後も、共同研究事業を始めとした本学の地域貢献活動や教育研究活動を通して、看護職の皆様と共に成長・発展し続けていきたいと考えます。看護職の皆様には、実践上の課題を解決するための一手段として、本学の共同研究事業を活用していただけますと幸いです。

最後になりましたが、本学教員と共同研究に取り組まれた看護職の皆様、今回の聞き取り調査にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

本冊子に関するご意見・ご感想などございましたら、看護研究センターまでご連絡いただけますと幸いです。

資料

1．25ヵ年の共同研究事業の研究課題一覧

25ヵ年の共同研究事業の研究課題等を示します。なお、共同研究者は各年度発行の共同研究事業報告書をもとに掲載しています。また、本学領域（講座）名は以下の略称で表記しています。

地：地域基礎看護学、機：機能看護学、育：育成期看護学、成：成熟期看護学、セ：看護研究センター

平成12年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
後期高齢者の全数訪問からみた高齢者支援のあり方	地：松山、杉野、森、松下、坪内、米増、三浦、大井 機：岩村、大川、両羽 学長：平山	羽島市保健センター：三宅、廣瀬 羽島市高齢福祉課：横山、国井
基本健診と健康づくり	地：坪内、米増 機：会田 成：梅津 学長：平山	高富町保健課：笠原、瀧本
子どもの生活集団との関連における地域づくり	育：石井、出井 地：坪内 学長：平山	美山町環境保健課：大西、奥田 美山町社会福祉協議会：中島
難病患者の個別援助にかかわる看護職の役割	地：米増、松山、杉野、森、松下、坪内、三浦、大井 成：古川 学長：平山	
在日外国人母子保健の現状	育：服部、堀内、藤迫	大垣市保健センター：高木、河合
身体障害者療護施設の入所者における褥瘡発生リスクの実態	成：兼松、古川、北村、小野、田中、梅津、奥村、小田、水野、坂田	県立陽光園：古川、村瀬、酒井、佐藤、平林
岐阜県の特別養護老人ホームにおける看護職の活動の現状と課題	成：小野、田中、北村、梅津、古川、兼松、水野、奥村、小田、坂田	前・やすらぎ苑：中野 やすらぎ苑：井亦
岐阜県下の一般病院におけるターミナルケアの実態	成：田中（克）、小野、兼松、梅津、古川、奥村、小田、北村、水野、坂田 育：服部、田中（千） 地：八木、米増	
岐阜県下の身体障害者療護施設におけるターミナルケアの実態	成：水野、小野、田中（克）、兼松、梅津、古川、奥村、小田、北村、坂田 育：服部、田中（千） 地：八木、米増	
岐阜県下の老人保健施設におけるターミナルケアの実態	成：梅津、小野、田中（克）、兼松、古川、奥村、小田、水野、北村、坂田 育：服部、田中（千） 地：八木、米増	
岐阜県下の小児医療におけるターミナルケアの実態	育：田中（千）、服部 成：小野、田中（克）、水野 地：八木、米増	
岐阜県の特別養護老人ホームにおける看取りの実態	成：小野、田中、梅津、古川、兼松、水野、北村、小田、奥村、坂田	前・やすらぎ苑：中野 やすらぎ苑：井亦
岐阜県下の保健所・市町村におけるターミナルケアの現状と課題	地：米増、八木 成：小野、田中 育：服部、田中	

平成 12 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
岐阜県下の訪問看護ステーションにおけるターミナルケア調査報告	地：八木、米増 成：小野、田中（克） 育：服部、田中（千）	
山間地域における介護家族支援のあり方の検討　―住民ニーズに基づいた活動の見直し―	地：松山、杉野、森、松下、坪内、米増、三浦、大井 機：岩村、大川、両羽 学長：平山	馬瀬村：和田、藤沢 飛騨地域保健所益田センター：酒井、宮ノ腰、北村
介護予防活動における課題の明確化と共有のプロセス	地：松山、杉野、森、松下、坪内、米増、三浦、大井 機：岩村、大川、両羽 学長：平山	福岡町：早川、松原、良雪
NICU におけるケアパターンが児に及ぼす影響　―極低出生体重児の急性期～退院準備期を通して―	育：服部、堀内、藤迫 機：林	県立岐阜病院新生児センター：向井、安江、原、市川、小竹、野口
バースプランにみる母親のニーズと看護ケアの検討	育：服部、堀内、諸岡、藤迫	羽島市民病院：新見、浅野、中島
育児支援サービスに関する研究　―1 歳 6 ヶ月児、3 歳児をもつ母親の育児支援に関するニード―	育：服部、藤迫、堀内	多治見市保健センター：高木

平成 13 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
市民の健康支援ニーズに対応した保健婦・士活動の改善・充実方法に関する研究	地：森、松山、北山、杉野、松下、坪内、米増、菱田、大井 機：岩村、大川、両羽 学長：平山	羽島市保健センター：廣瀬、橋本、柴田、小山、松本 羽島市高齢福祉課：横山
全住民への責任性を視野に入れた効率的・効果的な保健福祉サービス提供方法の検討	地：大井、坪内、北山、米増、普照 機：会田、上野 成：梅津 学長：平山	高富町保健課：笠原、上野、河村、滑川、木村、村瀬、山田
子どもの生活集団を入り口とした地域づくり	育：石井、出井 地：坪内 学長：平山	美山町役場環境保健課：大西、奥田、桂川、早矢仕
難病患者の援助方法と支援体制の充実・向上に関する研究	地：米増、松山、黒江、池邉、北山、杉野森、松下、坪内、菱田、大井 機：篠田、岩村 育：長谷川、石井 成：古川 学長：平山	羽島市民病院：加藤 飛騨地域保健所：横谷、田中
外国人労働者の育児環境と子育てについて　―在日ブラジル人の子育ての状況から―	育：服部、堀内、藤迫、兼子、清水	大垣市保健センター：高木、川合 大垣国際交流センター：井上
身体障害者療護施設入所者の褥瘡ケアの検討	成：兼松、奥村、古川、北村、小野	県立陽光園：古川、村瀬、酒井、佐藤、平林、武藤、柴田
特別養護老人ホームにおける高齢者のその人らしさを尊重した看護援助の検討　―身体拘束廃止に伴う問題・課題に焦点を当てた 3 回の検討会を通して―	成：原、小野、坂田、奥村、早崎	県立飛騨寿楽苑：中村、清水 県立寿楽苑：三枝　　喜久寿苑：中島 サンビレッジ新生苑：久野　　あすわ苑：高田 恵翔苑：吉村

平成 13 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
岐阜県下のターミナルケアの組織的取り組みと援助方法の検討	地：米増、八木 成：早崎、小野、坂田、奥村、原、梅津、兼松、古川、田中、北村 育：田中、茂本、服部	みどり訪問看護ステーション：宮脇、高田 県立飛騨寿楽苑：中村、清水 県立寿楽苑：三枝　　喜久寿苑：中島 サンビレッジ新生苑：久野　　あすわ苑：高田 恵翔苑：吉村　　大樹：内田 アルカディア：中村　　寺田ガーデン：水谷 愛生病院：渡邉　　聖病院：野々村 ケアホスピタルたかはら：梶野 山内ホスピタル：横井 県立サニーヒルズみずなみ：小出澤 大垣市民病院：樋口 羽島市民病院：萩野、武藤、森
岐阜県における母子保健福祉推進のための援助方法に関する基礎的研究報告	育：出井、服部、長谷川、諸岡、石井、堀内、田中、藤迫、清水、茂本、兼子 機：栗田	岐阜県児童家庭課：奥村 本巣山県センター：居波 川島町保健センター：泉 根尾中学校：大平
羽島市における子育て支援策とそれについての母親の認知・利用状況に関する調査　―子育てグループに参加する母親たちが望む地域育児サポートとは―	育：服部、堀内、藤迫、清水、茂本、兼子 機：栗田、林、両羽	羽島市保健センター：橋本、松本
老人保健施設における音楽療法への看護職の関わりと認識について	成：坂田、小野、原、早崎、斎藤	岐阜県音楽療法研究所：水野 大樹：内田 寺田ガーデン：藤原
岐阜県における産業保健活動に携わる看護職の実態調査	機：上野、奥井、栗田、林 成：梅津、斎藤、兼松、奥村	旭化成工業（株）穂積工場：佐藤 岐阜県インダストリアルナーシング会：多和田 ＮＴＴ岐阜健康管理センタ：水野 岐阜県労働基準協会連合会：加藤、鬼頭
白川町の保健福祉活動を発展させる要因と評価に関する研究	地：坪内、北山、池邉、森、松下、米増、菱田、大井、高橋 育：石井 機：岩村 学長：平山	白川町保健福祉課：長尾（志）、三尾、長尾（ひ）、高木、間宮、斎藤
労働生活適応への支援　―在職死亡者および長期休業者の事例分析から―	機：両羽、上野 成：梅津	岐阜市健康相談室：廣江、井上
西濃地域における療育システムの構築と保健婦の役割	機：岩村、篠田、両羽 育：服部、茂本	西濃地域保健所：高橋、冨田、堀部、平山
精神科看護実践とキャリア発達との関連	地：池邉、グレッグ、高橋 機：池西	岐阜県医療整備課：橋本、佐々木 岐阜県保健医療課：米山 （社）岐阜病院：真鍋、村岡、中澤、星、武藤
農山村地域における住民との共同による新しい時代の保健･医療･福祉のあり方	地：北山、森、松山、松下、藤澤、普照 機：会田、岩村、篠田、両羽 育：石井 学長：平山	和良村保健福祉課：中嶋 和良村国民健康保険病院：加藤
医療機関における労働生活適応への支援のあり方	機：上野 成：梅津	中部労災病院：小林、高木、川北
社員参加型健康教育“バーチャル健康ひろば”の有効性の検討	機：上野 成：梅津	NTT 岐阜健康管理センタ：水野、中森、桑原、杉岡
介護療養型医療施設における患者家族への介護支援に関する研究	成：坂田、小野、原、早崎	愛生病院：中村、渡邉、三島、小林 ふれあい訪問看護ステーション：加藤
成人・老人患者を対象にした病棟における看護活動の質的向上の検討―大学教員が共同研究者として現場に関わる上での課題―	成：小野、古川	大垣市民病院：西嶋、藤田、広瀬
糖尿病患者の看護支援のニード　―成人・老人患者の面接調査から―	成：小野、坂田、田中、奥村、原、早崎	羽島市民病院：広瀬 聖病院：堀
10 代の妊娠・出産・育児の実態とその問題点	育：服部、藤迫、堀内、兼子	羽島市民病院：中島
助産婦が行う性教育の有効性に関する研究	育：服部、堀内、藤迫、清水、兼子	高山赤十字病院：井上、林、田中、原谷

平成 13 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
岐阜県における糖尿病教育の現状	地：黒江、藤澤、普照	
過疎地域の診療所で働く看護職の課題と看護活動のあり方	地：松山、黒江、池邉、北山、八木、グレッグ、杉野、森、松下、坪内、米増、松田、藤澤、菱田、大井、普照、高橋 成：齊藤、坂田、小野、田中、兼松、奥村、原、早崎 育：出井、長谷川 学長：平山	岐阜県医療整備課：橋本 久瀬村診療所：渡辺
学習意欲を支える働きかけを基盤に据えた看護職確保事業　―高校時代の看護志望者の事前把握と情報提供体制づくり―	機：宮本、小熊、香ノ木、上野、栗田、林、会田、岩村、大川、池西、両羽、篠田、小澤、奥井	岐阜県医療整備課：佐々木
看護職のキャリア発達	地：グレッグ、池邉、池西 機：林 学長：平山	岐阜県立衛生専門学校：白木 岐阜県医療整備課：橋本

平成 14 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
市民の健康支援ニーズに対応した保健師活動改善方法	地：森、北山、杉野、松下、坪内、菱田、大井 機：岩村、会田、大川、篠田、両羽 学長：平山	羽島市保健センター：堀、橋本、柴田、小山、松本 羽島市高齢福祉課：横山、国井
全住民への保健福祉サービス提供方法	地：坪内、北山、大井、普照、米増 機：会田 成：梅津 学長：平山	高富町保健課：笠原、河村、滑川、塚本、村瀬、山田
保健師と学校との連携	育：石井、出井 地：坪内 学長：平山	美山町環境保健課：大西、奥田、桂川、早矢仕
難病患者の援助方法と支援体制の充実方法	成：古川 機：篠田、大川、岩村 地：北山、松山、坪内、菱田、大井、杉野、森、松下、米増、黒江 育：長谷川、石井 学長：平山	飛騨地域保健所：横谷、田中 羽島市民病院：加藤
特別養護老人ホームにおけるその人らしさを尊重した看護援助の検討 ―盗食・異食行為がある痴呆性高齢者の援助―	成：小野、早崎、原、奥村、坂田	飛鳥美谷苑：脇田　県立寿楽苑：三枝 県立飛騨寿楽苑：中村、清水　やすらぎ苑：井亦 恵翔苑：吉村　喜久寿苑：中島　友和苑：松浪 ビアンカ：酒井　サンビレッジ新生苑：久野 サンライフ彦坂：大橋　あすわ苑：高田
岐阜県下のターミナルケアの組織的取り組みと援助方法の検討	地：八木 育：田中（千）、茂本、服部 成：田中（克）、奥村、北村、早崎、小野、坂田、原、梅津、兼松、古川	みどり訪問看護ステーション：高田、宮脇 羽島市民病院：武藤、森、萩野　喜久寿苑：中島 飛鳥美谷苑：脇田　ビアンカ：酒井 サンビレッジ新生苑：久野　友和苑：松浪 サンライフ彦坂：大橋　やすらぎ苑：井亦 恵翔苑：吉村　あすわ苑：高田 県立寿楽苑：三枝　県立飛騨寿楽苑：中村、清水 アルカディア：中村　寺田ガーデン：水谷 ケアホスピタルたかはら：梶野　愛生病院：三島 山内ホスピタル：堀田、横井　聖病院：野々村 県立サニーヒルズみずなみ：小出澤

平成 14 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
痴呆および寝たきり予防看護における音楽療法の活用	成：原、坂田、小野、早崎	岐阜県音楽療法研究所：水野　　太陽苑：若井 寺田ガーデン：藤原　　大樹：内田
労働生活を支援する看護活動	機：上野、奥井、栗田、林 成：梅津、兼松、奥村	旭化成工業（株）穂積工場：佐藤 ＮＴＴ東海健康管理センタ：福森 岐阜県労働基準協会連合会：水野、加藤 （株）ブリヂストン関工場：酒井
保健福祉活動展開における保健師活動の原則	地：松下、坪内、北山、森、菱田、大井 育：石井 機：岩村 学長：平山	白川町保健福祉課：長尾（志）、三尾、長尾（ひ）、高木、加藤、斎藤
労災病院における勤労者医療(看護)の推進	機：上野 成：梅津	中部労災病院：小林、川北、高木
企業で働く従業員への産業看護活動の分析	機：上野 成：梅津	NTT 東海健康管理センタ：桑原、中森、杉岡、福森
介護療養型医療施設での患者家族への支援	成：坂田、小野、原、早崎 機：宮本	愛生病院：笠原、三島、小林、荒深 ふれあい訪問看護ステーション：加藤 山内ホスピタル：粥川、堀田、横井 聖病院：堀、野々村、辻 澤田病院：日比野、幅、浅田
成人・老人病棟での看護活動の質的向上　―入院患者及び付き添い家族の看護師の対応に対する満足度―	成：小野、早崎、古川	大垣市民病院：河瀬、藤井、野田、広瀬（隆）、藤田、広瀬（文）
生活習慣病を有する成人・老人患者の看護支援　―糖尿病外来患者の自己管理行動を引き出す教育支援―	成：小野、坂田、原、早崎	羽島市民病院：南谷、廣瀬、竹田 聖病院：堀、日々野
糖尿病教育活動の現状	地：黒江、藤澤、普照	平野総合病院：荒井 県立岐阜病院：北折、安田 羽島市民病院：竹田、南谷
看護技術習得に関する教育体制づくり	地：グレッグ、池邉 機：宮本 成：田中 育：長谷川、堀内 学長：平山	羽島市民病院：廣瀬
急性期精神科入院患者の家族の課題と看護	地：池邉、グレッグ、高橋 機：池西	養南病院：山内、吉野、有馬、水谷
在宅療養者の服薬にかかわる看護援助の実態と課題	地：普照、藤澤、松山	ふれあい訪問看護ステーション：加藤 訪問看護ステーションひまわり：渡邊 ＳＵＮ・サン訪問看護ステーション：中川
保健福祉介護サービス提供における看護職の役割・機能	地：大井、北山、菱田、松下、坪内 機：両羽、小澤 学長：平山	高鷲村保健福祉課：伊藤、上村
町民の健康問題の抽出と健康づくり計画の策定	機：栗田、奥井、会田、篠田、小澤、堀	川島町保健センター：泉、川瀬、苅谷、野田、川口 岐阜地域保健所：和田
多胎児支援の現状と課題	育：服部、堀内、藤迫、清水、兼子	岐阜市北保健センター：川上、里見 県立岐阜病院：大法
高校生の生活実態と健康認識	育：服部、出井、堀内、茂本	県立大垣工業高校：富田 県立大垣西高校：田辺
低出生体重児とその家族に対する継続支援のあり方に関する検討　―超低出生体重児の退院後の生活と支援の実態―	育：茂本、服部 機：林	県立岐阜病院：小谷 県立衛生専門学校：野口
妊婦の日常生活運動量と妊娠、分娩経過とその関連について	育：藤迫、服部、堀内、兼子、清水	もりレディスクリニック：森、塚本、富田 羽島市民病院：中島
小学生への性教育方法の開発	育：堀内、服部、清水、兼子、藤迫	竹鼻小学校：川崎、安田、河合
学校と地域の連携による小中高校生の健康問題への支援	育：出井、茂本 機：栗田	岐阜県児童家庭課：居波 岐阜県子ども支援室：堅田 池田町立宮地小学校：阪野 羽島市立桑原中学校：森島 県立池田高校：高橋 県立羽島北高校：中村

平成 15 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
市民の健康支援ニーズに対応した保健師活動の改善・充実方法に関する研究	セ：大川、岩村 地：森、菱田、北山、杉野、松下、坪内、大井 機：会田、両羽 学長：平山	羽島市保健センター：堀、横山、柴田、小山、松本、佐藤 羽島市高齢福祉課：橋本、国井
難病患者の援助方法と支援体制の充実・向上に関する研究	地：米増、松山、北山、杉野、森、松下、坪内、菱田、大井 成：古川 育：長谷川、石井 セ：岩村、大川 学長：平山	羽島市医師会訪問看護ステーション：伊藤 羽島市民病院：加藤 飛騨地域保健所：横谷、田中
特別養護老人ホームにおける入所者のその人らしさを尊重した看護援助の検討　―死の看取りを含むターミナルケア実践事例を通して―	成：小野、坂田、奥村、原、林	ビアンカ：酒井、鈴木　　寿和苑：池田 恵翔苑：吉村、保木　　やすらぎ苑：井亦 サンシャイン美濃白川：安川 友和苑：松波、坂倉　　白鶴荘：高木 県立寿楽苑：三枝　　県立飛騨寿楽苑：中村、清水 喜久寿苑：中島　　飛鳥美谷苑：脇田 あすわ苑：朝倉、高田　　千寿の里：西崎 サンライフ彦坂：大橋　　さくら苑：上見 瑞光苑：片桐　　サンビレッジ新生苑：久野
痴呆及び寝たきり予防看護における音楽療法の活用	成：原、坂田、小野、林	岐阜県音楽療法研究所：水野 太陽苑：若井、日置、河尻 中津川ナーシングピア：小幡、渡辺 岐阜県音楽療法士：黒田、佐川、田畑、田口
岐阜県における働く人々の労働生活を支援する看護実践能力の追究　―メンタルヘルス活動についての研究交流―	機：上野、奥井、栗田、林 成：梅津、兼松、奥村	（株）ブリヂストン関工場：酒井 ＮＴＴ東海健康管理センタ：福森 旭化成工業（株）穂積工場：佐藤 岐阜県労働基準協会連合会：水野 エーザイ川島工場：武藤
労災病院における勤労者医療・看護推進への組織的取り組み	機：上野 成：梅津	中部労災病院・看護部：小林、高木
介護療養型医療施設での患者家族への支援	成：坂田、小野、原、林 機：宮本	愛生病院：笠原、三島、小林、荒深、飯村、菊地 ふれあい訪問看護ステーション：加藤 山内ホスピタル：粥川、堀田、横井 聖病院：堀、辻、今尾、若山 澤田病院：日比野、幅、浅田 ケアホスピタルたかはら：梶野
一般病院における看護活動の質的向上に関する研究	成：小野、古川、林 育：田中	大垣市民病院：廣瀬（文）、藤田、廣瀬（隆）、野田、藤井 元・大垣市民病院：河瀬
生活習慣病を有する成人・老人患者の看護支援に関する研究	成：小野、坂田、原、林	羽島市民病院：南谷、竹田 聖病院：堀、日々野
糖尿病と生活	地：黒江、藤澤、普照	羽島市民病院：南谷 平野総合病院：荒井
精神障害者の家族支援の実態と基盤整備	地：池邉、高橋 セ：グレッグ 機：池西	養南病院：山内、吉野、有馬、水谷、棚倉、塩澤
小規模町村での保健福祉介護サービス提供活動における看護職の役割・機能に関する研究	地：大井、北山、菱田、松下、坪内、米増 機：両羽、小澤 学長：平山	高鷲村保健福祉課：伊藤、上村
住民と協働する健康なまちづくり計画の策定に関する研究	機：栗田、奥井、会田、小澤	川島町保健センター：泉、川瀬、苅谷、野田、川口 岐阜地域保健所：篠田
多胎児支援の方法に関する研究	育：服部、堀内、清水、兼子	県立多治見病院：田口、福士、松原 県立岐阜病院：大法 大垣市民病院：藤野
高校生の生活実態と性にともなう健康問題に関する研究	育：服部、出井、堀内、清水、兼子	県立大垣工業高校：富田 県立池田高校：高橋
低出生体重児とその家族に対する継続支援のあり方に関する検討	育：茂本、服部 機：林	県立岐阜病院：武藤 県立衛生専門学校：野口
妊婦の日常生活運動量と妊娠・分娩経過との関連について	育：兼子、清水、堀内、谷口、服部	もりレデイスクリニック：富田、塚本、森 羽島市民病院：中島

平成 15 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
一般病院におけるターミナルケア	成：田中、奥村、小田、梅津、北村 セ：グレッグ	羽島市民病院：佐藤、武藤、萩野
家庭における褥瘡の発生と転機の要因　―他職種･家族との連携を主体に―	地：松山、森、藤澤、普照 成：兼松、古川	羽島市医師会訪問看護ステーション：伊藤 ふれあい訪問看護ステーション：加藤 訪問看護ステーションひまわり：渡邊
障害児･者施設における入所者の健康生活の維持･向上をめざした看護活動の検討	成：兼松、古川、北村 育：長谷川	しおなみ苑：古田　　西濃サンホーム：金子 県立サニーヒルズみずなみ：小出澤 双樹園：中野　　県立陽光園：平林 県立ひまわりの丘第二学園：立木 県立ひまわりの丘第三学園：高岸 陶技学園みずなみ荘：有賀　　可茂学園：梶浦
看護の質の向上と継続性を保証するための施設間連携のあり方	成：坂田、小野、奥村、原、林	久美愛病院：山本、洞口、田口、西田、光本、池田、今井 ひだ訪問看護ステーション：芹田 高山厚生病院：西村、無雁、野村、竹ノ内 アルカディア：中村、玉腰、谷口 県立飛騨寿楽苑：中村、森谷
急性状態を経過する成人・老人心疾患患者とその家族の看護援助の構造化	成：小野、奥村、北村	大垣市民病院：石原、森、小川、長沢、沖、山本、近藤
総合病院精神科における看護ケアの特徴　―バリエーションおよび量の明確化―	地：松田、八木 機：上野	羽島市民病院：新田、広瀬、清水
実習施設の看護職とともに取り組む「労働の場における看護」の教育体制づくり	成：梅津、田中、小田、北村、兼松、奥村、古川 機：上野	（株）ブリヂストン関工場：酒井
心筋梗塞患者への看護支援の検討	成：奥村、梅津、北村 地：坪内	羽島市民病院：新美、小野、笠原
キャリア発達とクリニカルラダー―内発的動機づけによる活用促進の検討―	セ：グレッグ 地：池邉 機：池西	羽島市民病院：時吉、小島、古澤、堀、新井

平成 16 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
壮年期･老年期における住民自身による生活習慣病予防への取り組みを支える保健師活動の方法	地：松下、米増、坪内、森、杉野、北山、菱田、大井 セ：大川、岩村 機：会田、両羽 学長：平山	羽島市保健センター：堀、横山、柴田、小山、松本、佐藤、服部 羽島市高齢福祉課：橋本、国井
難病患者の援助方法と支援体制の充実・向上に関する研究	地：米増、松山、北山、杉野、森、松下、坪内、大井 成：古川 育：石井 学長：平山	訪問看護ステーション大樹：林 羽島市民病院：加藤 岐阜地域保健所本巣・山県センター：安田 岐阜地域保健所：田中 飛騨地域保健所：横谷、中村 飛騨地域保健所下呂センター：北村 保健医療課：堀
特別養護老人ホームにおける入所者のその人らしさを尊重した看護援助の検討	成：小野、坂田、奥村、原、岩崎、林 セ：岩村	恵翔苑：吉村、保木　　ビアンカ：酒井、鈴木 県立寿楽苑：三枝　　やすらぎ苑：井亦、岡田 大和園：洞口、藤野　　喜久寿苑：中島 白鶴荘：高木、小野 サンシャイン美濃白川：安川 友和苑：松波、坂倉 県立飛騨寿楽苑：中村、清水 あすわ苑：朝倉、高田、渡辺　　さくら苑：上見 ジョイフル各務原：新見　　前・千寿の里：西崎 瑞光苑：片桐

平成 16 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
岐阜県における働く人々の労働生活を支援する看護実践能力の追究	機：上野、奥井、栗田、林 成：梅津、奥村、兼松	岐阜県労働基準協会連合会：水野 旭化成建材（株）穂積工場：佐藤 エーザイ（株）川島工場：武藤 （株）ブリヂストン関工場：酒井 東レ（株）：宮川 NTT 東海健康管理センタ：福森
労災病院における勤労者医療・看護推進への組織的取り組み	機：上野 成：梅津	中部労災病院・看護部：小林、高木
介護療養型医療施設での患者家族への支援	成：坂田、小野、岩崎、林 機：宮本	愛生病院：広瀬、笠原、三島、小林、荒深、飯村、菊地 ふれあい訪問看護ステーション：加藤 山内ホスピタル：粥川、堀田、横井 聖病院：堀、辻、今尾、若山 澤田病院：日比野、吉田、浅田、奥村 ケアホスピタルたかはら：梶野 高山厚生病院：西山、野村、無雁、竹ノ内 岐北厚生病院：伊川、村上、藤村、高木、三井、春日
一般病院における看護活動の質的向上に関する研究　―看護師の対応に対する患者･家族の満足度を測定する用具（スケール）の開発―	成：小野、古川、林 セ：グレッグ 機：会田	大垣市民病院：廣瀬（文）、藤田、廣瀬（隆）、野田 元・大垣市民病院：河瀬
生活習慣病を有する成人・老人患者の看護支援に関する研究	成：小野、坂田、田中、小田、岩崎、林	羽島市民病院：南谷、竹田 戸谷内科：西野、坂倉、岡田、佐藤
慢性の病いと生活　―長い経過の中で人々が保健医療に求めるもの―	地：黒江、藤澤、普照、佐賀	松波総合病院：山田　　近石病院：中島 堀谷医院：山田
急性期病棟入院の精神障害の家族支援の基盤整備	地：池邉、高橋、片岡 セ：グレッグ 機：池西	養南病院：山内、吉野、有馬、古川、水谷
町村合併後の山間過疎地区における保健福祉介護サービスの質の充実と提供方法に関する研究	地：大井、北山、松下、坪内、米増、菱田 機：両羽、小澤 学長：平山	郡上市健康政策課：伊藤 郡上市高鷲地域振興事務所健康福祉課：上村
多胎児支援の方法に関する研究	育：服部、谷口、堀内、布原、兼子、荒尾 機：両羽	県立多治見病院：田口、福士、松原 県立岐阜病院：宮本、永田、細江
低出生体重児とその家族に対する継続支援のあり方に関する検討　―退院後のフォローアップの充実を図るために―	育：谷口、茂本、服部 地：米増 機：林	県立岐阜病院：武藤、大坪、小島、田口、川本
一般病院におけるターミナルケア	成：田中、小野、奥村、小田、梅津、北村 セ：グレッグ	羽島市民病院：中川、佐藤、武藤 岐阜市民病院：小松、杉本
家庭における褥瘡ケアに関するアセスメントと連携のあり方	地：松山、森、藤澤、普照、佐賀 成：兼松	羽島市医師会訪問看護ステーション：花村 ふれあい訪問看護ステーション：加藤 訪問看護ステーションひまわり：渡邊 訪問看護ステーション大樹：林
障害児･者施設における入所者の健康生活の維持･向上をめざした看護活動の検討	成：兼松、古川、北村 育：長谷川 地：杉野	県立ひまわりの丘第二学園：立木 しおなみ苑：古田　　陶技学園みずなみ荘：有賀 可茂学園：梶浦　　第二陶技学園：今井 福祉の里さわらび苑：高木　　双樹園：中野 第三恵光学園：橋塚 元・県立サニーヒルズみずなみ：小出澤 県立陽光園：高岸、平林　　西濃サンホーム：金子 県立幸報苑：古田
看護の質の向上と継続性を保証するための施設間連携のあり方	成：坂田、梅津、岩崎、小野、古川 セ：グレッグ 地：米増	久美愛厚生病院：山本、洞口、田口、渡辺、西田、田近、池田、今井 ひだ訪問看護ステーション：芹田 高山厚生病院：西村、無雁、野村、竹ノ内 アルカディア：下嶋、玉腰、谷口 県立飛騨寿楽苑：中村、森谷
急性状態を経過する成人・老人心疾患患者とその家族の看護援助	成：小野、奥村、北村 地：坪内	大垣市民病院：石原、森、小川、長沢、広瀬、柳瀬、沖、山本、近藤 独立法人病院機構岐阜病院：河原畑

平成 16 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
実習施設の看護職と共に取り組む「労働の場における看護」の教育体制作り	成：梅津、田中、小田、北村、兼松、奥村、古川 機：上野	（株）ブリヂストン関工場：酒井 三洋電機(株)岐阜産業保健センター：安田
循環器系機能障害をもつ成熟期の人への看護援助の検討	成：奥村、梅津、北村 地：坪内	羽島市民病院：新美、古田、岩田、笠原 元・羽島市民病院：小野
介護老人保健施設における高齢者ケアの改善課題と組織的取り組みの検討	成：坂田、岩崎	太陽苑：若井、河尻 中津川ナーシングピア：小幡、萩、鈴木
血液透析をうけながら生きる人の看護について考える	成：小田、小野、田中、兼松、梅津、北村 機：宮本	岐北厚生病院：小島、越野、宇山、松原、犬飼、古田、長瀬
乳児院における看護師の役割・機能に関する研究	育：石井、泊、長谷川、茂本、山田 地：杉野	乳幼児ホームまりあ：濱砂、早野、藤田
住民主体の健康づくり活動に関する研究	地：大井、米増、坪内、北山 セ：大川 機：両羽	川辺町保健センター：佐伯、井戸、石井、南波、堀井、西尾
地域住民の障害児・者の受け入れと地域づくりに関する研究	セ：大川、岩村 地：杉野、松下、大井 成：梅津、古川 学長：平山	羽島学園：安藤、森島、吉田、熊崎 羽島市保健センター：横山
救命救急病棟における看護機能活性化に向けた取り組み	機：池西、林、宮本、鎌田	県立岐阜病院：中村、亀山、廣瀬
岐阜県における母乳育児支援の実態調査	育：服部、谷口、堀内、布原、兼子、荒尾	高田医院：高田（恵）、高田（恭）
精神科における長期在院患者への看護実践の検討	地：片岡、池邉、高橋 セ：グレッグ 機：池西	須田病院：長瀬　大湫病院：纐纈 慈恵中央病院：家田　（社）岐阜病院：村岡

平成 17 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
難病患者支援に関わる専門職の活動の現状と課題およびその解決策の検討	地：米増、松山、松下、大井 成：古川	前・大垣北クリニック：林 在宅介護支援センター清風：五十嵐 大垣市民病院：志知 岐阜県難病団体連絡協議会：安藤
特別養護老人ホームにおける入所者のその人らしさを尊重した看護援助の検討	成：小野、奥村、坪井、岩崎、古田、坂田 セ：岩村	県立寿楽苑：三枝　県立飛騨寿楽苑：中村、清水 ジョイフル各務原：新美　ビアンカ：酒井、鈴木 友和苑：松波、坂倉　ナーシングケア寺田：大坪 やすらぎ苑：井亦、岡田 恵翔苑：吉村、保木平、片田 大和園：藤野、洞口、岩田 あすわ苑：高田、朝倉、渡辺　白鶴荘：高木 喜久寿苑：中島　さくら苑：上見 寿光苑：安藤　いぶき苑：小谷 千寿の里：土本　サンビレッジ新生苑：久野 星のくに彩の里：米田　県立岐阜病院：西崎 瑞光苑：片桐
働く人々の労働生活を支援する看護実践能力の追究	機：上野、奥井 成：梅津、兼松、奥村	NTT 西日本東海健康管理センタ：桑原、福森 旭化成建材（株）穂積工場：佐藤 岐阜県労働基準協会連合会：水野 （株）ブリヂストン関工場：酒井 東レ（株）岐阜工場：宮川 エーザイ（株）川島工場：武藤
労災病院における勤労者医療・看護推進への組織的取り組み	機：上野 成：梅津	中部労災病院・看護部：小林、中島、井村、岡本
介護療養型医療施設での患者家族への支援	成：坂田、岩崎、古田 機：宮本	高山厚生病院：西村、野村、無雁、竹之内 愛生病院：広瀬、飯村、川合、菊地 前・愛生病院：笠原、三島、荒深 聖病院：辻、若山、小林　前・聖病院：堀

平成 17 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
看護師の援助に対する入院患者の満足度を測定する用具（スケール）の開発	成：小野、古川、古田 セ：グレッグ 機：会田	大垣市民病院：廣瀬（文）、藤田、廣瀬（隆）、野田 パナソニックエレクトロニックデバイス（株）：河瀬
生活習慣病を有する青年期・壮年期・老年期にある患者の看護支援に関する研究	成：小田、小野、坂田、田中、岩崎	羽島市民病院：南谷 戸谷内科：西野、坂倉、佐藤
慢性の病いとともにある生活の中で人々が保健医療に求めるもの	地：黒江、藤澤、普照、佐賀	松波総合病院：山田　　岐阜中央病院：中島 大垣市民病院：栗田　　揖斐厚生病院：古野
障害児（者）支援体制づくりにおける保健師活動の評価と町村合併後の支援体制づくりの検討	地：大井、菱田、松下、坪内、米増、北山 機：両羽、小澤	郡上市健康政策課：伊藤 郡上市高鷲地域振興事務所健康福祉課：上村
多胎児支援の方法に関する研究	育：服部、谷口、堀内、布原、名和、荒尾 機：両羽	県立多治見病院：田口、福士、松原 県立岐阜病院：宮本、細江
ハイリスク児とその家族に対する継続支援のあり方に関する検討	育：谷口、服部、泊、石井、布原 地：米増	県立岐阜病院：武藤、大坪、川本、森、大藤、坪内、小島、堀江、長屋、中村、細江
一般病院におけるターミナルケア	成：田中、小野、奥村、小田、梅津、北村 セ：グレッグ	羽島市民病院：中川、小島、加藤、馬渡、佐藤、武藤 岐阜市民病院：小松、杉本
障害者施設における入所者の健康生活の維持･向上をめざした健診・検診のあり方	成：兼松、古川、北村 地：杉野	飛翔の里生活の家：近藤、戸嶋、安藤、渡辺 西濃サンホーム：金子、窪田、春日井
看護の質の向上と継続性を保証するための施設間連携のあり方	成：坂田、梅津、岩崎、古田 機：宮本 セ：グレッグ	久美愛厚生病院：山本、洞口、今井、西田、池田、田近、堀井、室屋、田口、渡辺、中村、川上 ひだ訪問看護ステーション：芹田、古田 高山厚生病院：西村、無雁、野村、竹ノ内 アルカディア：下嶋、大野 県立飛騨寿楽苑：中村、森谷
急性状態を経過する成人・老人心疾患患者の看護援助の構造化	成：奥村、小野、北村 地：坪内	大垣市民病院：石原、船越、長沢、沖、山本、渡辺、臼井、近藤、森 独立行政法人国立病院機構 長良医療センター：河原畑
循環器系機能障害をもつ成熟期の人への看護援助の検討	成：奥村、梅津、北村 地：坪内	羽島市民病院：岩田、古田
血液透析をうけながら生きる人の看護援助に関する研究	成：小田、小野、田中、兼松、梅津、北村 機：宮本	岐北厚生病院：小島、越野、宇山、松原、古田、長瀬、岩井
住民主体の健康づくり活動に関する研究	地：大井、米増、坪内、北山 セ：大川 機：両羽	川辺町保健センター：佐伯、井戸、石井、南波、堀井、福島
地域住民の障害児・者の受け入れと地域づくりに関する研究	セ：大川、岩村 地：杉野、松下、大井 成：梅津 学長：平山	知的障害者更生施設羽島学園：安藤、森島、吉田 生活サポートはしま：熊崎 羽島市保健センター：横山、柴田、小山、松本、佐藤、服部
救命救急センターにおける看護機能活性化に向けた取り組み	機：池西、宮本、鎌田	県立衛生専門学校：林 県立岐阜病院：中村、亀山、廣瀬
施設・地域における母乳育児支援の課題と方法に関する研究	育：服部、谷口、堀内、布原、名和、荒尾 機：大法	高田医院：高田（恵）、高田（恭） 西川レディースクリニック：竹下、西川
精神科病院における社会復帰に向けた看護実践の取り組み	地：片岡、高橋、三宅、北山 セ：グレッグ	須田病院：長瀬、清水、若岡、山口、川田 大湫病院：纐纈、大嶽、水野 慈恵中央病院：家田、長谷部、臼田 （社）岐阜病院：村岡、堀、中澤、杉本、川村 のぞみの丘ホスピタル：安藤、山本、竹林、中
看護学生の就職支援を目指した「看護実践体験課外プログラム」開発に関する研究	セ：グレッグ 成：古川 機：大法 地：藤澤 学長：平山	県立下呂温泉病院：田辺、伊藤、柴倉、佐藤、河合 岐阜県医療整備課：安藤

平成 17 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
組織の中での退院調整システムの確立に向けて	地：藤澤、普照、森、黒江 成：古川 育：石井 学長：平山	県立下呂温泉病院：田辺、伊藤、糸川、川井、今井、日下部、池田、庄村、熊崎
地域ケア会議の充実に向けた取り組み	地：米増、松下、片岡、杉野、森	揖斐郡北西部地域医療センター：高橋、渡辺、吉村、井口、安藤 揖斐川町社会福祉協議会久瀬支所：杉山 揖斐川保健センター：野原 揖斐川町久瀬支所住民福祉課：川村
岐阜県の看護教員養成講習カリキュラム及び方法の検討と改善	機：宮本、大法、池西 育：布原 成：奥村	県医療整備課：安藤 県立下呂温泉病院：田辺 県立衛生専門学校：橋本、林
継続支援における障害児・者施設と医療機関との連携の充実に関する研究	成：兼松、古川、北村 育：長谷川	中濃厚生病院：東松、川崎、松井 第二美谷学園：船戸　第三美谷学園：石井、恩田 県立ひまわりの丘第一学園：岩月 県立ひまわりの丘第二学園：野原 県立ひまわりの丘第三学園：村瀬 県立ひまわりの丘第四学園：鷲見 岐阜県福祉総合相談センター：高岸 県立陽光園：立木
訪問看護ステーションにおける重度障害児をもつ家族の活動性を促進する支援の検討	育：泊、長谷川、石井、豊永 地：普照	白百合訪問看護ステーション：大野、箕浦、池戸、近松
訪問看護サービスの効果を示して看護の役割拡大を図る方法	地：森、普照、佐賀、松山	サンビレッジ新生苑 訪問看護ステーション：唐田、本間 訪問看護ステーションひまわり：渡邊
住民みんなで取り組む認知症（痴呆症）予防活動の展開方法	地：松下、米増、坪内、大井、菱田、森、北山 セ：岩村、大川 機：会田	白川町保健福祉課：三尾、長尾、高木、加藤、齋藤 白川町教育課：長尾

平成 18 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
働く人々の労働生活を支援する看護実践能力の追究	機：上野、奥井 成：梅津、奥村、北村	岐阜県労働基準協会連合会：水野 （株）ブリヂストン関工場：酒井 旭化成建材（株）：佐藤 エーザイ（株）川島工園：武藤 NTT 東海健康管理センタ：福森、桑原 東レ（株）岐阜工場：宮川 三洋電機（株）岐阜産業保健センター：大橋 エプソンイメージングデバイス（株）岐阜事業所：大森 山内ホスピタル：古澤
労災病院における勤労者医療・看護推進への組織的取り組み	成：梅津、奥田 機：上野	中部ろうさい病院・看護部：小林、中島、井村、岡本、茶木
生活習慣病を有する青年期・壮年期・老年期にある患者の看護支援に関する研究	成：小田、田中、原沢、岩崎 セ：小野	羽島市民病院：南谷、大内 大垣市民病院：佐々木、吉田、加納、安田
慢性の病いとともにある生活に求められる看護援助および援助提供システムについての検討	地：田内、河村、藤澤、普照、黒江	松波総合病院：山田　揖斐厚生病院：古野 岐阜中央病院：中島　大垣市民病院：栗田 岐阜大学：恒川
障害児（者）支援体制づくりにおける保健師活動の評価と町村合併後の支援体制づくりの検討	地：坪内、大井、菱田、松下、米増、北山 機：両羽 セ：小澤	郡上市高鷲地域振興事務所健康福祉課：上村 郡上市健康福祉部健康政策課：羽土 郡上市大和地域振興事務所健康福祉課：橋本 郡上市八幡地域振興事務所健康福祉課：加藤
多胎児支援の方法に関する研究	育：名和、服部、谷口（通）、堀内、布原、宮本 機：両羽	県立多治見病院：田口、福士、小木曽 多治見市保健センター：桜井、日置

平成 18 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
一般病院におけるターミナルケア	成：田中、奥村、小田、梅津、北村、奥田 セ：大川	羽島市民病院：中川、小島、加藤、馬渡、佐藤、武藤 岐阜市民病院：小松、杉本
障害者施設における入所者の健康生活の維持･向上をめざした健診・検診のあり方	成：古川、北村、平岡 地：杉野	飛翔の里第二生活の家・健康部：近藤、安藤、戸嶋、加藤
急性状態を経過する成人・老人心疾患患者の看護援助の構造化	成：北村、奥村、平岡 地：坪内 セ：小野	大垣市民病院：沖、石原、田中、西脇、山本
循環器系機能障害をもつ成熟期の人への看護援助の検討	成：奥村、梅津、北村、平岡 地：坪内	羽島市民病院：古田、宇陀、下條
障害児・者及び家族を地域で支えるための連携した支援体制づくりに関する研究	セ：大川、岩村 地：杉野、松下、大井 成：梅津 学長：平山	知的障害者更生施設羽島学園：安藤、森島、吉田 生活サポートはしま：熊崎 羽島市保健センター：橋本
母子に関わる看護職者向けの母乳育児支援プログラム開発およびその効果の検討	育：布原、服部、谷口（通）、堀内、名和、宮本 機：大法	高田医院：高田（恵）、高田（恭）
精神科病院における社会復帰に向けた看護実践の取り組み	地：片岡、井手、三宅、松下、北山 セ：大川	須田病院：橋戸、宮下 大湫病院：纐纈、水野、勝股 慈恵中央病院：家田、臼田、青木 （社）岐阜病院：村岡、堀、田中、葛谷、杉本、高橋 のぞみの丘ホスピタル：安藤、日比野、吉浜、山中、野村、藤田、安田、山本、竹林、山田
病院利用者の望む療養生活に向けての退院支援の充実	地：藤澤、普照、河村、森、黒江 育：石井 学長：平山	県立下呂温泉病院：川井、田辺、糸川、遠藤、今井、熊崎、田口、中口、住、庄村、樋口、各務、内垣戸
地域ケア会議の充実に向けた取り組み	地：米増、松下、片岡、森、坪内、杉野	揖斐郡北西部地域医療センター・久瀬診療所：高橋、渡辺、吉村
訪問看護ステーションにおける重度障がい児をもつ家族の活動性を促進する支援の検討	育：泊、長谷川、石井、谷口（恵）、豊永 地：普照	羽島市医師会訪問看護ステーション：花村、小川、村島 白百合訪問看護ステーション：近松、箕浦、池戸
介護保険体制下において高齢者のいきいき生活を実現する地域の体制づくり	地：松下、森、坪内、米増、北山 セ：岩村、大川	白川町地域包括支援センター：田口、長尾、則武 白川町保健福祉課：三尾、高木、加藤、千野
精神科病院の看護の質を上げるスタッフ育成方法の検討	地：三宅、片岡、井手、黒江 機：大法 学長：平山	のぞみの丘ホスピタル・看護部：安藤、木澤
精神科訪問看護の現状と課題に関する研究	地：片岡、井手、三宅、森、松下、田内、北山	（社）岐阜病院：村岡、森、坂本 山県市役所：奥田
特別養護老人ホームにおけるショートステイ利用者のケアの充実に向けて	セ：小野、古田 成：古川、坪井、原沢、岩崎、奥田	恵翔苑：吉村、片田　ビアンカ：酒井、鈴木 ジョイフル各務原：新美 やすらぎ苑：井亦、大橋
医療施設における退院支援に関するスタッフ教育システムの検討	地：藤澤、普照、田内、河村、黒江	岐阜県総合医療センター・退院調整室：増井、丹羽
乳幼児をもつ養育者の健康管理意識を育成する支援の検討	育：谷口（恵）、泊、石井、長谷川、西田、宮本 地：松下、坪内	大垣市民病院：高橋、樋口、三輪、村林、大橋
脳神経外科チームの看護改善に向けた取り組み	成：岩崎、奥村、古川 セ：古田	羽島市民病院：高橋、山田、森、嶋田
手術室における患者の安全･安楽を保障する看護についての研究	成：平岡、北村、奥村 セ：古田	羽島市民病院・手術室：中山、伊藤（祐）、伊藤（み）、渡辺

平成 19 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
働く人々の労働生活を支援する看護実践能力の追究	成：梅津、奥村、北村 機：奥井 地：坪内	岐阜県労働基準協会連合会：水野 （株）ブリヂストン関工場：酒井 NTT 東海健康管理センタ：桑原 鷲見病院郡上健診センター：荒川、伊藤 三洋電機（株）岐阜産業保健センター：大橋 旭化成建材（株）：佐藤 エーザイ（株）川島工園：武藤 東レ（株）岐阜工場：宮川 パナソニックエレクトロニックデバイス（株）：臼井 山内ホスピタル：古澤 エプソンイメージングデバイス（株）岐阜事業所：大森
労災病院における勤労者医療・看護推進への組織的取り組み	成：梅津、奥田	中部ろうさい病院・看護部：小林、井村、中島、岡本、茶木
看護師の援助に対する入院患者の満足度を測定する用具（スケール）の開発	成：古川 セ：小野、会田、古田 機：橋本	大垣市民病院・看護部：岩本、広瀬、野田 神戸市看護大学：グレッグ
慢性の病いとともにある生活に求められる看護援助および援助提供システムについての検討　―地域における看護職連携の取組み―	地：田内、黒江、藤澤、普照	元・大学：河村　　松波総合病院：山田 大垣市民病院：栗田　　揖斐厚生病院：古野 岐阜中央病院：中島
住民の主体的なグループ活動を支える保健師の援助のあり方	機：両羽 地：坪内、米増、松下、北山 セ：小澤	郡上市介護支援課・包括支援センター：鷲見、丸茂 郡上市健康課：直井 郡上市八幡地域振興事務所健康福祉課：上村、佐藤
妊娠期における地域･病院･多胎児サークルが協働して行う多胎児支援の検討	育：名和、服部、谷口（通）、布原、宮本、武田 地：坪内 機：両羽	県立多治見病院：田口、福士、小木曽 多治見市保健センター：桜井、日置 大野町役場：今井田、杉原 羽島市保健センター：服部
障害者施設における入所者の健康生活の維持･向上をめざした看護活動のあり方	成：北村、古川、平岡 地：杉野、北山	元・大学：河村 飛翔の里生活の家・健康部：近藤、安藤、戸嶋、加藤、脇坂、渡辺
循環器系機能障害をもつ成熟期の人への看護援助の検討	成：奥村、梅津、北村、平岡 地：坪内	羽島市民病院・循環器センター：古田、宇陀、下條
障害児・者及び家族を地域で支えるための連携した支援体制づくりに関する研究	セ：大川、岩村 地：杉野、大井 成：梅津 学長：平山	羽島市保健センター：橋本、柴田、小山、赤嶺、佐藤、服部 知的障害者更生施設羽島学園：安藤、杉山 生活サポートはしま：熊崎
赤ちゃんにやさしい地域づくりに向けての検討	育：布原、服部、谷口（通）、名和、宮本、武田 機：両羽、大法 地：坪内	高田医院：高田（恵）、高田（恭） 郡上市民病院・産婦人科病棟：河合、永田 郡上市健康福祉課：羽土、水口、橋本、加藤、和泉
精神科病院における社会復帰に向けた看護実践の取り組み	地：片岡、井手、松下、北山 セ：大川	須田病院：橋戸、宮下、清水 慈恵中央病院：家田、鷲見、西脇、臼田 大湫病院：纐纈、勝股、佐合 （社）岐阜病院：村岡、杉本、高橋、田中、高木 のぞみの丘ホスピタル：安藤、山本、瀧、山中
病棟看護師と退院調整看護師との効果的な連携に向けた方策の検討	地：藤澤、普照、黒江	元・大学：河村 県立下呂温泉病院：山下、川井、梅田、野村、福元、澤田、細江
住民との協働による健康づくり・地域づくり活動の方法	地：松下、坪内、米増、森、北山 セ：岩村、大川	安八町保健センター：寺西、小粥 安八町地域包括支援センター：宇野 海津市健康課：佐竹、田中、寺村、若山、山本、渡邊 白川町地域包括支援センター：田口、長尾、則武 白川町保健福祉課：三尾、高木、千野、鈴木
精神科訪問看護の現状と課題に関する研究	地：片岡、井手、三宅、森、田内、北山	（社）岐阜病院：村岡、森、坂本 山県市役所：奥田 須田病院：長瀬

平成 19 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
特別養護老人ホームにおけるショートステイ利用者のケアの充実に向けて	セ：小野、古田 成：古川、坪井、岩崎、奥田	恵翔苑：吉村、片田　ケアハウスビアンカ：酒井 ビアンカ：鈴木　ジョイフル各務原：新美 やすらぎ苑：井亦、種田　飛鳥美谷苑：真銅 サンシャイン美濃白川：安江 ナーシングケア寺田：田口、澤津 かりやど：宮川
医療施設における退院支援に関するスタッフ教育システムの検討	地：藤澤、普照、田内、黒江	元・大学：河村 岐阜県総合医療センター・退院調整室：増井、丹羽
看護改善に向けた脳神経外科看護チームの取り組み	成：奥村、古川、岩崎 機：橋本	羽島市民病院：高橋、河村、山田、森、嶋田
地域の中核病院における手術室看護の課題とその取り組み	成：平岡、北村、奥村	羽島市民病院・手術室：中山、伊藤（祐）、伊藤（み）、渡辺
病院から診療所へ移行する過疎地域医療機関における看護援助のあり方	地：普照、田内、藤澤、片岡、森	東白川村国民健康保険病院：福田、今井（さ）、田口、桂川、今井（千）
一般病院におけるがん患者の看護	成：田中、奥村、梅津、北村、山内、奥田 セ：大川	羽島市民病院：中川、吉田、大橋 岐阜市民病院：小松、杉本
精神科急性期治療病棟における個室看護に関する研究	地：井手、片岡 機：橋本	養南病院：山内、吉野、有馬、葛谷、古川、伊藤
保健室における看護の改善にむけての取り組み	地：三宅、井手 機：松本	のぞみの丘ホスピタル：北原、七森、藤田（信）、藤田（宗）、大脇、鈴木、木澤、安藤
在宅で療養生活をおくるがん患者の看護援助の検討	成：奥村、田村 地：普照	羽島市民病院：中川、古澤
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：米増、松下、坪内、森、大井、北山 セ：岩村、大川	岐阜県保健医療課：居波、堀
難病相談会を契機にした保健師の継続援助のあり方	地：米増、松下、北山 成：古川	岐阜保健所本巣山県センター：安田 岐阜市保健所：馬渕、宮川 中濃保健所郡上センター：藤田 岐阜保健所：丹羽 飛騨保健所下呂センター：金山
岐阜県における在宅重度障がい児の QOL を支える保健・医療・福祉・教育の体制づくり	育：泊、石井、長谷川、谷口（惠）、窪田 地：杉野、松下、普照	岐阜県庁・医療整備課：安藤 岐阜県庁・特別支援教育課：和田 岐阜県庁・障がい福祉課：松永 岐阜県庁・保健医療課：山田 岐阜県総合医療センター：市川、武田 岐阜県希望ヶ丘学園：安江 白百合訪問看護ステーション：近松
ハイリスク新生児とその母親への母乳育児支援の検討	育：谷口（通）、宮本、服部、布原、名和、武田 機：大法	岐阜県総合医療センター：安藤（嘉）、今井、坪内、藤吉、中尾、野口、宇留野、安藤（有）
心に問題をもつ児童生徒の家族への養護教諭が行う支援方法の検討	機：松本 育：泊、石井	大垣市立南中学校：鈴木 海津市立今尾小学校：秋田 養老町立日吉小学校：遠藤 大垣市立日新小学校：丹羽 池田町立池田中学校：野々村 大垣市立北小学校：吉平 揖斐川町立春日小学校：山田

平成 20 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
働く人々の労働生活を支援する看護実践能力の追究	成：梅津 機：奥井 地：坪内	岐阜県労働基準協会連合会：水野 エーザイ（株）川島工園：武藤 鷲見病院郡上健診センター：伊藤、荒川、道中、森 三洋電機（株）岐阜産業保健センター：大橋 NTT 西日本電信電話(株)東海健康管理センタ：桑原 旭化成建材（株）：佐藤 （株）ブリヂストン関工場：酒井 東レ（株）岐阜工場：宮川 山内ホスピタル：古澤

平成 20 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
労災病院における勤労者医療・看護推進への組織的取り組み	成：梅津 機：橋本	中部労災病院・看護部：小林、井村、山本、舩﨑、石川、茶木
看護師の援助に対する入院患者の満足度を測定する用具（尺度）の開発	成：古川 セ：小野、会田、古田 機：橋本	大垣市民病院・看護部：岩本、広瀬、野田 神戸市看護大学：グレッグ
糖尿病患者の看護支援方法に関する取り組み	セ：小野 成：田村、松本、宇佐美	羽島市民病院：南谷、粥川、大内 自衛隊岐阜病院：加藤
慢性の病いとともにある生活に求められる看護援助および援助提供システムについての検討 2	地：田内、黒江、藤澤、普照、金子	松波総合病院：山田 大垣市民病院：栗田 揖斐厚生病院：古野
市が目指す保健師活動を可能とする人材育成に関する研究	機：両羽 地：坪内、大井、松下、米増、北山	郡上市健康福祉部健康課：羽土、上村、佐藤、和田
地域の特色を活かした地域・病院・多胎児サークルが協働して行う多胎児支援の検討	育：名和、服部、谷口（通）、布原、宮本、武田 地：坪内 機：両羽	県立多治見病院：田口、福士、小木曽 多治見市保健センター：谷口 東濃保健所：田中 大野町役場：杉原 羽島市保健センター：國井、小山、河合
障害者施設における入所者の健康生活の維持･向上をめざした健診･検診のあり方	地：杉野、北山、宮島 成：古川、平岡	飛翔の里生活の家・健康部：近藤、安藤、戸嶋、加藤、脇坂、渡辺、垂水
赤ちゃんにもお母さんにもやさしい地域づくりに向けての検討	育：布原、服部、名和、武田、谷口（通）、宮本 機：両羽 地：坪内	高田医院：高田（恵）、高田（恭） 郡上市民病院・産婦人科病棟：河合、永田
精神科病院における社会復帰に向けた看護実践の取り組み	地：片岡、井手、松下、米増、坪内、北山 セ：大川	須田病院：橋戸、清水、蒲 慈恵中央病院：家田、臼田、山下、一柳 大湫病院：纐纈、佐合、三代沢 （社）岐阜病院：村岡、田中、高木 のぞみの丘ホスピタル：安藤、山本、兼松、藤田、安田
精神科病院における社会復帰支援に関する共同研究の成果と課題	地：片岡、井手、松下、米増、坪内、北山 セ：大川	須田病院：橋戸　慈恵中央病院：家田 大湫病院：纐纈　（社）岐阜病院：村岡 のぞみの丘ホスピタル：安藤
退院後の療養生活を視野に入れた退院支援の充実に向けた方策の検討	地：藤澤、普照、黒江	県立下呂温泉病院：野村、田口、古川、中子、梅田、山下
地域における高齢者の介護予防をめざした支援活動の展開方法	地：松下、坪内、米増、森、普照、大井、北山 セ：岩村、大川	白川町地域包括支援センター：田口、長尾、則武、安江 白川町保健福祉課：三尾、高木、加藤、千野、鈴木
健康日本21地方計画の有効な実施を実現する保健活動のあり方	地：松下、坪内、米増、森、大井、宮島、北山 セ：岩村、大川	海津市健康課：佐竹、田中、寺村、堀田、橋本、山本、渡邊
家庭訪問を通して個人･家族･地域を捉える視点	地：坪内、松下、米増、森、大井、宮島、北山 セ：岩村、大川	安八町保健センター：寺西、西脇、小粥 安八町民生部福祉課：宇野
精神科訪問看護の現状と課題に関する研究	地：片岡、井手、田内、森、坪内、米増、北山	（社）岐阜病院：村岡、森、坂本、小林 山県市役所：奥田
特別養護老人ホームにおけるショートステイ利用者のケアの充実に向けて	セ：小野、古田 成：古川、坪井、松本、宇佐美	恵翔苑：吉村、片田　ケアハウスビアンカ：酒井 ジョイフル各務原：新美 やすらぎ苑：井亦、種田 サンシャイン美濃白川：安江、日下部 ナーシングケア寺田：田口、澤津 飛鳥美谷苑：真銅、金武　かりやど：宮川、馬渕 飛騨寿楽苑：牛丸、大久保
医療施設における退院支援に関するスタッフ教育システムの検討	地：藤澤、田内、金子、黒江	岐阜県総合医療センター・退院調整室：丹羽、宮木、武山、増井、長屋
過疎地域診療所における訪問看護の充実に向けてのあり方	地：普照、田内、藤澤、片岡、森、米増	東白川村国保診療所：今井、安江
一般病院におけるがん患者の看護	成：田中、奥村、梅津、山内 セ：大川	羽島市民病院：大橋、吉田、小嵜、中川
精神科急性期治療病棟における個室看護に関する研究	地：井手、片岡 機：橋本	養南病院：有馬、古川、窪田、吉野、山内
在宅で療養生活をおくるがん患者の看護援助の検討	成：奥村、田村 地：普照	羽島市民病院：中川、古澤、小嵜

平成 20 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：米増、松下、坪内、森、大井、宮島、北山 セ：岩村、大川	岐阜県保健医療課：居波、堀
岐阜県における在宅重度障がい児の QOL を支える保健・医療・福祉・教育の体制づくり	育：泊、石井、長谷川、谷口（惠）、窪田 地：松下、普照、杉野	県立多治見看護専門学校：安藤 岐阜県庁・特別支援教育課：長尾 岐阜県庁・障がい福祉課：佐藤 岐阜県庁・保健医療課：山田、丹羽 岐阜県庁・医療整備課：高木 岐阜県総合医療センター：市川、武田 県立希望が丘学園：安江 白百合訪問看護ステーション：近松
ターミナル期を在宅で過ごす利用者とその家族を支える訪問看護活動の検討	地：田内、普照、森、金子	いび訪問看護ステーション：折戸、渡辺、浜辺
過疎地域の地域ケア体制充実に向けた病棟における退院時支援のあり方に関する研究	地：杉野、米増、坪内、普照	国保上矢作病院：小木曽、荻山、三輪、鈴木、松原、加藤、川上
アウトソーシングで実施した特定健康診査･特定保健指導　1 年目の課題と保健師の役割	地：坪内、松下、米増、森、大井、宮島、北山 成：梅津 セ：岩村、大川	大野町健康推進課健康づくり係：横幕、馬渕
難病ケアコーディネーター研修の充実に向けて	成：古川 地：米増、松下、北山 セ：小澤	岐阜大学医学部附属病院医療連携センター：堀田
精神科病院における認知症高齢者のケアの充実に向けて	セ：小野、古田 成：古川、坪井、松本、宇佐美	のぞみの丘ホスピタル：渡邉、安藤（正）、野村、中村、奥山、加藤、河村、安藤（里）、鈴木、舟木、岩井、塚原、小川、青木
就職 3 年目の看護師の看護実践をとおして「自分育て」を考える	機：栗田、橋本、鈴木、野村、奥井 成：奥村	羽島市民病院：小島、古澤
養護教諭の専門性の確立に向けて	育：西田、石井、泊 機：松本	岐阜市立藍川北中学校：原
中学生における「対人関係プログラム」の作成	育：西田、谷口（惠） 機：松本	揖斐川町立谷汲中学校：阪野 垂井町立北中学校：日比
行動変容を重視した保健指導のモデル的実施と評価	成：梅津 地：坪内	岐阜県健康長寿財団：長尾、杉山、窪田、桐谷

平成 21 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
働く人々の労働生活を支援する看護実践能力の追究	成：梅津、北村 地：坪内、山田	岐阜県労働基準協会連合会：水野 三洋電機（株）岐阜産業保健センター：大橋 西日本電信電話（株）東海健康管理センタ：桑原 鷲見病院郡上健診センター：荒川、伊藤、道中、小林 山内ホスピタル：古澤 京セラ（株）岐阜事業所：横山 東レ（株）岐阜工場：宮川 旭化成建材（株）穂積工場：佐藤 （株）ブリヂストン関工場：酒井
労災病院における勤労者看護の質的向上の追究	成：梅津 機：橋本	中部ろうさい病院：小林、舩﨑、井村、岡本、宮路、石川、古屋敷
看護師の援助に対する入院患者の満足度を測定する用具（尺度）の開発	セ：会田、古田 機：橋本 成：古川	大垣市民病院：岩本、広瀬、野田 宮城大学：小野 神戸市看護大学：グレッグ
糖尿病患者の看護支援方法に関する取り組み	成：田村、松本、宇佐美	羽島市民病院：南谷、粥川、大内、竹内 自衛隊岐阜病院：加藤
市が目指す保健師活動を可能とする人材育成に関する研究	機：両羽 地：大井、北山、松下、坪内、山田、宮島	郡上市健康福祉部健康課：羽土、佐藤、和田、蒲、日置、中嶋 郡上市健康福祉部社会福祉課：上村 郡上市健康福祉部高齢福祉課：丸茂

平成 21 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
地域の特色を活かした地域・病院・多胎児サークルが協働して行う多胎児支援の検討	育：名和、服部、布原、武田、谷口、宮本 地：坪内 機：両羽	県立多治見病院：田口、福士 多治見市保健センター：野呂 東濃保健所：田中 羽島市保健センター：國井、小山、河合
赤ちゃんにもお母さんにもやさしい地域づくりに向けての検討	育：布原、服部、名和、宮本、武田、谷口 機：両羽 地：坪内	高田医院：高田（恵）、高田（恭） 郡上市民病院：河合、永田 朝日大学歯科衛生士専門学校：平井
精神科病院における社会復帰に向けた看護実践の取り組み	地：石川、葛谷、松下、坪内、北山 セ：大川	大湫病院：三代澤、加藤、纐纈 （社）岐阜病院：高木、増田、麻生、村岡 黒野病院：前城、市橋、加藤、武田 下呂谷敷病院：中島、国田、岩佐、細江 慈恵中央病院：一柳、山下、臼田、家田 聖十字病院：永田、日比野、安藤 須田病院：棚瀬、蒲、橋戸 のぞみの丘ホスピタル：北原、加藤（里）、津田、兼松、加藤（美）、山本、七森、安藤
退院後の療養生活を視野に入れた退院支援の充実に向けた方策の検討	地：藤澤、普照、黒江	県立下呂温泉病院：田口、高木、細江、松田、袴田、梅田、野村
包括的継続的ケアマネジメント充実のための地域包括支援センターにおけるケアマネジャー支援の方法	地：松下、山田、坪内、森、普照、宮島、大井、北山 セ：岩村、大川	白川町地域包括支援センター：田口、長尾、則武、今井 八百津町地域包括支援センター：小林、佐藤、栗山、長谷川
健康日本21地方計画の有効な実施を実現する保健活動のあり方	地：宮島、坪内、松下、森、北山、大井、山田 セ：岩村、大川	海津市健康課：石原、近藤、田中、寺村、堀田、渡辺（あ）、渡邊（智） 山県市健康課：上野、大西、武藤、井上、高橋、村瀬 朝日大学歯科衛生士専門学校：山田、荒木
地区分担制による家庭訪問でより深く個人・家族・地域を捉える視点	地：坪内、松下、森、山田、大井、宮島、北山 セ：岩村、大川	安八町保健センター：西脇、寺西、小粥、高木 安八町民生部福祉課：宇野
特別養護老人ホームにおけるショートステイ利用者のケアの充実にむけて	成：坪井、古川、松本、浅井 セ：古田	ジョイフル各務原：新美　　恵翔苑：吉村、片田 サンシャイン美濃白川：安江、日下部 ビアンカ：酒井　　飛騨寿楽苑：牛丸、荒井 ナーシングケア寺田：水谷、澤津 サンリバー松風苑：横井、渡辺 飛鳥美谷苑：金武　　やすらぎ苑：井亦 朝日大学歯科衛生士専門学校：中島、南方
医療施設における退院支援に関するスタッフ教育システムの検討	地：藤澤、田内、金子、黒江 セ：田辺	岐阜県総合医療センター：宮木、丹羽、武山、増井、吾郷、長屋
過疎地域診療所の外来看護の充実に向けて	地：普照、金子、藤澤、田内、森	東白川村国保診療所：安江（友）、桂川、苅田、今井、安江（ゆ）
在宅で療養生活をおくるがん患者の看護援助の検討	成：奥村、田村 地：普照	羽島市民病院：中川、古澤
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：坪内、山田、松下、森、宮島、大井、北山 セ：岩村、大川	岐阜県保健医療課：居波、堀
ターミナル期を在宅で過ごす利用者とその家族を支える訪問看護活動の検討その 2	地：田内、金子、普照、森	いび訪問看護ステーション：折戸、今村、児玉、渡辺
過疎地域の地域ケア体制充実に向けた病棟における退院時支援のあり方に関する研究	地：杉野、坪内、藤澤、普照	国保上矢作病院：小木曽、荻山、鈴木、加藤
精神科病院における認知症とともに生きる高齢者のケアの充実に向けて	成：坪井、松本、古川、宇佐美 セ：古田	のぞみの丘ホスピタル：中村、佐藤、神戸、久米、野村、船木、安田、川上、小川、安藤
看護職の「自分育て」の視点で考える人材育成	機：栗田、橋本、鈴木、野村 成：奥村	羽島市民病院：古澤、小島

平成 21 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（講座名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健・医療・福祉が連携した精神障がい者の地域生活支援体制のあり方	地：松下、坪内、石川、杉野、大井、宮島、葛谷	御嵩町福祉課：植松　　中濃保健所：末松、中村 美濃加茂市：木谷、山田 可児市保健センター：井戸、田中 坂祝町保健センター：兼松、矢田 富加町保健センター：平林 川辺町保健センター：佐伯、長瀬 七宗町生きがい健康センター：中島 八百津町保健センター：小林、伊藤 白川町保健センター：加藤 東白川村国保診療所：桂川 のぞみの丘ホスピタル：安藤 県保健医療課：堀、三浦、吉村
地域基幹病院における退院支援の課題の明確化および退院支援方法の検討	地：藤澤、普照	揖斐厚生病院：小川、香田、高橋、加藤、古野
退院支援と地域連携推進事業の成果・課題の明確化と退院支援充実に向けた看護職者への支援の検討	地：藤澤、黒江 成：田村	岐阜県健康福祉部医療整備課：大法、大野
ブラジル籍児童の健康課題解決に向けての取り組み	機：松本、鈴木 育：西田	各務原市立緑苑小学校：山下、平林
養護教諭の行う効果的な健康相談活動の追究	育：西田 機：松本	垂井町立北中学校：日比 池田町立池田中学校：野々村 大垣市立南中学校：鈴木 大垣市立西部中学校：世一 岐阜大学教育学部附属中学校：阪野 関ヶ原町立関ヶ原中学校：粟田 海津市立日新中学校：安江
退院調整における日常生活指導での地域連携室と病棟看護師の協働	機：橋本、小西、栗田、両羽	関中央病院：山中、亀山、長屋、渡辺、石原、大島、長尾、牧田、川地
ハイリスク妊産婦のケアの質の向上のための検討	育：谷口、服部、名和、宮本、武田、布原 セ：田辺	岐阜県総合医療センター：川瀬、大野、堀、土本、下林、山田、佐藤、寺澤

平成 22 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
働く人びとを対象とした保健指導の質的評価の試み	成：梅津、北村 地：坪内、山田	岐阜県労働基準協会連合会：水野 西日本電信電話（株）東海健康管理センタ：桑原 鷲見病院郡上健診センター：伊藤、荒川、小林、道中、森 山内ホスピタル：古澤 東レ（株）岐阜工場：宮川 三洋電機（株）岐阜産業保健センター：大橋 京セラ（株）岐阜事業所：横山
労災病院における勤労者看護の質的向上の追究	成：梅津 機：橋本	中部労災病院：川崎、小林、井村、高橋、林、杉山、山口
看護師の援助に対する入院患者の満足度を測定する用具（尺度）の開発	セ：会田、田辺 機：橋本 成：古川、堀田	大垣市民病院：岩本、廣瀬、野田 岐阜県総合医療センター：高木、野口、島田 久美愛厚生病院：山本、冨田、堀井
糖尿病患者の看護支援方法に関する取り組み	成：田村、松本、宇佐美、森本	羽島市民病院：南谷、大内、大橋、中村、長谷川、平野、政井、竹内
市が目指す保健師活動を可能とする人材育成に関する研究	機：両羽 地：北山、松下、大井、山田、宮島	郡上市健康福祉部健康課：羽土、佐藤、和田、蒲、日置、中嶋 郡上市健康福祉部社会福祉課：上村 郡上市健康福祉部高齢福祉課：丸茂
赤ちゃんにもお母さんにもやさしい地域づくりに向けての検討	育：布原、服部（律）、武田、纐纈、水野、谷口（通） 機：両羽	朝日大学歯科衛生士専門学校：荒木、平井 高田医院：高田（恵）、高田（恭） 郡上市民病院：河合、永田

平成 22 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
精神科病院における長期在院患者の退院支援および入院長期化防止に向けた看護	地：石川、葛谷、丸茂、松下、北山、坪内 セ：大川	大湫病院：纐纈、加藤、水野 （社）岐阜病院：稲葉、増田、小森 黒野病院：五十嵐、中村、三島、藤原 下呂谷敷病院：細江、国田、岩佐、山田 慈恵中央病院：家田、小椋、原、一柳 聖十字病院：安藤、日比野、永田 須田病院：橋戸、棚瀬、長谷川 のぞみの丘ホスピタル：安藤、北原、山口、七森、兼松、村上
退院後の療養生活を視野に入れた退院支援の充実に向けた方策の検討	地：藤澤、普照、藤岡、黒江	岐阜県立下呂温泉病院：岡崎、中村、細江、田口、松原、藤掛、古橋、熊崎 下呂訪問看護ステーション：田口
地域のニーズに即した地域包括支援センターの活動の充実・活性化に向けた取り組み	地：山田、松下、坪内、森、宮島、北山 セ：岩村、大川	白川町地域包括支援センター：加藤、杉山、則武、田口 八百津町地域包括支援センター：小林、佐藤、栗山、服部
健康日本21地方計画の有効な実施を実現する保健活動のあり方	地：松下、坪内、森、北山、山田、宮島 セ：会田、岩村、大川	垂井町保健センター：木全、上野、高田、伊藤 山県市健康課：長野、武藤、井上、村瀬、木村 輪之内町保健センター：加藤、足利、馬場、山川、迫口、榊原、淺野、河村、高木
関係者と連携して行う要援助者のいる世帯への援助方法	地：坪内、大井、森、松下、山田、宮島、北山 セ：岩村、大川	安八町保健センター：愛知、寺西、西脇、小粥、高木、川﨑、熊谷、坂 安八町民生部福祉課：宇野、田中
特別養護老人ホームにおけるショートステイ利用者のケアの充実に向けて	成：坪井、松本、古川、堀田、浅井 地：普照	サンシャイン美濃白川：安江、日下部 飛騨寿楽苑：牛丸、荒井　　ビアンカ：酒井、糟谷 恵翔苑：吉村　　ジョイフル各務原：新美 サンリバー松風苑：横井、渡辺 ナーシングケア寺田：水谷、澤津 岐阜県総合医療センター：古田 朝日大学歯科衛生士専門学校：中嶋、南方
医療施設における退院支援に関するスタッフ教育システムの検討	地：藤澤、藤岡、黒江 セ：田辺	岐阜県総合医療センター：丹羽、武山、増井、宮木、吾郷
過疎地域診療所における外来看護充実のための問診票付外来診察予約券の取り組み	地：普照、藤岡、森、藤澤	東白川村国保診療所：安江、今井、桂川、苅田、青木
在宅で療養生活をおくるがん患者の看護援助の検討	成：奥村、田村、布施、森本 地：普照	羽島市民病院：中川、吉田 岩佐医院：吉村 羽島市医師会訪問看護ステーション：加藤、大塚
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：坪内、山田、松下、大井、森、宮島、北山 セ：岩村、大川	岐阜県保健医療課：居波、和田
過疎地域の療養生活充実に向けた病棟における退院支援のあり方に関する研究	地：杉野、藤澤、普照	国保上矢作病院：小木曽、荻山、鈴木、加藤、松原
保健・医療・福祉が連携した精神障がい者の地域生活支援体制のあり方	地：松下、杉野、坪内、石川、宮島、葛谷、丸茂	白川町保健センター：井戸、三尾 中濃保健所：北島、末松 美濃加茂市：木谷、山田 可児市保健センター：田中 坂祝町保健センター：兼松 富加町保健センター：藤野 川辺町保健センター：佐伯、長瀬、丸山 七宗町生きがい健康センター：中島 八百津町保健センター：小林、伊佐治 東白川村国保診療所：桂川 御嵩町福祉課：植松、古木、土本 のぞみの丘ホスピタル：安藤 県保健医療課：林、吉村、和田
県域の退院支援の質向上に向けた看護職者への支援の検討	地：藤澤、黒江 成：田村	岐阜県健康福祉部医療整備課：大法、加藤
ブラジル籍児童の健康課題解決に向けての取り組み	機：松本、鈴木 育：西田	各務原市立緑苑小学校：山下、平林

平成 22 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
退院調整における日常生活指導での地域連携室と病棟ナースの協働	機：橋本、小西、両羽、野村	関中央病院：山中、亀山、長屋、渡辺、石原、松原、牧田、川地
ハイリスク妊産婦のケアの質の向上のための検討	育：谷口（通）、服部（律）、布原、武田、纐纈、水野 セ：田辺	岐阜県総合医療センター：山田、勝原、土本、仁地、堀
乳幼児に対する手洗いの支援方法の検討	育：石井、長谷川、谷口（惠）、服部（佐） 地：藤澤	乳幼児ホームまりあ：汲田、船戸
病棟師長のマネジメント能力向上のための教育支援	機：橋本、鈴木 成：奥村	羽島市民病院：小島、時吉、古澤、高木、加藤、堀、山本

平成 23 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
働く人びとを対象とした保健指導の質的評価の試み	成：梅津、北村 地：山田	岐阜県労働基準協会連合会：水野 西日本電信電話（株）東海健康管理センタ：桑原 三洋電機（株）岐阜産業保健センター：大橋 山内ホスピタル：古澤 鷲見病院郡上健診センター：荒川、森、小林、道中、日置、木村
看護師の援助に対する入院患者の満足度を測定する用具（尺度）の開発	セ：会田、田辺 機：橋本 成：古川、堀田	大垣市民病院：岩本 岐阜県総合医療センター：高木、長屋、島田 久美愛厚生病院：山本、冨田、堀井
糖尿病患者の看護支援方法に関する実践知の探究	成：田村、松本、宇佐美	羽島市民病院：南谷、大内、大橋、中村、長谷川、平野、政井、竹内
市が目指す保健師活動を可能とする人材育成に関する研究	機：両羽 地：大井、北山、松下	郡上市健康福祉部健康課：和田、丸茂、佐藤、日置、蒲、中嶋 郡上市健康福祉部社会福祉課：上村 郡上市健康福祉部高齢福祉課：羽土
妊娠期から育児期における地域・病院・多胎児サークルが協働して行う多胎児支援の検討	育：名和、服部（律）、布原、武田、纐纈 機：両羽	長良医療センター：渡會、大嶋、野々村 岐阜保健所：児玉
精神科病院における長期在院患者の退院支援および入院長期化防止に向けた看護	地：石川、葛谷、丸茂、北山、松下 セ：大川	大湫病院：纐纈、波多野、水野 岐阜病院：黒田、林、小森 黒野病院：五十嵐、前川、増田、西尾 慈恵中央病院：家田、原、井谷、林 聖十字病院：安藤、日比野、永田、松井 須田病院：橋戸、髙江、長谷川 のぞみの丘ホスピタル：安藤、北原、山口、井戸
退院後の療養生活を視野に入れた退院支援の充実に向けた方策の検討	地：藤澤、普照、臼井、杉野、黒江、原田	岐阜県立下呂温泉病院：岡崎、熊崎、今井、川井、梅田 下呂訪問看護ステーション：田口
地域で生活する高齢者のニーズの明確化と地域包括支援センターにおいて取り組むべき課題の検討	地：山田、北山、松下、森、田中、大井、種村 セ：岩村、大川	八百津町地域包括支援センター：小林、飯田、松井、服部、鈴木
健康日本21地方計画の有効な実施を実現する保健活動のあり方	地：松下、森、北山、田中、山田、大井、種村 セ：会田、大川	海津市健康課：石原、田中、高木、橋本、山本、渡邊、長谷川、諏訪 神戸町保健センター：太田、山田、室井、大場、田中（祥）、田宮、田中（恵）、山下、丹羽、野口 垂井町保健センター：木全、高田、木下、伊藤、成瀬、吉田 西濃保健所：丹羽
地区担当保健師として地域を捉える視点・個別援助の視点の検討	地：大井、北山、松下、森、田中、山田、種村 セ：岩村、大川	安八町保健センター：寺西、西脇、小粥、高木、愛知、川﨑、茂﨑、花村 安八町民生部福祉課：宇野

平成 23 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
特別養護老人ホームにおけるショートステイ利用者のケアの充実に向けて	成：松本、古川、浅井、堀田 地：普照	恵翔苑：吉村　　ビアンカ：酒井、糟谷 ジョイフル各務原：新美 サンシャイン美濃白川：安江、日下部 ナーシングケア寺田：水谷 飛騨寿楽苑：尾上、荒井 サンリバー松風苑：横井、渡辺 朝日大学歯科衛生士専門学校：中嶋、南方 岐阜県総合医療センター：古田
過疎地域診療所看護師が家庭訪問活動を通して把握する潜在的ニーズの明確化	地：普照、森、藤澤、臼井	東白川村国保診療所：安江（友）、榊間、苅田、安江（こ）、田口
がん患者の在宅療養支援に携わる診療所看護師の看護充実に向けた取り組み	成：奥村、田村、布施 地：普照	羽島市民病院：中川、吉田 羽島市医師会訪問看護ステーション：加藤 岩佐医院：吉村
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	セ：大川、岩村 地：松下、山田、大井、種村、田中、森、北山	岐阜県保健医療課：居波、高橋、和田
保健・医療・福祉が連携した精神障がい者の地域生活支援体制のあり方	地：松下、杉野、石川、大井、葛谷、丸茂	県保健医療課：林、吉村 中濃保健所：北島、道添 美濃加茂市：木谷、山田 可児市保健センター：田中 坂祝町保健センター：兼松 富加町保健センター：石原 川辺町保健センター：石井 七宗町生きがい健康センター：中島 八百津町保健センター：小林 白川町保健センター：三尾、井戸 東白川村国保診療所：桂川 御嵩町福祉課：古木、植松、土本 のぞみの丘ホスピタル：安藤
県内の退院支援の質向上に向けた看護職者への支援の検討	地：藤澤、黒江、臼井、原田 成：田村	岐阜県健康福祉部医療整備課：野口、加藤
退院調整における日常生活指導を中心とした地域連携室と病棟看護師の協働	機：橋本、小西、両羽、百武	関中央病院：山中、亀山、長屋、渡辺、松原、平田、長尾、笠野、鈴木、川地
乳幼児の保育に携わるスタッフの感染に対する意識向上に向けての検討	育：谷口（恵）、石井、長谷川、長谷部、小嶋	乳幼児ホームまりあ：汲田、船戸、天野
師長のマネジメント能力向上のための取り組み	機：橋本、鈴木	羽島市民病院：小島、高木、加藤、堀、山本、木下、井上
外国籍児童の健康課題解決に向けての取り組み	機：松本、鈴木 育：世一	大垣市立西小学校：杉村、川合、不破
主体的な出産・育児に向けて地域助産師が行う妊娠期の支援の検討	育：武田、服部（律）、谷口（通）、布原、名和、纐纈	空助産院：加藤　　ママズハウス：佐藤 愛助産院：白木 羽島市保健センター：柴田、西原 中島保育園：戸谷　　地域助産師：田村、市古
市として取り組む自殺対策の推進および自殺予防計画策定における保健師活動のあり方	地：大井、松下、北山 機：両羽	郡上市健康福祉部社会福祉課：上村、伊藤、佐藤 郡上市健康福祉部高齢福祉課：羽土 郡上市健康福祉部健康課：和田 関保健所健康増進課：井上
医療機関における認定看護師の活動の充実に向けた検討	地：藤澤 成：北村 育：武田	久美愛厚生病院：垣根、島中、冨田、沖本、畑尻
入院患者の個別性を尊重した排泄ケアの実践に向けた取り組み	成：松本、宇佐美、古川	山田病院：森前、久堀、中村、永井、角田、小森、吉川

平成 24 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
看護師の援助に対する入院患者の満足度を測定する用具（尺度）の開発	成：古川、堀田 セ：会田、田辺 機：橋本	大垣市民病院：岩本 岐阜県総合医療センター：高木、長屋、島田 久美愛厚生病院：島中、冨田、堀井

平成 24 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
妊娠期から育児期における地域・病院・多胎児サークルが協働して行う多胎児支援の検討	育：名和、服部（律）、布原、武田、纐纈 機：両羽	長良医療センター：伊藤、大嶋、野々村 岐阜保健所：丹羽 中濃保健所：樋口
精神科病院における長期在院患者の退院支援および入院長期化防止に向けた看護	地：石川、葛谷、松下、北山	大湫病院：纐纈、波多野、西尾 岐阜病院：黒田、林、松岡 黒野病院：五十嵐、増田、西尾 慈恵中央病院：家田、井谷、清水、此嶋 聖十字病院：安藤（和）、日比野、永田、板津 須田病院：橋戸、髙江、岩村 のぞみの丘ホスピタル：井戸、桂川、藤村、北原、山口、安藤（正）
退院後の療養生活を視野に入れた退院支援の充実に向けた方策の検討	地：藤澤、原田、杉野、髙橋（智）、黒江	岐阜県立下呂温泉病院：岡崎、熊崎（さ）、細江、今井、伊藤、熊崎（恵）、二村、坂井、梅田、柴倉
特別養護老人ホームにおけるショートステイ利用者のケアの充実に向けて	成：古川、窪内、堀田、浅井	サンシャイン美濃白川：安江、日下部 ビアンカ：酒井、糟谷　　恵翔苑：吉村 ナーシングケア寺田：水谷 朝日大学歯科衛生士専門学校：中嶋、南方
がん患者の在宅療養支援に携わる診療所看護師の看護充実に向けた取り組み	成：奥村、布施、浅井、斉木	羽島市民病院：中川、吉田、佐藤、岡村 羽島市医師会訪問看護ステーション：加藤 岩佐医院：吉村
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	セ：大川、岩村 地：山田、松下、大井、種村、田中、森、北山	岐阜県保健医療課：井上、高橋、山田 岐阜保健所：居波、中土
保健・医療・福祉が連携した精神障がい者の地域生活支援体制のあり方	地：松下、杉野、石川、大井、葛谷	県保健医療課：林、森 中濃保健所：北島、五十川 美濃加茂市：木谷、平田　　可児市：田中 坂祝町：澤田　　富加町：武井　　川辺町：石井 七宗町：中島　　八百津町：伊佐次 白川町：三尾、井戸　　東白川村：桂川 御嵩町：植松、土本 のぞみの丘ホスピタル：安藤
外国籍児童の健康課題解決に向けての取り組み	機：松本、鈴木 育：世一	大垣市立西小学校：杉村、川合、不破
医療機関における認定看護師の活動の充実に向けた検討	地：藤澤 成：北村 育：武田	久美愛厚生病院：垣根、島中、冨田、沖本、畑尻
養護教諭の省察による資質能力・成長に向けての取り組み	育：世一 機：松本	関市立関商工高等学校：坂口 岐阜県立加納高等学校：堅田
在宅療養を希望するがん患者の意向を尊重した看護支援の充実に向けた取り組み	成：布施、奥村、北村、浅井 地：原田	岐北厚生病院：渡邉、青木、太田、宮川 岐北厚生病院Ｓｕｎ・サン訪問看護ステーション：新開
中堅看護師育成のための実践の振り返りを用いた院内教育プログラムの検討	成：北村、布施 機：両羽	岐北厚生病院：鷲見、田中、森本、三輪
慢性疾患を有する患者の看護支援に関する実践知の探究	成：田村、宇佐美 地：種村	羽島市民病院：南谷、大内、政井、竹内、大橋、中村、西村、平野
看取りにおける利用者の意思決定を支えるケアの検討	成：宇佐美、古川、窪内 地：原田	山田病院：森前、久堀、中村、永井、増田、喜多川、小田、吉川 寺田ガーデン：鷲見　　ナーシングケア寺田：水谷 訪問看護ステーション和光：原
リンパ浮腫に対する看護が必要な患者への継続支援の充実に向けた取り組み	成：布施、奥村、宇佐美	岐阜県総合医療センター：山中、脇田、渡邉、福永、羽生田、葛谷
病棟における目標管理を推進するためのリーダーの育成	機：鈴木 セ：田辺	岐阜市民病院：小松、廣瀬、伏屋
働く人びとを対象とした質の高い保健指導の実現に向けた取り組み	成：梅津、北村 地：山田	岐阜県労働基準協会連合会 ぎふ綜合健診センター：水野 西日本電信電話（株）東海健康管理センタ：桑原、坂本 三洋電機連合健康保険組合・岐阜健康管理室：大橋 鷲見病院郡上健診センター：小倉、森、道中、木村 一般財団法人総合保健センター：坂下 （株）ブリヂストン関工場：池戸 元・（株）ブリヂストン関工場：酒井

平成 24 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
看護の専門性を育成する看護部管理部門と病棟の連携を推進する方法の開発	機：両羽、小西、橋本、百武	関中央病院：山中　岐阜市民病院：小松 羽島市民病院：時吉、小島、古澤 朝日大学歯学部附属病院：堀（ち） 村上記念病院：武藤　岐阜中央病院：堀（美）
中学校における心の健康教育に関する養護教諭の実践研究の支援	育：世一、長谷部 機：松本	羽島市立桑原中学校：丹羽 大垣市立星和中学校：平小瀬 海津市立平田中学校：西脇 大垣市立西中学校：浅野

平成 25 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：田中、山田、松下、大井、森、北山 セ：大川、岩村 元・大学：種村	岐阜県保健医療課：山田、井上 岐阜保健所：中土、居波
保健・医療・福祉が連携した精神障がい者の地域生活支援体制のあり方	地：松下、杉野、石川、大井、山田、葛谷、高橋（未）	岐阜県保健医療課：森　中濃保健所：今尾、小鞠 美濃加茂市：木谷、平田　可児市：田中 坂祝町：澤田　富加町：原田　川辺町：石井 七宗町：中島　八百津町：小林 白川町：三尾、加藤　東白川村：桂川 御嵩町：土本、木村　のぞみの丘ホスピタル：安藤
医療機関における認定看護師の活動の充実に向けた検討	地：藤澤 成：北村 育：武田	久美愛厚生病院：垣根、島中、冨田、沖本、畑尻、山本 元・久美愛厚生病院：森本
在宅療養を希望するがん患者の意向を尊重した看護支援の充実に向けた取り組み	成：布施、奥村、北村、古川、浅井 地：原田	岐北厚生病院：渡邉、青木、太田、宮川 岐北厚生病院Ｓｕｎ・サン訪問看護ステーション：新開
中堅看護師育成のための実践の振り返りを用いた院内教育プログラムの検討	成：北村、布施 機：両羽	岐北厚生病院：鷲見、田中、森本、三輪、鬼頭 岐北厚生病院Ｓｕｎ・サン訪問看護ステーション：新開
慢性疾患を有する患者の看護支援に関する実践知の探究	成：田村、宇佐美 セ：丹菊	羽島市民病院：南谷、大内、政井、竹内、平野、大橋、中村、西村、渡辺
リンパ浮腫に対する看護が必要な患者への継続支援の充実に向けた取り組み	成：布施、奥村、梅津、宇佐美	岐阜県総合医療センター：山中、脇田、渡邉、福永、羽生田、葛谷、戸本
病棟における目標管理を推進するためのリーダーの育成	機：鈴木 セ：田辺	岐阜市民病院：廣瀬、伏屋、小松、佐伯、岡田
働く人びとを対象とした質の高い保健指導の実現に向けた取り組み	成：梅津、北村 地：山田	西日本電信電話（株）東海健康管理センタ：桑原、坂本 鷲見病院郡上健診センター：道中、木村 （株）ブリヂストン関工場：池戸 一般社団法人ぎふ綜合健診センター：酒井
看護の専門性を育成する看護管理部門と病棟の連携を推進する方法の開発	機：両羽、小西、橋本、百武	関中央病院：山中　岐阜市民病院：小松 羽島市民病院：時吉、小島、古澤 朝日大学歯学部附属病院：堀（ち） 岐阜中央病院：堀（美）
中学校における心の健康教育に関する養護教諭の実践研究の支援	育：世一、長谷部 機：松本	羽島市立竹鼻中学校：濱田 大垣市立星和中学校：平小瀬 海津市立平田中学校：西脇 岐阜市立長良西小学校：浅野
精神障害者が地域生活を継続するための支援体制の構築	セ：岩村 地：北山、松下、山田、大井	岐阜保健所：道添、中土、横山 山県市健康介護課：河村 笠松町福祉健康センター：今枝
退院・地域生活移行を目指した精神科長期在院患者とその家族への看護の検討	地：石川、葛谷、高橋（未）、北山、松下	大湫病院：纐纈、西尾、荒川 岐阜病院：黒田、松岡、伏屋 慈恵中央病院：家田、清水、此嶋 須田病院：橋戸、髙江、岩村 のぞみの丘ホスピタル：安藤、桂川、藤村、川嶋、原、七森

平成 25 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
特別養護老人ホームにおける看護職と介護職の円滑な連携に関する実践の検討	成：窪内、古川、星野、浅井、堀田 地：日比野	サンシャイン美濃白川：安江 ビアンカ：酒井、糟谷 ナーシングケア寺田：水谷　　恵翔苑：吉村 県立寿楽苑：金子 サンビレッジ新生苑：本間、桑田 チェリーヴィラ広見苑：水草
妊娠期から継続したハイリスク妊産褥婦への育児支援の検討	育：名和、服部（律）、布原、武田、纐纈、松山	長良医療センター：平岡、大嶋
利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた人材育成モデルの開発	地：藤澤、黒江、杉野、髙橋（智）	ひだ訪問看護ステーション：山本 久美愛厚生病院：小林、冨田、島中
がん患者の在宅療養支援体制充実に向けた取り組み	成：奥村、布施、浅井、斉木	羽島市民病院：中川、吉田、佐藤、尾畑 羽島市医師会訪問看護ステーション：加藤 岩佐医院：内木 不破医院：久保

平成 26 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：田中、山田、松下、大井、堀、森、北山 セ：大川、岩村	岐阜県保健医療課：山田、井上 岐阜保健所：中土、居波
保健・医療・福祉が連携した精神障がい者の地域生活支援体制のあり方	地：松下、杉野、石川、山田、大井、葛谷、高橋（未）	岐阜県保健医療課：森　　中濃保健所：今尾 美濃加茂市：木谷、平田　　可児市：田中 坂祝町：澤田　　富加町：原田　　川辺町：石井 七宗町：田中、平田　　八百津町：小林 白川町：三尾、千野　　東白川村：桂川 御嵩町：土本、木村 のぞみの丘ホスピタル：安江、藤田、山中、北原、安藤
医療機関における認定看護師の活動の充実に向けた検討	地：藤澤 成：北村 育：武田	久美愛厚生病院：垣根、島中、冨田、沖本、畑尻、山本
中堅看護師育成のための実践の振り返りを用いた院内教育プログラムの検討	成：北村、布施 機：両羽	岐北厚生病院：鷲見、田中、太田、桑原、宮川 元・岐北厚生病院：森本
看護の専門性を育成する看護管理部門と病棟の連携を推進する方法の開発	機：両羽、橋本、鈴木、百武	関中央病院：山中　　岐阜市民病院：小松 羽島市民病院：時吉、小島、古澤 朝日大学歯学部附属病院：堀（ち） 岐阜中央病院：堀（美）　　村上記念病院：浅野
精神障害者が地域生活を継続するための支援体制の構築	セ：岩村 地：北山、松下、山田、大井	岐阜保健所：伊藤、中土、横山 山県市健康介護課：河村 笠松町福祉健康課：今枝
退院・地域生活移行を目指した精神科長期在院患者とその家族への看護の検討	地：石川、葛谷、高橋（未）、松下、北山	大湫病院：纐纈、荒川、水野 岐阜病院：伊藤、成瀬、伏屋 須田病院：橋戸、河戸、岩村 のぞみの丘ホスピタル：安藤、七森、桂川、川嶋、原
利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた人材育成モデルの開発	地：藤澤、髙橋（智）、杉野、黒江	ひだ訪問看護ステーション：山本 久美愛厚生病院：小林、冨田、島中
障がい児を対象とした地域連携における小児看護専門看護師の役割の検討	育：勝田、谷口、長谷部、服部（佐）	岐阜県総合医療センター：若山、古田 岐阜県立希望が丘学園：遠渡
A 地域における在宅療養支援体制の充実に向けた取り組み	成：奥村、布施、浅井、斉木	羽島市民病院：中川、吉田、佐藤 羽島市医師会訪問看護ステーション：加藤
妊娠期からのハイリスク妊婦への支援および医療機関と地域保健の連携についての検討	育：名和、服部（律）、布原、武田、纐纈、田中	岐阜県立多治見病院：福士、相賀、宮川、丹羽

平成 26 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
特別養護老人ホームに勤務する看護職に対する人材育成の方法の検討	成：古川、窪内、星野、浅井、宇佐美、堀田 地：日比野	サンシャイン美濃白川：安江 ビアンカ：酒井、糟谷 ナーシングケア寺田：水谷　　恵翔苑：吉村 チェリーヴィラ広見苑：水草
人工呼吸器を利用する子どものデイサービス・ショートステイを実現する要素と実践モデルの提案	育：山本、勝田 地：日比野、杉野	岐阜県看護協会訪問看護ステーション：野崎 高山第二訪問看護ステーション：切手、福井、松山、冨澤、上田、畑中、川尻、藤守
中堅看護師のスタッフ教育力向上への組織的取り組み	機：橋本、両羽、鈴木、百武	久美愛厚生病院：島中、冨田、沖本、福澤、牧野
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村 地：山田	一般財団法人総合保健センター：坂下 医療法人岐陽会　サンライズクリニック：酒井

平成 27 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：田中、山田、松下、大井、堀、森、北山 セ：大川、岩村	岐阜県保健医療課：山田、井田 岐阜保健所：北島、井上
保健・医療・福祉が連携した精神障がい者の地域生活支援体制のあり方	地：松下、杉野、石川、山田、大井、葛谷、高橋（未）	岐阜県保健医療課：森　　中濃保健所：窪田、田近 関保健所：末松、二村、野村 前・関保健所：篠田 のぞみの丘ホスピタル：安藤
障がい児を対象とした地域連携における小児看護専門看護師の役割の検討	育：長谷部、服部（佐）、勝田 地：田中 成：布施	岐阜県総合医療センター：若山、古田 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター：遠渡 岐阜大学医学部附属病院：河村
A 地域における在宅療養支援体制の充実に向けた取り組み	成：奥村、布施、浅井、鳴海	羽島市民病院：中川、吉田 羽島市医師会訪問看護ステーション：加藤
妊娠期からのハイリスク妊婦への支援および医療機関と地域保健の連携についての検討	育：名和、服部（律）、布原、武田、松山、田中 セ：小森	岐阜県立多治見病院：福士、相賀、宮川、丹羽
特別養護老人ホームに勤務する看護職に対する人材育成の方法の検討	成：堀田、古川、窪内、星野、浅井、宇佐美、溝口 地：日比野	サンシャイン美濃白川：安江　　ビアンカ：酒井 ナーシングケア寺田：水谷　　恵翔苑：吉村 チェリーヴィラ広見苑：水草
人工呼吸器を利用する子どものデイサービス・ショートステイを実現する要素と実践モデルの提案	育：山本、服部（佐）、澤田 地：杉野、日比野、髙橋（智）	岐阜県看護協会立訪問看護ステーション下呂：野崎 岐阜県看護協会立訪問看護ステーション高山： 切手、福井、松山、冨澤、上田、畑中、川尻、藤守
中堅看護師のスタッフ教育力向上への組織的取り組み	機：橋本、両羽、鈴木、百武、水野	久美愛厚生病院：島中、冨田、沖本、福澤、牧野
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村、布施 地：山田	一般財団法人総合保健センター：坂下、山田 医療法人岐陽会　サンライズクリニック：酒井 岐阜県立下呂温泉病院　健診センター部：長谷川、森腰
地域資源として訪問看護ステーションの機能を高める活動評価方法の開発	地：森、日比野、加藤、原田	いび訪問看護ステーション：大久保、松井
外国籍生徒の健康課題解決に向けた支援方法の検討	機：松本 育：日比	大垣市立西部中学校：鈴木、渡邊 大垣市立江並中学校：藪 大垣市立西中学校：水野
回復期リハビリテーション病棟における看護職・介護職間の協働体制充実に向けた取り組み	地：原田、森 成：古川、星野	山田病院：渡辺、伊丹、野々村、角田
神経難病患者への医療的処置の選択に対する意思決定支援の現状と課題	成：古川、堀田、奥村、布施 地：大井、森	岐阜大学医学部附属病院：堀田 岐阜県保健医療課：今尾 岐阜大学医学部：林
多職種・多機関の連携による退院・地域生活移行を目指した精神科長期在院患者への看護の検討	地：葛谷、石川、髙橋（未）、北山、松下	大湫病院：纐纈、西尾、井澤 岐阜病院：伊藤、成瀬、長田 須田病院：橋戸、河戸、林 のぞみの丘ホスピタル：安藤、七森、桂川、大福根
高齢者の結核の早期発見のための体制の構築	セ：岩村 地：北山、森、松下、山田	岐阜保健所：道添、北島、小里、大坪、梅田

平成 27 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
「気になる母子」への切れ目ない支援体制の充実に向けた検討	育：武田、服部（律）、布原、名和、松山、田中、澤田 セ：小森	長良医療センター：馬場、田口 いとうレディースケアクリニック：棚橋 永田産婦人科：市橋
看護部理念を具現化する看護管理者育成のしくみづくり	機：両羽、橋本、鈴木、百武、水野 成：北村	岐北厚生病院：鷲見、田中、高井
妊娠期からの母子保健活動の充実に向けた取り組み	地：大井、松下、山田 育：武田、山本、布原	八百津町保健センター：木沢、小林、水野、伊佐次、天池
利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた人材育成プログラムの開発	地：藤澤、髙橋（智）、杉野、加藤、黒江	ひだ訪問看護ステーション：山本 久美愛厚生病院：小林、冨田、島中

平成 28 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：山田、田中、松下、大井、堀、森、北山 セ：大川 元・大学：岩村	岐阜県保健医療課：山田、井田 岐阜保健所：北島、井上
保健・医療・福祉が連携した精神障がい者の地域生活支援体制のあり方	地：松下、杉野、石川、山田、大井、葛谷、高橋（未）	岐阜県保健医療課：小里 関保健所：末松、二村、野村
A 地域における在宅療養支援体制の充実に向けた取り組み	成：奥村、布施、浅井、鳴海	羽島市民病院：中川、吉田、丸井 羽島市医師会訪問看護ステーション：加藤
人工呼吸器を利用する子どものデイサービス・ショートステイを実現する要素と実践モデルの提案	育：山本、服部（佐）、澤田 地：杉野、日比野、髙橋（智）	岐阜県看護協会立訪問看護ステーション高山：野崎、切手、松山、冨澤、森脇、今井
中堅看護師のスタッフ教育力向上への組織的取り組み	機：橋本、両羽、百武、水野、安田	久美愛厚生病院：島中、冨田、沖本、福澤、牧野、都竹
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村、布施 地：山田	一般財団法人総合保健センター：山田 医療法人岐陽会　サンライズクリニック：酒井 岐阜県立下呂温泉病院　健診センター部：長谷川 岐阜県産業保健センター：加藤 岐阜車体工業（株）：松久
地域資源として訪問看護ステーションの機能を高める活動評価方法の開発	地：森、日比野、加藤、原田	いび訪問看護ステーション：大久保、松井
外国籍生徒の健康課題解決に向けた支援方法の検討	機：松本 育：日比	大垣市立東中学校：鈴木 大垣市立江並中学校：薮 大垣市立西部中学校：安部、桐山、渡邊 大垣市立西中学校：水野
多職種・多機関の連携による退院・地域生活移行を目指した精神科長期在院患者への看護の検討	地：葛谷、石川、髙橋（未）、北山、松下	大湫病院：奥村、井澤、土屋 岐阜病院：小野、長田、松田 須田病院：橋戸、林、上遠野 のぞみの丘ホスピタル：木澤、土屋、兼松、野村、矢木、大福根、川嶋、原、七森
「気になる母子」への切れ目ない支援体制の充実に向けた検討	育：武田、服部（律）、布原、名和、松山、田中、澤田 セ：小森	長良医療センター：馬場、田口 いとうレディースケアクリニック：棚橋 岩砂病院・岩砂マタニティ：北村
看護部理念を具現化する看護管理者育成のしくみづくり	機：両羽、橋本、百武、水野、安田 成：北村	岐北厚生病院：鷲見、田中、高井
特別養護老人ホームにおける看護職主体で開催する施設内研修体制の充実に向けた取り組み	成：堀田、古川、星野、浅井、宇佐美、斉木 地：日比野 元・大学：窪内	ナーシングケア寺田：那須、田口 サンシャイン美濃白川：安江
病棟看護師が看護に対する意欲を高めながら看護を実践するための病棟主任の役割の検討	成：布施、星野、堀田 機：橋本	岐北厚生病院：越野、宇山、宮川、森

平成 28 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
岐阜県における End-of-Life Care 充実に向けた取り組み	成：奥村、布施、宇佐美、鳴海	木澤記念病院：伊佐治 岐阜大学医学部附属病院：苅谷 東海中央病院：澤井、住田　　岐北厚生病院：田上 岐阜県立多治見病院：土屋、山本 岐阜県総合医療センター：藤内 大垣市民病院：林
養護教諭に求められる能力と能力マップの開発	育：山本、日比	岐阜県加茂教育事務所：西田 岐阜県中央子ども相談センター：大城戸 山県市立桜尾小学校：野島
利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた人材育成モデルの開発	地：藤澤、髙橋（智）、杉野、加藤、渡邊、黒江	ひだ訪問看護ステーション：山本 久美愛厚生病院：小林、冨田、島中
地域での生活を基盤にした退院支援における看護の充実	地：藤澤、加藤、髙橋（智）、渡邊、黒江	岐阜県総合医療センター：丹羽、福田
在宅ターミナルケアにおける看護職者の役割の明確化とケアの充実	地：藤澤、加藤、髙橋（智）、渡邊、黒江 成：奥村	医療法人かがやき総合在宅医療クリニック・訪問看護ステーションかがやき：増井、赤池、大口、仲野、中島、小比賀、今枝、磯崎、三原
地域の中核病院における在宅療養に向けた支援の充実	地：加藤、藤澤、髙橋（智）、渡邊、黒江	美濃市立美濃病院：山中、中島、花村、梅村、杉山、山岡、江崎 美濃市立美濃病院 訪問看護ステーション清流：新井

平成 29 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：山田、大井、堀、岡本、森、北山 セ：松下、大川	岐阜県保健医療課：山田、奥村、二村 岐阜保健所：北島、井上
人工呼吸器を利用する子どものデイサービス・ショートステイを実現する要素と実践モデルの提案	育：山本、服部（佐）、澤田 地：杉野、日比野、髙橋（智）	岐阜県看護協会立訪問看護ステーション高山：野崎、森脇、切手、松山 岐阜県看護協会立ナーシングデイ高山：冨澤、今井
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村、布施 地：山田	一般財団法人総合保健センター：山田 医療法人岐陽会　サンライズクリニック：酒井 岐阜県立下呂温泉病院 健診センター部：長谷川 一般財団法人ききょうの丘健診プラザ：加藤 岐阜車体工業（株）：松久
地域資源として訪問看護ステーションの機能を高める活動評価方法の開発	地：日比野、森、髙橋（智）、原田	いび訪問看護ステーション：松井、髙橋、鈴木、清水 揖斐厚生病院：大久保
「気になる母子」への切れ目ない支援体制の充実に向けた検討	育：服部（律）、武田、布原、名和、松山、澤田 セ：小森	長良医療センター：馬場、田口 岩砂病院・岩砂マタニティ：北村 いとうレディースケアクリニック：棚橋
岐阜県における End- of -Life Care 充実に向けた取り組み	成：奥村、布施、宇佐美、鳴海	木沢記念病院：伊佐治 岐阜大学医学部附属病院：苅谷 東海中央病院：澤井、住田　　岐北厚生病院：田上 岐阜県立多治見病院：土屋 岐阜県総合医療センター：藤内 大垣市民病院：林 春日井リハビリテーション病院：山本
在宅ターミナルケアにおける看護職者の役割の明確化とケアの充実	地：藤澤、渡邊、黒江 成：奥村	医療法人かがやき総合在宅医療クリニック・訪問看護ステーションかがやき：増井、赤池、大口、仲野、中島、田爪、今枝、平澤、三原
入退院を繰り返すがん患者への看護の質の向上に向けた取り組み	成：浅井、奥村、北村、布施、堀田	羽島市民病院：中川、吉田、伊藤、大橋、吉川、横山
特別養護老人ホームにおける利用者への薬剤管理の充実にむけて	成：堀田、古川、星野、宇佐美、浅井、斉木	社会福祉法人サンシャイン福祉振興会 サンシャイン美濃白川：安江、田代、川尻
女性特有のライフサイクル上の課題を持ちながら治療を受ける乳がん患者に必要な看護支援の検討	成：布施、奥村、斉木 育：茂本	岐阜県総合医療センター：渡邉、福永、脇田、羽生田、廣瀬、笠原、早津

平成 29 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
地域包括ケア病棟における退院支援の課題と取り組みの検討	成：古川、宇佐美、堀田 地：藤澤	揖斐厚生病院：鈴木、中嶋 いび訪問看護ステーション：西脇
医療機関においてがん患者の就労支援を実践できる看護師育成への取り組み	成：梅津、奥村、布施、鳴海、橋本（薫） 機：橋本（麻）	岐阜市民病院：葛谷、齊藤
精神科病院認知症疾患治療病棟における BPSD 評価尺度を用いたアセスメントに基づいた看護の検討	地：高橋（未）、石川、葛谷 成：古川、宇佐美	のぞみの丘ホスピタル：七森、佐藤、渡邊、福井
精神科訪問看護のケアの充実に向けた取り組み	地：石川、高橋（未） セ：松下	のぞみの丘訪問看護ステーション：安藤、鈴木、長村、下元、小栗
入院継続を希望する精神科長期入院患者のストレングスに焦点を当てた看護の検討	地：葛谷、石川、高橋（未）	公益社団法人岐阜病院：小野、土田、戸谷
看護管理者のコンピテンシー・モデルを活用した看護管理者育成の取り組み	機：橋本（麻）、両羽、古澤、宗宮、水野、安田	JA 岐阜厚生連久美愛厚生病院：島中、冨田、泉原、石腰、稲垣、山際

平成 30 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：山田、大井、吉村、堀、岡本、森、北山 セ：松下、大川	岐阜県保健医療課：赤尾、井上、小川 岐阜保健所：吉村、二村
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村、布施 地：山田	一般財団法人総合保健センター：山田（靖） （株）トーエネックサービス：酒井 岐阜県立下呂温泉病院　健診センター部：長谷川 一般財団法人ききょうの丘健診プラザ：加藤、山田（真） 岐阜車体工業（株）：松久
地域資源として訪問看護ステーションの機能を高める活動評価方法の開発	地：日比野、森、原田	いび訪問看護ステーション：松井、髙橋、鈴木、清水
「気になる母子」への切れ目ない支援体制の充実に向けた検討	育：服部（律）、武田、布原、名和、山本、松山、澤田、田中 セ：小森	長良医療センター：馬場、田口 岩砂病院・岩砂マタニティ：北村 いとうレディースケアクリニック：棚橋 中濃厚生病院：市橋
在宅でのターミナルケアにおける看護職者の役割の明確化とケアの充実	地：藤澤、渡邊、黒江 成：奥村、浅井	医療法人かがやき総合在宅医療クリニック・訪問看護ステーションかがやき：増井、赤池、大口、仲野、中島、田爪、今枝、三原、丹羽
入退院を繰り返すがん患者への看護の質の向上に向けた取り組み	成：浅井、奥村、北村、布施、堀田	羽島市民病院：中川、吉田、伊藤、大橋、吉川、近藤、廣瀬、横山
医療機関においてがん患者の就労支援を実践できる看護師育成への取り組み	成：梅津、奥村、布施、鳴海、橋本（薫） 機：橋本（麻）	岐阜市民病院：葛谷、齊藤
精神科訪問看護のケアの充実に向けた取り組み	地：石川、葛谷、河村 セ：松下	のぞみの丘訪問看護ステーション：安藤、鈴木、小栗、河尻
入院継続を希望する精神科長期入院患者のストレングスに焦点を当てた看護の検討	地：葛谷、石川	公益社団法人岐阜病院：小野、土田、田中、戸谷
看護管理者のコンピテンシー・モデルを活用した看護管理者育成の取り組み	機：橋本（麻）、水野、両羽、古澤、安田、梅村	JA 岐阜厚生連久美愛厚生病院：島中、冨田、泉原、石腰、稲垣、山際
チームワークを高め効率的かつ効果的に看護を実践していく方法の開発	機：両羽、橋本（麻）、古澤、水野、安田、梅村	羽島市民病院：加藤、古田、黒田、下脇、不破、鈴木、村林、松本、山本
地域包括ケア病棟での退院支援に対する患者満足度と退院支援の充実に向けた検討	成：古川、北村、宇佐美、堀田 地：藤澤	揖斐厚生病院：鈴木、中嶋、山之上

平成 30 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
利用者が安心して特別養護老人ホームでの暮らしを始めるための多職種による支援	成：古川、星野、宇佐美、浅井、堀田、橋本（薫）	社会福祉法人浩仁会　介護老人福祉施設桜坂：大井 社会福祉法人浩仁会メディカルケアセンターIB：泊、長谷川 社会福祉法人浩仁会特別養護老人ホームまほろば：杉原
在宅で薬物療法を行う人々を支援する地域包括ケア病棟における取り組み	成：北村、浅井、堀田 機：古澤	JA 岐阜厚生連西美濃厚生病院：児玉、谷口、安田、田邉、安藤
A 産科クリニックにおける妊娠期から産褥期におけるメンタルヘルスケアの質向上に向けた研究	育：布原、服部（律）、松山、名和、武田、田中 セ：小森	葵鐘会　アルプスベルクリニック：黒木、山越、石垣、田中、隅田、山口

令和元年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：山田、大井、吉村、堀、岡本、森、北山 セ：松下、大川	岐阜県保健医療課：赤尾、井上、小川 岐阜保健所：吉村、二村
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村、布施 地：山田	一般財団法人総合保健センター：山田（靖） （株）トーエネックサービス：酒井 岐阜県立下呂温泉病院　健診センター部：長谷川 岐阜車体工業（株）：松久 一般財団法人ききょうの丘健診プラザ：加藤、山田（真）
在宅でのターミナルケアにおける看護職者の役割の明確化とケアの充実	地：藤澤、渡邊、黒江 成：奥村、浅井	医療法人かがやき総合在宅医療クリニック・訪問看護ステーションかがやき：増井、仲野、三原、大口
医療機関においてがん患者の就労支援を実践できる看護師育成への取り組み	成：梅津、奥村、布施、鳴海、橋本（薫）、桐生 機：橋本（麻）	岐阜市民病院：葛谷、齊藤
A 産科クリニックにおける妊娠期から産褥期におけるメンタルヘルスケアの質向上に向けた研究	育：布原、服部（律）、松山、名和、武田、齋藤 セ：小森	葵鐘会　アルプスベルクリニック：黒木、山越、石垣、田中、隅田、山口
コンピテンシーを基盤とした管理行動が実現できる主任看護師の育成方法に関する研究	機：古澤、両羽、橋本（麻）、水野、宗宮、安田	岐阜・西濃医療センター揖斐厚生病院：折戸、宗宮、加藤
地域包括ケア病棟における退院支援の充実に向けた取り組み	成：古川、北村、宇佐美、堀田 地：藤澤	岐阜・西濃医療センター揖斐厚生病院：山之上、大久保、中嶋、鈴木
三次医療機関の産科外来における妊娠期からの支援の検討	育：名和、服部（律）、武田、布原、松山、齋藤 セ：小森	岐阜県立多治見病院：村田、相賀、福士、今村
看護実践の質向上を目指した病院看護部看護研究委員会の活動の充実	成：奥村、北村、古川 機：両羽 セ：黒江、大川	高山赤十字病院：重盛、井上、大坪、野々尻、西田、和田、森前、滝村、土下、嶋田
病棟看護師の業務リーダーの教育体制を整備し、役割を発揮するための取り組み	成：浅井、北村、布施、堀田、鳴海	羽島市民病院：近藤、吉川、伊藤、浅野、横山、吉田、木下
生活者として支援する能力の向上をめざした退院後訪問を活用した病棟学習会の取り組み	成：北村、浅井、堀田 機：古澤	岐阜・西濃医療センター西美濃厚生病院：安田、池井、吉野、山田 訪問看護ステーションようろう：高間
病棟看護における退院支援の充実に向けた取組み	地：加藤、藤澤、渡邊、黒江 セ：田辺	岐阜清流病院：井奈波、本田、山田、小野 岐阜清流病院訪問看護ステーション：水谷
在宅療養を継続するために外来看護師に求められている看護の検討	成：布施、北村、浅井 機：古澤、水野	岐阜・西濃医療センター揖斐厚生病院：君垣、小森、馬渕、高橋、東、今井
緩和ケア病棟の看護師がおこなう遺族ケアの質向上のための取り組み	成：布施、鳴海、桐生 育：松山	公立学校共済組合東海中央病院：澤井、平澤、小栗、住田
周産期母子医療センターの看護職が実践する小児退院支援の現状と課題	セ：茂本、田辺	岐阜県総合医療センター：若山、後藤、石原

令和 2 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：山田、大井、吉村、堀、岡本、森、北山 セ：松下、大川、米増	岐阜県保健医療課：赤尾、森、小川 岐阜保健所：井上、二村
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村、布施 地：山田	一般財団法人総合保健センター：山田（靖） （株）トーエネックサービス：酒井 岐阜県立下呂温泉病院　健診センター部：長谷川 岐阜車体工業（株）：松久 一般財団法人ききょうの丘健診プラザ：山田（真）
医療機関においてがん患者の就労支援を実践できる看護師育成への取り組み	成：梅津、奥村、布施、鳴海、桐生 機：橋本（麻）	岐阜市民病院：葛谷、齊藤
A 産科クリニックにおける妊娠期から産褥期におけるメンタルヘルスケアの質向上に向けた研究	育：布原、服部（律）、松山、名和、武田、吉岡 セ：小森	葵鐘会　アルプスベルクリニック：黒木、山越、石垣、田中、尾﨑、隅田、山口
三次医療機関の産科外来における妊娠期からの支援の検討	育：名和、服部（律）、武田、布原、松山、吉岡 セ：小森	岐阜県立多治見病院：村田、相賀、福士、今村
看護実践の質向上を目指した病院看護部看護研究委員会の活動の充実	成：奥村、北村、古川 機：両羽 セ：黒江、大川、米増	高山赤十字病院：上野、重盛、井上、田中、野々尻、西田、和田、森前、滝村、土下、嶋田
病棟看護師の業務リーダーの教育体制を整備し、役割を発揮するための取り組み	成：浅井、北村、布施、堀田、鳴海	羽島市民病院：近藤、吉川、伊藤、白木、矢野、横山、吉田、大内、木下
在宅療養を継続するために外来看護師に求められている看護の検討	成：布施、北村、浅井 機：古澤、水野	岐阜・西濃医療センター揖斐厚生病院：君垣、小森 高橋、今井
緩和ケア病棟の看護師がおこなう遺族ケアの質向上のための取り組み	成：布施、鳴海、桐生 育：松山	東海中央病院：澤井、平澤、小栗、住田
地域包括ケア病棟入院患者への急性期から行う退院支援	成：古川、北村、宇佐美、堀田 地：藤澤	岐阜・西濃医療センター揖斐厚生病院： 山之上、大久保、國枝、堀尾、大橋
独居の高齢終末期患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実践の向上に向けた取り組み	成：宇佐美、布施、古川	小笠原訪問看護ステーション：松永、渡邉、木村 元・小笠原訪問看護ステーション （現　岐阜聖徳学園大学）：高田
コンピテンシー・モデルを活用した看護管理者の育成に関する研究	機：宗宮、両羽、橋本（麻）、古澤、水野、安田	岐阜・西濃医療センター揖斐厚生病院：宗宮、折戸
周産期母子医療センターの看護職が実践する小児退院支援の現状と課題	育：茂本、岡永、服部 機：田辺	岐阜県総合医療センター：若山、古田

令和 3 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：山田、松下、大井、吉村、堀、岡本、森、北山 機：米増 セ：大川	岐阜県保健医療課：赤尾、森、小川 岐阜保健所：井上、二村
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村、布施 地：山田	一般財団法人総合保健センター：山田（靖） 一般財団法人ききょうの丘健診プラザ：山田（真） 生活習慣病予防塾：大場
A 産科クリニックにおける妊娠期から産褥期におけるメンタルヘルスケアの質向上に向けた研究	育：布原、服部（律）、松山、名和、齋藤、澤藤 セ：小森	葵鐘会　アルプスベルクリニック： 黒木、山越、石垣、田中、尾﨑、隅田、山口
三次医療機関の産科外来における妊娠期からの支援の検討	育：名和、服部（律）、布原、松山、齋藤 セ：小森	岐阜県立多治見病院：村田、相賀、福士、今村
緩和ケア病棟の看護師がおこなう遺族ケアの質向上のための取り組み	成：布施、鳴海、橋本（薫） 育：松山	東海中央病院：澤井、住田、小栗、平澤

令和 3 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
周産期母子医療センターの看護職が実践する小児退院支援の現状と課題	育：茂本、岡永、服部（佐）、森下、中村、水永 機：田辺	岐阜県総合医療センター：若山、後藤、古田
地域包括ケア病棟入院患者への急性期から行う退院支援	成：古川、北村、宇佐美、堀田 地：藤澤	揖斐厚生病院：山之上、大久保、國枝、堀尾、高見
独居の高齢患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの充実に向けた取り組み	成：宇佐美、布施、古川 地：松下	小笠原訪問看護ステーション：松永、本田、渡邉、木村 前・小笠原訪問看護ステーション（現　岐阜聖徳学園大学）：高田
コンピテンシー・モデルを活用した看護管理者の育成に関する研究	機：宗宮、橋本（麻）、米増、古澤 セ：長屋	揖斐厚生病院：宗宮
回復期リハビリテーション病棟における患者と家族の退院後の生活ニーズを基盤とした看護の検討	地：原田、柴田、藤澤 成：斉木、古川	山田病院：渡辺、野原、森、角田、安藤
心臓カテーテル検査をうける就学前の子どもへのプレパレーションを用いた支援の充実	育：服部（佐）、岡永、茂本、中村、森下、水永	岐阜県総合医療センター：加藤、布俣、飯沼、若山
介護医療院におけるエンド・オブ・ライフケアの充実に向けた取り組み	成：船橋、北村、宇佐美、堀田 セ：奥村	西美濃厚生病院介護医療院：林、村田、安田、丹羽
看護実践の充実・改善につながる看護研究活動に向けた支援体制の構築と人材育成	セ：大川、奥村、長屋 地：松下 機：田辺	土岐市立総合病院：飯盛、稲垣、曽我、小嶋 東濃厚生病院：中嶋、勝川、柘植、宮下、斯波
腹膜透析療法を受けている患者の療養生活を支える看護の充実	地：藤澤、加藤、柴田	岐阜市民病院：三浦、早矢仕、久保田、細野
A 病院における現任教育体制の再構築のための取り組み	機：橋本（麻） セ：長屋 成：斉木	羽島市民病院：吉田、中川、横山、小島
A 病院看護師の倫理的課題に基づく人材育成の組織的取組み	機：橋本（麻）、米増、古澤、宗宮、安田	久美愛厚生病院：田口、谷口、岩佐、砂畑、石腰、福澤、冨田

令和 4 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：山田、松下、大井、堀、木下、森、北山、森下 機：米増 セ：大川	岐阜県保健医療課：井上、田中、小川 岐阜保健所：丹羽、横山
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村、布施 地：山田	一般財団法人総合保健センター：山田（靖） 一般財団法人ききょうの丘健診プラザ：山田（真） 生活習慣病予防塾：大場
三次医療機関の産科外来における妊娠期からの支援の検討	育：名和、布原、武田、松山、　齋藤、五十住 元・大学：小森	岐阜県立多治見病院：福士、村田、相賀、今村
心臓カテーテル検査をうける就学前の子どもへのプレパレーションを用いた支援の充実	育：服部（佐）、中村、湯澤、茂本、岡永	岐阜県総合医療センター：加藤、布俣、飯沼、若山
介護医療院におけるエンド・オブ・ライフケアの充実に向けた取り組み	成：船橋、北村、宇佐美、堀田、松永 セ：奥村	西美濃厚生病院介護医療院：村田、林、内田、安田、丹羽
看護実践の充実・改善につながる看護研究活動に向けた支援体制の構築と人材育成	セ：大川、長屋、奥村 地：松下	土岐市立総合病院：飯盛、稲垣、曽我、小嶋 東濃厚生病院：中嶋、勝川、柘植、宮下、斯波
腹膜透析療法を受けている患者の療養生活を支える看護の充実	地：藤澤、加藤、柴田	岐阜市民病院：三浦、早矢仕、森、井上、佐竹
A 病院における現任教育体制の再構築のための取り組み	機：橋本（麻） セ：長屋 成：斉木	羽島市民病院：吉田、中川、横山、小島

令和 4 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
A 病院看護師の倫理的課題に基づく人材育成の組織的取組み	機：橋本（麻）、米増、古澤、宗宮、安田、太田、吉川	久美愛厚生病院：田口、中林、岩佐、砂畑、石腰、福澤、岩田、冨田
慢性腎臓病保存期の人々を対象とした継続的な個別面談支援の充実	成：北村、浅井、斉木 セ：奥村 地：柴田	東海中央病院：薄井、五島、臼井、太田、清水、今江、森野、松原、三浦
精神科入院患者の地域生活への移行・定着を支援するための看護の充実	地：石川、高橋（未）、葛谷	岐阜市民病院：篠原、早川、服部、長尾、鈴木
誤嚥・窒息アセスメントシートを活用した看護実践能力向上への取り組み	機：古澤、宗宮 成：宇佐美、橋本（薫）	岐阜市民病院：宮田、篠原、三浦、佐々木、渡辺、池戸、五島、川島
子育て支援施策の充実に向けて市町村保健師の活動を支援する方策の検討	地：大井、堀、木下、山田、松下、森、北山、森下 セ：大川	岐阜県健康福祉部　子ども・女性局子育て支援課：丹羽、宗宮
A 地域における持続可能な多職種による周産期メンタルヘルスカンファレンスに関する研究	育：布原、松山、名和、武田、齋藤、五十住 元・大学：小森	アルプスベルクリニック：黒木、山越、石垣、尾﨑、山口
二次周産期医療機関における妊娠期からの支援のあり方の検討	育：松山、布原、名和、武田、齋藤、五十住 元・大学：小森	岩砂病院・岩砂マタニティ：北村、服部、大橋、濱野
回復期リハビリテーション病棟における高次脳機能障害をもつ患者とその家族の退院後の生活ニーズを基盤とした看護の充実に向けた取り組み	地：原田、藤澤、柴田 成：古川、斉木	山田病院：森、野原、森田、安藤

令和 5 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：山田、松下、大井、堀、岡本、木下、森、北山 機：米増 セ：大川	岐阜県保健医療課：井上、田中、小川 岐阜保健所：丹羽、横山
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、北村、布施 地：山田	一般財団法人総合保健センター：山田（靖） 一般財団法人ききょうの丘健診プラザ：山田（真） 生活習慣病予防塾：大場
三次医療機関の産科外来における妊娠期からの支援の検討	育：名和、武田、布原、松山、高橋（千）	岐阜県立多治見病院：福士、相賀、今村、赤井
緩和ケア病棟の看護師がおこなう遺族ケアの質向上のための取り組み	成：布施、橋本（薫）、古川、廣永 育：松山	東海中央病院：杉原、天野、平澤、住田、小栗、澤井
看護実践の充実・改善につながる看護研究活動に向けた支援体制の構築と人材育成	セ：大川、長屋、奥村 地：松下	土岐市立総合病院：飯盛、曽我、小嶋、宮下、渡邉 東濃厚生病院：中嶋、柘植、斯波
腹膜透析療法を受けている患者の療養生活を支える看護の充実	地：藤澤、加藤（由）、柴田	岐阜市民病院：三浦、早矢仕、森
慢性腎臓病保存期の人々を対象とした継続的な個別面談支援の充実	成：北村、浅井、中井 セ：奥村 地：柴田	東海中央病院：薄井、岡田、臼井、太田、清水、今江、森野、松原、　三浦
精神科入院患者の地域生活への移行・定着を支援するための看護の充実	地：石川、高橋（未）、葛谷 セ：足立	岐阜市民病院：早川、服部、鈴木 前・岐阜市民病院：篠原
誤嚥・窒息アセスメントシートを活用した看護実践能力向上への取り組み	機：古澤 成：宇佐美、橋本（薫）	岐阜市民病院：宮田、三浦、佐々木、渡辺、池戸、五島、川島 前・岐阜市民病院：篠原
A 地域における持続可能な多職種による周産期メンタルヘルスカンファレンスに関する研究	育：布原、松山、名和、武田、高橋（千）	葵鐘会　アルプスベルクリニック：黒木、山越、石垣、尾﨑、山口
二次周産期医療機関における妊娠期からの支援のあり方の検討	育：松山、布原、名和、武田、高橋（千）	岩砂病院・岩砂マタニティ：北村、服部、大橋、濱野

令和 5 年度共同研究一覧　（続き）

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
回復期リハビリテーション病棟における高次脳機能障害をもつ患者とその家族の退院後の生活ニーズを基盤とした看護の充実に向けた取り組み	地：原田、柴田、藤澤 成：松永、古川	山田病院：児玉、野原、森田、安藤
A 病院におけるその人らしさを尊重した看護実践の質向上のための人材育成の組織的取り組み	機：橋本（麻）、米増、古澤、安田、太田 セ：長屋 元・大学：吉川（志）	久美愛厚生病院：小林、岩田、畑尻、堀畑、堀井、上手、山崎、藤井、山際、秋津、上野、山越、岩見
地域特性を考慮した医療機関と職場の協働によるがん患者の両立支援を促進する人材育成の取組み	成：梅津、布施、船橋、橋本（薫）、廣永 地：原田 セ：奥村	PEC ホールディングス株式会社：斉藤 岐阜・西濃医療センター　西濃厚生病院：君垣
自閉スペクトラム症児を育てる家族への外来看護の充実に向けた検討	育：茂本、中村 地：堀 セ：大川	希望が丘こども医療福祉センター：高木、近藤、廣瀬、宮部

令和 6 年度共同研究一覧

研究課題	共同研究者	
	本学（領域名：氏名）	実践現場（施設名：氏名）
保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方	地：山田、松下、大井、堀、木下、岡本、森、北山 セ：大川	岐阜県保健医療課：居波、田中、山内 岐阜保健所：五十川、宮島
産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討	成：梅津、布施、北村、齋藤（空） 地：山田	一般財団法人ききょうの丘健診プラザ：山田（真） 一般財団法人総合保健センター：山田（靖） 前・生活習慣病予防塾：大場 一般財団法人　岐阜健康管理センター：細野
三次医療機関の産科外来における妊娠期からの支援の検討	育：名和、布原、松山、齋藤（朋）、高橋（千）、澤藤	岐阜県立多治見病院：福士、相賀、今村、赤井
緩和ケア病棟の看護師がおこなう遺族ケアの質向上のための取り組み	成：布施、橋本（薫）、古川、廣永 育：松山	東海中央病院：杉原、天野、平澤、住田、小栗、澤井
回復期リハビリテーション病棟における高次脳機能障害をもつ患者とその家族の退院後の生活ニーズを基盤とした看護の充実に向けた取り組み	地：原田、髙橋（智）、藤澤 成：古川	山田病院：白井、児玉、中平、安藤、森田
A 病院におけるその人らしさを尊重した看護実践の質向上のための人材育成の組織的取り組み	機：橋本（麻）、古澤、河合、宗宮、安田、太田 セ：長屋	久美愛厚生病院：小林、岩田、堀畑、畑尻、山際、秋津、上野、山越、岩見、山崎、藤井、堀井、上手
地域特性を考慮した医療機関と職場の協働によるがん患者の両立支援を促進する人材育成の取組み	成：梅津、船橋、布施、廣永、橋本（薫）、齋藤（空） 地：原田 セ：奥村	PEC ホールディングス株式会社：斉藤 岐阜・西濃医療センター　西濃厚生病院：君垣
自閉スペクトラム症児を育てる家族への外来看護の充実に向けた検討	地：堀 育：中村（彩） セ：大川	希望が丘こども医療福祉センター：近藤、高木、廣瀬、宮部
血液腫瘍性疾患に罹患し、化学療法を受けた学童期の子どもをもつ家族が退院早期に抱く不安や困難さと支援の実際	育：服部、中村（彩）、内木、岡永	岐阜市民病院：小川、大脇
看護実践の質向上に向けたパートナーシップ・ナーシング・システムの充実	機：安田、橋本（麻）、古澤、河合、宗宮、太田、中村（将） セ：長屋	久美愛厚生病院：小林、岩田、堀畑、上野、渡邉、上坪、沖本、田口、都竹、山崎、袈裟丸、今井
がん患者の意向を尊重した看護を行うための外来化学療法センターと他部署の連携の充実	成：船橋、梅津、北村、布施、中井、廣永	岐阜県総合医療センター：戸本、石原

２．共同研究に関連した研究報告一覧（岐阜県立看護大学紀要掲載分）

共同研究に関連した研究報告一覧（岐阜県立看護大学紀要掲載分）

年度	巻号	種類	タイトル	著者
平成12年度	1巻1号	報告	介護者の介護認識の現状と介護価値を高めるための援助方法	米増直美，松下光子，大川眞智子，松山洋子
			山間地域における在宅虚弱高齢者・障害者支援のあり方	坪内美奈，大井靖子，森仁実，杉野緑
			高齢者援助のための保健婦活動のあり方	岩村龍子，両羽美穂子，三浦一恵
			G 県下の保健所・市町村におけるターミナルケアの実態	米増直美，八木彌生，小野幸子，田中克子，服部律子，田中千代
			G 県下の小児医療におけるターミナルケアの実態―家族へのケアに焦点をあてて―	田中千代，服部律子，小野幸子，田中克子，水野知穂，八木彌生，米増直美
			G 県の特別養護老人ホームにおける看取りの実態	小野幸子，田中克子，梅津美香，古川直美，兼松惠子，水野知穂，北村直子，小田和美，奥村美奈子，坂田直美
			成人・老人を対象とした G 県下の病院におけるターミナルケアの実態	田中克子，小野幸子，服部律子，田中千代，米増直美，八木彌生，古川直美，兼松惠子，梅津美香，北村直子，水野知穂，奥村美奈子，小田和美，坂田直美
平成13年度	2巻1号	報告	保健婦の援助の特質を引き出す方法の試み	大井靖子，坪内美奈，石井康子
			岐阜県における糖尿病教育の現状：その 1	黒江ゆり子，藤澤まこと，普照早苗
			地域の育児実態との関連における高齢者支援体制の検討	岩村龍子，北山三津子，両羽美穂子，菱田一恵，平山朝子
			G 県下でターミナルケアに取り組む一般病院の現状	田中克子，奥村美奈子，北村直子
			老人保健施設におけるターミナルケアについての看護職者の考え方と取り組み	梅津美香，坂田直美，小野幸子，原敦子
			G 県における知的障害者更生施設のターミナルケアの実態	兼松惠子，古川直美，小野幸子
			総合病院における看護婦のターミナルケアに対する意識	小野幸子，古川直美，西嶋房子，藤田峯尾
平成14年度	3巻1号	原著	臨床看護師のキャリア発達の構造	グレッグ美鈴，池邉敏子，池西悦子，林由美子，平山朝子
		報告	精神病院の一急性期病棟での家族援助の実態	池邉敏子，グレッグ美鈴，高橋香織，池西悦子，山内美代子
			岐阜県下産業看護の現状	上野美智子，梅津美香，奥井幸子，栗田孝子，林由美子，兼松惠子，奥村美奈子，斎藤和子，佐藤澄子，多和田千枝子，水野由美，加藤静子
			外来看護師が受けた患者からの相談の実態	古川直美，　松山洋子，　加藤仁規子
			難病患者の療養体制の充実に向けた共同研究の成果	古川直美，篠田征子，米増直美，松山洋子，黒江ゆり子，北山三津子，杉野緑，森仁実，松下光子，坪内美奈，菱田一恵，大井靖子，岩村龍子，長谷川桂子，石井康子，平山朝子，横谷克美，田中照美
			介護療養型医療施設における看護管理者が捉えた高齢者の終末期ケアの現状と課題	坂田直美，原敦子，小野幸子，早崎幸子，渡邉ひとみ，野々村好美，梶野厚子，横井恵子
		資料	特別養護老人ホームに働く看護職との共同研究を目指した検討会の歩み－中間報告－	小野幸子，坂田直美，早崎幸子，原敦子，奥村美奈子
平成15年度	4巻1号	報告	在宅療養者の服薬にかかわる訪問看護の実態と課題	普照早苗，藤澤まこと，松山洋子，渡邊清美，加藤智美，中川みのり
			精神科病棟での家族援助の実際と課題	池邉敏子，グレッグ美鈴，高橋香織，池西悦子，山内美代子
			一般病院における看護師の対応に対する患者と家族の満足度：第 1 報	古川直美，小野幸子，林幸子，廣瀬文子，藤田峯尾，広瀬隆子，河瀬久美，野田洋子，藤井香珠代
		資料	共同研究と実習の関連における現状と課題	グレッグ美鈴，大川眞智子，岩村龍子，平山朝子

共同研究に関連した研究報告一覧（岐阜県立看護大学紀要掲載分）　（続き）

年度	巻号	種類	タイトル	著者
平成16年度	5巻1号	報告	精神疾患をもつ長期在院患者の社会復帰に向けての看護実践と課題（第一報）	片岡三佳，高橋香織，グレッグ美鈴，池西悦子，池邉敏子，長瀬義勝，家田重博，纐纈富久，村岡大志
			精神科病棟での家族援助の内容と気づきの検討	池邉敏子，片岡三佳，高橋香織，グレッグ美鈴，池西悦子，山内美代子
		資料	共同研究実施者の意見に基づく事業の見直しと課題	グレッグ美鈴，岩村龍子，大川眞智子，平山朝子
			一般病院でのターミナルケアへの質の向上を目指す取り組み	田中克子，梅津美香，グレッグ美鈴，北村直子，小田和美，奥村美奈子，小野幸子
平成17年度	6巻2号	原著	事例から見いだした一般病院におけるがん患者のターミナルケア仮説モデルの提案	田中克子，奥村美奈子，梅津美香，北村直子，小田和美
		報告	現地参加者の専門職としての成長からみた共同研究の意義	池西悦子，栗田孝子，奥井幸子
		資料	県内産科施設の母乳育児の実態と課題	服部律子，堀内寛子，布原佳奈，谷口通英
平成18年度	7巻1号	報告	精神疾患をもつ長期在院患者の社会復帰に向けての看護実践と課題（第二報）－職位による看護職の認識－	高橋香織，片岡三佳，長瀬義勝，家田重博，纐纈富久，村岡大志
			主たる介護者への面接調査による重度重複障害のある子どもの活動性の促進に関する研究	泊祐子，長谷川桂子，石井康子，豊永奈緒美，普照早苗，大野久美，近松由美子，箕浦直美，池戸晴美
			地域における行政と育児サークルが協働で行う多胎児支援	服部律子，布原佳奈，名和文香
	7巻2号	報告	赤ちゃんにやさしい病院（BFH）における母乳育児支援の実態と課題	名和文香，服部律子，堀内寛子，布原佳奈，谷口通英，大法啓子
		資料	看護実践者・教員双方の自己点検評価による共同研究事業の課題	岩村龍子，大川眞智子，奥村美奈子，小野幸子，片岡三佳，北山三津子，布原佳奈，橋本麻由里，古田さゆり，会田敬志，小澤和弘，平山朝子
平成20年度	9巻1号	報告	病院から診療所へ体制移行する過疎地域医療機関における看護援助のあり方	普照早苗，田内香織，藤澤まこと，片岡三佳，森仁実，福田ひとみ，田口恭子，桂川恵美，今井さち子，今井千恵子
	9巻2号	報告	赤ちゃんにやさしい病院で母乳育児を体験した母親にとっての母乳育児の意味	服部律子，布原佳奈，名和文香，堀内寛子
			妊娠期から地域・病院・多胎児サークルが協働して行う多胎児支援	名和文香，服部律子，布原佳奈，宮本麻記子，武田順子，谷口通英，坪内美奈，両羽美穂子
			保健師による母乳育児支援の実態調査-支援の方針・援助内容・困ったことに焦点をあてて-	布原佳奈，服部律子，名和文香，　武田順子，宮本麻記子，谷口通英，両羽美穂子，坪内美奈
平成21年度	10巻1号	報告	保健師の実践上の課題と連動させて実習を行なうことの教育効果におよぼす意味	坪内美奈，松下光子，森仁実，大井靖子，宮島ひとみ，山田洋子，大川眞智子，岩村龍子，北山三津子
			過疎地域における訪問看護師の役割に関する検討	普照早苗，田内香織，森仁実，藤澤まこと，今井さち子，安江こず枝，米増直美，片岡三佳
	10巻2号	報告	勤労者看護を実践できる人材育成の方法の検討　―労働生活インタビューと事例検討による研修後のレポートの分析から―	梅津美香，奥田浩子，上野美智子，小林美代子
			重度障がい児の在宅移行への支援に関する NICU 等に勤務する医療従事者の意識	谷口惠美子，松下光子，泊祐子，石井康子，窪田佐知子，長谷川桂子，普照早苗，杉野緑
平成22年度	11巻1号	報告	ブラジル籍児童の健康課題と解決に向けた取り組み　― 児童と保護者の生活実態調査をもとにして―	松本訓枝，鈴木里美，西田倫子

共同研究に関連した研究報告一覧（岐阜県立看護大学紀要掲載分）　（続き）

年度	巻号	種類	タイトル	著者
平成24年度	13巻1号	報告	妊娠期に行政・医療機関・多胎児サークルが協働して行う多胎児教室の検討	名和文香，服部律子，布原佳奈，武田順子
平成25年度	14巻1号	資料	精神科長期入院患者の退院を支援する看護の検討	石川かおり，葛谷玲子，高橋未来，松下光子，北山三津子
			公立小学校に通う外国人児童の健康実態　―児童と保護者の生活実態調査からの検討―	松本訓枝，鈴木里美，世一和子
			病棟における目標管理を推進するためのリーダーの育成　－小グループ活動でのリーダーとしての役割を振り返って－	鈴木里美，田辺満子，廣瀬五十子，伏屋洋子
			養護教諭の資質能力向上・成長の規定要因の検討	世一和子，松本訓枝，小澤和弘
平成27年度	16巻1号	報告	利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた人材育成モデルの開発（第2報）　―退院支援の課題解決に向けた看護職者への人材育成の方策の試行―	藤澤まこと，髙橋智子，杉野緑，黒江ゆり子
		資料	精神科長期入院患者の退院支援における家族への看護の検討　―複数施設で実施する事例検討会を通して―	高橋未来，葛谷玲子，石川かおり，松下光子，北山三津子
			特別養護老人ホームに勤務する看護職に対する人材育成の現状と課題	堀田将士，古川直美，星野純子，窪内敏子，日比野直子，浅井恵理，宇佐美利佳，安江豊子，酒井晶子，水谷由賀子，水草真澄美，吉村久美子
平成28年度	17巻1号	報告	三次医療機関を受診するハイリスク妊婦への継続した支援のあり方	名和文香，服部律子，布原佳奈，武田順子，松山久美，田中真理，小森春佳，福士せつ子，相賀苗子，宮川克江，丹羽尚美
		資料	共同研究「保健・医療・福祉が連携した精神障がい者の地域生活支援体制のあり方」の6年間の取り組みと成果	松下光子，石川かおり，葛谷玲子，杉野緑
平成29年度	18巻1号	原著	利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた人材育成モデルの開発（第3報）	藤澤まこと，加藤由香里，渡邊清美，杉野緑，黒江ゆり子，山本裕子，小林加代子，冨田和代，島中小百合
平成30年度	19巻1号	報告	助産師が認識する「気になる母子」への対応と他機関との連携に関する研究	服部律子，武田順子，名和文香，布原佳奈，松山久美，田中真理，小森春佳，澤田麻衣子
			産業保健活動における健診機関の看護職の役割・機能の拡大に向けた方策の検討	梅津美香，山田靖子，坂下緑，酒井信子，長谷川真希，加藤小百合，松久千花，北村直子，山田洋子，布施恵子
		資料	岐阜県における End-of-Life Care 充実に向けた取り組み	奥村美奈子，宇佐美利佳，布施恵子，鳴海叔子，刈谷三月，伊佐治哲也，田上知恵美，藤内眞理，林ひとみ，澤井美穂，住田俊彦，土屋あすか，山本知枝子
			中堅前期保健師を指導する保健師の意見-指導者研修におけるグループワークから-	堀里奈，山田洋子，岡本美和，大川眞智子，大井靖子，松下光子，森仁実，北山美津子
令和元年度	20巻1号	資料	特別養護老人ホームにおける入居者への薬剤管理の現状と課題	古川直美，堀田 将士，星野純子，宇佐美利佳，浅井恵理，斉木良美，安江豊子，田代あずさ，川尻実奈

共同研究に関連した研究報告一覧（岐阜県立看護大学紀要掲載分）　（続き）

年度	巻号	種類	タイトル	著者
令和2年度	21巻1号	報告	回復期リハビリテーション病棟における看護職・介護職の受持ち体制実施による協働のあり方の検討	原田めぐみ，古川直美，森仁実，星野純子，渡辺るりえ，伊丹和美，野々村朋斐路，角田相模
			がん患者の意向に沿った在宅ターミナルケアの検討　―2事例のがん患者の事例検討における省察より―	藤澤まこと，渡邊清美，奥村美奈子，浅井恵理，黒江ゆり子，増井法子
令和5年度	24巻1号	報告	訪問看護における独居高齢者に対するアドバンス・ケア・プランニング支援の課題と取り組み方法の検討	松永晴世，宇佐美利佳，布施恵子，古川直美，高田恵子，渡邉秀美，木村久美子
			COVID-19拡大期の回復期リハビリテーション病棟における患者と家族の退院後の生活の充実につながる看護	原田めぐみ，柴田万智子，古川直美，藤澤まこと，斉木良美，渡辺るりえ，野原教行，森貴則，安藤弘乃，角田相模
		資料	産業保健活動における健診機関の看護職の役割機能の検討　―看護職の能力向上への取組み―	梅津美香，山田洋子，北村直子，布施恵子，山田真美，山田靖子，大場香澄
			Ａ病院看護職が実感している倫理的課題の特徴	橋本麻由里，安田みき，古澤幸江，米増直美
令和6年度	25巻1号	報告	精神科における再入院患者の地域生活への移行に向けた看護の充実	石川かおり，葛谷玲子，足立円香，高橋未来，篠原朋子，鈴木将史，服部ちなみ，早川圭子，長尾美咲
			倫理的課題に関連した経験の対話による組織的な人材育成の取り組み	橋本麻由里，安田みき，古澤幸江，太田沙也佳

発　行　日：2026 年 3 月
編集・発行：岐阜県立看護大学　看護研究センター
〒501-6295　羽島市江吉良町 3047-1
TEL・FAX：058-397-2326（直通）
URL：https://www.gifu-cn.ac.jp
本冊子の記述、図表（表紙の写真を除く）の著作権は岐阜県立看護大学に帰属します。無断転記は一切お断りします。